令和２年度

研　修　集　録

第52号

秋田県立大館国際情報学院　中 学 校
高等学校

目　次

中学校の研修　４～　７８

１．第１回指定訪問の記録（学級活動）　４～　１１
　　要項(4-5)　指導案（6-8）　研究会(9-11)
２．第２回指定訪問の記録（社会科　理科）　１２～　３６
　　要項(12-14)　社会指導案(15-18)　研究会(19-27)
　　理科指導案(28-32)　研究会(33-36)

３．第３回指定訪問の記録（保健体育　英語）　３７～　５５
　　要項(37-39)　保健体育指導案(40-42)　研究会(43-48)
　　英　語　指導案(49-51)　研究会(52-55)

４．第４回指定訪問の記録（数学　国語）　５６～　７４
　　要項(56-58)　数　学　指導案(59-61)　研究会(62-67)
　　国　語　指導案(68-71)　研究会(72-74)
５．北教育事務所長学校訪問の記録　７５～　７８

高等学校の研修　７９～１０７

１．授業アンケート　８１～　８３
　　要項(79)　項目別集計(80-81)　レーダーチャート(82-83)
２．法定研修の記録　８４～１０７

　　初任者研修　８４～１０５
　　実施報告１(84)　指導案(85-　96)
　　実施報告２(97)　指導案(98- 105)

　　実践的指導力習得研修　１０６～１０７

令和２年度

第１回指定訪問研究会
（学級活動）

研究主題

中高一貫教育校の特色あるキャリア教育を通して，
主体的・意欲的に学ぶ生徒の育成

＜生徒総会＞

＜３年生から学ぶ１年生＞

＜全校花壇作業＞

＜１年生を迎える会＞

令和２年７月１７日（金）

秋田県立大館国際情報学院中学校

《 研究会日程 》

11:40～12:30　研究授業（２年１組　学級活動）
12:35～13:20　昼食・指導主事まとめの時間
13:30～14:10　「教育課程の編成や実施状況」と「学力向上に向けての具体的な取組」についての説明
14:50～16:10　授業研究会

《 研究授業 》

教科等	授業者	単元・題材・資料等	授業教室	研究会会場	指導者
学級活動	菊地　富子	自分の特色を生かした職業について考えよう	２年１組	会議室	小舘　直子 指 導 主 事

《 授業研究会 》

【協　議　主　題】
・キャリア発達課題に基づいた学級活動の在り方
・自己有用感をもち、集団で高め、認め合い、将来に向けて動き出せる生徒の育成の在り方

【協議の主な内容】
・課題意識をもち、解決に向けて主体的・意欲的に学ぶための手立てができていたか。
・自分の考えを適切に伝え、集団で考えを認め合う場面の工夫は適切であったか。

【研 究 会 次 第】　　司会：佐　藤　　記録：木次谷

1　はじめの言葉
2　指導者紹介（教頭から）
3　職員自己紹介
4　協議の仕方・視点の説明（司会）
5　授業者から
6　質疑応答
7　協議
8　指導助言
9　教頭から
10　終わりの言葉

第２学年１組　学級活動指導案

令和２年７月１７日(金)
授業者　菊地　富子
場　所　２年１組

１　題材名　自分の特色を生かした職業について考えよう

２　生徒と題材
（１）題材の目標
　この内容は、個々の生徒の将来に向けた自己実現に関わるものであり、一人一人の主体的な意志決定に基づく実践活動にまでつなげることをねらいとしている。また、将来の生き方を描き、現在の生活や学習のあり方を振り返るとともに、働くことと学ぶことの意義を意識し、社会的・職業的自立に向けて自己実現を図ろうとする態度を養う。

（２）生徒について
　男女とも、発言や活動の核となる生徒はいるが、全体としては静かでおとなしいクラスである。グループ活動では、話合いをしたり、お互いの考えを聞き合ったりすることができる。
＜進路についての調査結果：６月＞

	学　年	２－１
将来就きたい職業は決まっている	６６．１％	６０．８％
将来就きたい職業は決まっていない	３３．９％	３９．１％

「決まっている」と回答した生徒の中には「興味があるから」「複数希望がある」というものも多かった。

＜ＫＪキャリアアンケートの結果（４点満点）：５月＞

【キャリアプランニング能力】	学級平均
１　学ぶこと・働くことの意義について考えたり、今学校で学んでいることと自分の将来とのつながりを考えたりしている。	３．３９
２　自分の将来について具体的な目標を立て、その実現のために考えたりしている。	３．２６
３　不得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組もうとしているか。	３．１７

項目１の結果からは、将来のことに意識が向いてきているといえる。しかし、項目２、３の結果からは、まだまだ将来の進路実現について具体的に行動できていない現状があるといえる。

（３）指導について
　生徒はこれまで、職業に対する自分の適性については、１年生のときに簡単なものを行ったきりである。将来希望する職業を書かせると、「憧れ」や「興味がある」等の漠然とした考えで職業を書く生徒が多かった。今年度の進路学習の中で将来希望する職業を書かせても、興味の幅が狭かったり、職業についての知識や情報量も少なかったりするため、将来の職業について、あまり考えを深めることができない生徒が多く見られた。また、職業に対し興味はもっていても本当にやりたいことかわからないため、迷っているという記述も多く見られた。目指すべき自己の将来像を暫定的に描くには、生き方や進路に関する情報を収集して活用するとともに、これまでの自分を振り返ったり、現在の自分を分析したりして自己の興味・関心や適性を把握することが必要である。
　そこで、事前に進路発見テストを行い、自分に向いているかもしれない職業群を調べ、現在自分が考えている将来の職業と比べる活動を設定したい。今まで気付かなかった自分の一面や職業に目を向けることで、自己理解を深め、自分の適性を進路と関連付けて理解し、進路計画の立案や進路選択に生かしていくきっかけとしたい。

（４）題材とキャリア教育との関わり

課題対応能力【計画実行能力】

将来の職業や夢を思い描き、自分にふさわしい職業や仕事への関心・意欲を高める。

キャリアプランニング能力【選択能力】

自己の個性や興味・関心に基づいて、よりよい選択をしようとする。

３　全体計画

時	主な学習活動	キャリア	指導上の配慮事項
1 5/14	自分が将来何のために働くか考える。	課題対応能力 【計画実行能力】	将来の夢や職業を思い描き、友達の考えも聞きながら職業や仕事への関心・意欲を高めるようにする。
2 6/4	中学卒業後の進路についてどのようなものがあるか考える。	課題対応能力 【計画実行能力】	進路計画を立てる意義や方法を理解し、自分の目指すべき将来を暫定的に計画できるようにする。
3 7/2	高校ではどのようなことを学ぶのか、各学科の内容と卒業後の進路について話を聞く。	キャリアプランニング能力 【職業理解能力】	将来の職業生活との関連の中で、今の学習の必要性や大切さを理解できるようにする。
4 本時	自分の適性にあった職業にはどのようなものがあるか考える。	キャリアプランニング能力 【選択能力】	自己の個性や興味・関心に基づいて、よりよい選択ができるようにする。
5 2月	高校の先生との面談。学科選択と進路について考える。	キャリアプランニング能力 【課題解決能力】	学習や進路選択の過程を振り返り、次の選択場面に生かせるようにする。 よりよい生活や学習、進路や生き方等を目指して、自ら課題を克服していくことの大切さを理解できるようにする。

4　本時の学習計画

（１）本時のねらい

・「進路発見テスト」の結果から、自分の適性について理解することができる。

・自分の適性を進路と関連付けて理解し、進路計画の立案や進路選択に生かそうとする意欲や態度を育てる。

過程	学　習　活　動	指導上の留意点と評価	【キャリア諸能力】
導入 (10)	1　本時の活動テーマを確認する。 ・将来就きたい職業についてのアンケート調査の結果を発表する。 自分の特色を生かせる職業は何だろうか？	・アンケート結果と自分の状況を比べ、共感させたり違いに気付かせたりする。	○自分との共通点や相違点に気付く。 【人間関係・社会形成能力】
展開 (30)	2　職業を選ぶ。 ・事前に行った発見テストの得点が高かった職種を選び、シートに記入する。	・これまでの学習で自分が選んだ職業と比較できるように、事前にシートに記入させておく。	
	3　職業を比較する。 ・発見テストで得点が高かった職業と、自分が選んでいた職業を比較し、気付いたことをシートに記入する。	・選んだ職業の適性に着目させ、自分の考え（希望）と一致していたこと、意外だったこと等を、自分のよさに目を向けて考えられるようにする。	○自分自身の可能性に気付く。 【自己理解・自己管理】
	4　グループで職業を選択するにはどんなことが必要か話し合う。 ・自分の希望とテストの結果を紹介し合い、自分の適性とその職業に就く場合に必要とされる能力について話し合う。 5　話し合ったことを発表する。 ・適性について理解する。	・客観的に自分の個性や特性を知ることも進路計画の参考になることに気付くように、希望する職業とテストの結果の職業の適性を比較させる。 自分らしい生き方の実現に向け、現在の学習や将来の進路についての課題を見いだしている。	○様々な考え方を比較し、自分の見方や考え方を広げる。 【自己理解・自己管理】
まとめ (10)	6　先輩からのメッセージVTRを見る。 7　振り返りをする。	・どのような視点で進路を考えているか、高校生からアドバイスをもらう。 将来の生き方を見通したり、現在の生活や学習を振り返ったりしようとしている。	○自分の課題を理解し、解決策を考え、改善する。 【課題対応能力】

（２）授業検証上の視点

①　課題意識をもち、解決に向けて主体的・意欲的に学ぶための手立てができていたか。

②　自分の考えを適切に伝え、集団で考えを認め合う場面の工夫は適切であったか。

授業研究会記録（学級活動）

会　場　　会議室
授業者　　菊地富子（２年１組）
指導者　　北教育事務所　　指導主事　小舘　直子
参加者　　中学校職員

【協議主題】
・キャリア発達課題に基づいた学級活動の在り方
・自己有用感をもち、集団で高め、認め合い、将来に向けて動き出せる生徒の育成の在り方

【協議の主な視点】
・課題意識をもち、解決にむけて主体的・意欲的に学ぶための手立てができていたか。
・自分の考えを適切に伝え、集団で考えを認め合う場面の工夫は適切であったか。

1　研究協議

(1) 授業者から

・ＫＪは受検がなく、なんとなく進学できる。高校に進学したその先をみて、進路を考えさせたいとの思いがあった。
・学科の選択も，進路と絡めて考えさせていきたい。
・成績が下位の生徒ほど、将来の夢と現実とにギャップがある。
・円グラフを使ったことで意外性があった。少ない方が「決まっている」だと思っていた。
・最後は、職業についてではなく、自分のことについて振り返りをしたいと考えた。
・課題は予定通りのものと「自分はどんな職業に向いているのだろうか」、その場の流れで考えて作ろうと準備していた。恭輔のおかげで予定通りの課題となった。
・高校生のメッセージは、高３生が推薦で大学進学を希望している人、高２生は迷っている人を選んだ。

(2) 質疑応答

なし

(3) 協議

・課題意識をもち、解決にむけて主体的・意欲的に学ぶための手立てができていたか。
・自分の考えを適切に伝え、集団で考えを認め合う場面の工夫は適切であったか。

・導入部分で、アンケートの意外性があってよかった。みんな悩んでいることを共有できた。
・２年部は合同学活が多く、将来の目標について考えていた。どういうことで悩んでいるのかが共有できて良かった。
・恭輔が、診断テストのときは友達に声かけをしていた。しかし，途中で飽きた様子が見えた。活動４で、他人の話を受け入れることは難しいのかと感じた。彼を見れば，授業が分かるように思う。高校生の話は伝わったいたと思う。しかし、生徒は言葉を知らないのではと思うこと

もあった。例えば､国境なき医師団を知っているだろうか。
・振り返りはどんなことを書いていたのか。
・勉強を頑張りたいとかハローワークにも参加したいというのもあった。中には､興味がないことでも調べてみたいとか､客観的に見ることが大事だというものもあった。恭輔は，職業は何でもいいけど努力は必要だと書いていた。彼なりに感じとっていた。
・高校生のビデオは、今すぐにでも１年生にも見せたいと思った。
・今日のような授業は大切。二年前からやりたいと思っていたが、やっとできた。
ＫＪ生は人は人、周りがどう思うかはあまり気にしない。しかし、周りの考えを受け入れる姿勢が２－１に見えた。特活における主体的、意欲的とは何か。課題意識はあったが、主体的はどうだったのか。
・陸人が頑張っていた。自信をもって発表していた。彩斗も２年生になってから頑張っている。自信がもてるようにしていく。
・今日は活動と時間を緻密に先生が計画しておりシートとリンクしていた。先生の指示に従ってよくやっていた。考えをもつことに時間的余裕があれば、考えを深めることができたのではないか。書く作業と話し合うことが重なった。どこに重きをおくのか。シートの活動１はすでに記入していたので、今日やったところの前半を前にやっておけば、重きをおくところに時間をかけられたのではないか。導入部分のパワーポイントでの視覚に訴える効果がよかった。また、先輩たちのメッセージの効果は絶大であった。
・活動２、３は意欲的だった。活動の４は難しい。今回のテーマにはずれていたのではないか。多くの人が、感想を発表しているだけであった。
・活動テーマに対する着地点はどこだったのか。何を書けばいいの？と言っている女子がいた。きっとこれまでの活動と流れが変わったからであろう。適性を生かした職業がいえればよかったのか､比較したのが分かればよかったのか。課題と活動とゴールの整合性はどうだったのか。
・今日は職業が言えればＯＫであった。今決めるのではなく、どうやっていけばいいのかを考えれればよかった。活動４がストンと落ちなかった。自分で選んだものと違うものという、ギャップを出したかった。
・発表が少なく、反応もうすい。自分から発表に関わる生徒が少ない。
・今年度は特に関わる場面が少ない。声も小さいし、マスクをしているので聞こえずらい。自信をもって発表できるようにしたい。聞こえなくてもスルーされている。
・発表や反応は訓練が必要。「１問目は必ず手を挙げよう。」などの取り組みを行って、その気にさせてはどうか。
・書いていれば紹介し合うことはできる。意見を絡めるのは難しい。付箋に書いたりすることで話し合いの経緯が見えるようにすると糸口になる。
・適性のない仕事についたら不幸なのか？などの葛藤場面を設けるとよい。

２　指導助言

・今日は、キャリア教育の（３）の授業であり、この項目を取り上げたことは大きい。
・北の教育Ｐ５８（３）を参考にしてほしい。自己実現、意思決定が大事である。
○よかった点
・学級の雰囲気、先生と生徒の信頼関係がよかった。ここがうまくいってないと、特活の授業はうまくいかない。学級担任と生徒の信頼関係がベースになっている。
・学習規律がしっかりしている。うなずきやプリントをもったときのありがとうなどが自然にできている。
・導入がすばらしかった。円グラフのインパクトやＩＣＴの活用もよかった。これが、活動テーマの設定につながった。課題の設定については、生徒の声をひろっていくことで、必要感が生

まれ、主体的に活動することへとつながっていく。これからも、生徒と課題作りをしてほしい。
・考えるための手立てが豊富にあった。無料のものであれば、授業で使用することはＯＫ。
・先輩のインタビューの効果がよかった。高校生の話し方もよかった。先輩から学ぶという、中高一貫校の良さを生かしていた。
○協議の視点１について
・課題意識はそこまで思っていたのか？中２でそこまで考えていたか？プロ野球選手になりたいと思っていても、どうすればなれるのか？分からない。本来、夢をもつことは明るい要素が多いはずだが、マイナスの要素を書いている生徒が多かった。ぜひ、プラスの要素を増やせる授業展開を。
・話し合いのメインをどこにするか。資料だけでは不十分である。４人の良いところを付箋に書いてプラスを増やすこともできる。発表はできないけれど、前向きな意見交換ができるようにしたい。それが、主体的で意欲的につながり、発表や日々の生活へつながり、視点２へとつながっていく。
・発表場面は社会人になるための訓練と位置づけて、工夫して取り組んでほしい。
・キャリア教育をメインにしているので、今できなくても大人になったら必要だということをくり返し生徒に伝えていく必要がある。
○活動４について
・今日やってよかったと思えるゴールからの授業づくりを。メインディッシュが決まる。
・話し合う視点をあたえることで、迷わずに話すことができる。
・振り返りを大事にしてほしい。今まで思っていなかったことに気づくことができる場である。
・今日の授業のキャリア教育（３）では、意思決定が大事である。「～だったから、－をがんばってみよう。」というふうに１時間１時間決定させる。できたことをほめて、やってみようと思わせることが大事。
・小学校の特別活動が参考になるので、ぜひダウンロードをしたりして活用してほしい。

令和２年度

第２回指定訪問研究会

（社会・理科）

研究主題

中高一貫教育校の特色あるキャリア教育を通して、
主体的・意欲的に学ぶ生徒の育成

【１年生　職場体験（大館北秋田地区）】

【２年生　異文化交流会】

令和２年９月３０日（水）

秋田県立大館国際情報学院中学校

《 研究会日程 》

１０：４０～１１：３０　　研究授業Ⅰ（社会）
１１：４０～１２：３０　　研究授業Ⅱ（理科）
１４：５０～１６：２０　　授業研究会

《 研究授業 》

教科等	授業者	単元・題材・資料等	授業教室	研究会会場	指導者
社　会	杉沢　美穂	中部地方	２年２組	２年２組	菊谷陽子 指導主事
理　科	唐津　信幸	運動とエネルギー	物理実験室	物理実験室	阿部剛士 指導主事

《 授業研究会 》

1　はじめの言葉
2　指導者紹介・職員自己紹介
3　研究協議
⑴　教科経営についての説明（教科主任）
⑵　授業者から
⑶　協議主題・協議の主な内容についての話合い
4　指導助言
5　終わりの言葉

《 協議主題・協議の主な内容 》

社会	協　議　主　題	社会的事象を多面的に捉え、学習したことを社会生活に生かそうとする生徒の育成について
	協議の主な内容	・調べたいことや疑問を出し合い、単元を貫く学習課題を設定したり、単元を貫く学習課題に対する予想をグループで交流したりしたことは、主体的・意欲的に学ぶ生徒の育成につながっていたか。 ・グループ活動において、資料を基に事実と考察したことを整理して話し合うことは、考えを深めるために有効であったか。
	参　加　者	【授業者】杉沢美穂　【司会】米倉善彦　【記録】成田　透 松尾　弘　日景美喜雄　木次谷優和子　佐藤朋子

理科	協　議　主　題	関心や意欲をもって自然の事物・事象に関わり、見いだした問題を解決するために見通しをもって観察、実験などに取り組むことができる生徒の育成について
	協議の主な内容	・課題に対して、目的意識をもって探究させるための手立てはどうであったか。 ・実験結果の処理や考察の場面における、意見交換したり科学的な根拠に基づいて議論したりする活動は、ねらいの達成に有効であったか。
	参　加　者	【授業者】唐津信幸　【司会】武田俊樹　【記録】本多牧子 菊地富子　髙橋裕樹　本城直幸

第２学年２組　社会科学習指導案

令和２年９月３０日
授業者　杉沢　美穂
場　所　２年２組教室

１　単元名　　中部地方

２　単元の目標
（１）中部地方の産業が発展した背景について関心をもち、意欲的に追究し、捉えようとしている。（社会的事象への関心・意欲・態度）
（２）中部地方の産業が発展した背景について、自然的条件や社会的条件に着目して多面的・多角的に考察して、適切に表現することができる。（社会的な思考・判断・表現）
（３）中部地方の産業が発展した背景について様々な資料から必要なものを収集、選択し、それを基に読み取ったり、図表にまとめたりしている。（資料活用の技能）
（４）中部地方について、産業を中核とした考察を基に地域的特色を理解し、身に付けている。（社会的事象についての知識・理解）

３　生徒と単元
（１）単元について
　本単元では、中部地方の特色を産業を中核として捉えさせることが目的である。内容は、学習指導要領地理的分野の内容（２）ウ「日本の諸地域」（ウ）に該当する。捉えさせたい特色は、

中部地方では、自然的条件と社会的条件を生かした特色のある産業が行われている。

ということである。「自然的条件」とは気候や地形、土壌といった自然環境のことであり、「社会的条件」とは消費地との位置関係や交通網の変化、歴史的背景、他産地との競合関係といった社会環境のことである。
　中部地方の東海、中央高地、北陸の三地域それぞれで特色ある工業や農業が発展してきたことについて、自然的条件と社会的条件が関連していること考察、構築し、表現することができる問いを設定する。そして、それらの課題を地理的な見方や考え方を働かせて、追究したり解決したりする活動を通して、我が国の国土に関する地理的認識を深めることを主なねらいとするものである。
　そこで本単元を通して、中部地方の農業や工業などの産業を中核として、産業がそれぞれの地域の自然環境や交通・通信などに関する事象と関連付け、産業が地域の自然環境や交通・通信などと深い関係をもっていることや産業の振興と環境保全の両立などの持続可能な社会づくりが地域の課題となることなどについて、諸資料を基に比較したり関連付けたり、多面的・多角的に考察したりして表現する力を育成していくことを目指していく。

（２）生徒について
　男子６名、女子１７名の学級である。課題解決に向けてペアや小グループでの意見交流では積極的に意見を出し合う姿が見られ、学習課題に対して真面目に取り組もうとする生徒が多い。
　これまで、教科書や資料集などを使い、特色をつかんでいく学習に力を入れながら、ペアや小グループで意見を交流したり、全体で話し合ったりする活動を行ってきた。しかし、必要な情報を資料から的確に読み取ったり、複数の資料を関連付けて読み取ったりする力には個人差が見られる。また、根拠を明確にして自分の意見を表現したり、考えを深めたりすることが苦手な生徒も多い。そのため、話合いの場面では自分の考えを一方的に伝える発言が多い。昨年度の県学習状況調査では、「知識・理解」に関する設問の通過率は高かったものの、「資料活用」や「思考・判断・表現」では県平均を下回る設問も見られた。これらのことから自分の考えを根拠を明確にしてまとめ、説明する力、自分の考えと他者の考えを比較しながら聴く力の育成が必要だと考える。
　資料１は、事前に実施した質問紙調査の回答一覧である。この回答と本単元でとらえさせたい中部地方の特色との比較から、生徒のレディネスとして中部地方の産業（自動車や米、茶、レタスの生産）がさかんなことや自然が豊かなことは情報としてもっている。しかし、産業と自然環境、社会環境の因果関係を考え、中部地方の特色として捉えるには至っていない点が明らかになった。

資料１「中部地方はどのような地方ですか」と聞かれたら、どう答えますか。

・自然が豊か。愛知県は人口が多い。　・長野県や新潟県は、山が多く、雪が多い。 ・日本アルプスがある。　・太平洋側では自動車生産がさかん。 ・日本海側は漁業がさかん。　・静岡県はお茶、新潟県は米の生産が多い。 ・レタスの栽培がさかん。

（３）指導について

本単元は中部地方の地域的特色を捉えさせるために、「中部地方の農業や工業の発展を支えているものは何だろうか。」という単元を貫く学習課題を設定して展開していく。中部地方は、自分たちが住んでいる東北地方から離れているため、生徒にとってはなじみの薄い地方であると考える。産業を中核として、中部地方に対する関心を高め、各地域ごとの産業で具体的な事例を取り上げて学習を展開することで、我が国の国土に関する地理的認識を深めることができるようにする。

１時間目の中部地方の大まかな特色を捉える学習では、中部地方の有名企業や中部地方はさまざまに地域区分されることなどを紹介し、興味・関心を高めたい。また、中部地方の地域区分について、「日本の地域構成」の「地域区分」や「世界と比べた日本の地域的特色」の「産業」の既習内容を踏まえて、地形図や雨温図、各種主題図を読み取ったり、考察したりする活動を通して、中部地方の地理的特色に気付かせたい。

本時は、前時の学習を受けて、中部地方の産業に着目した単元を貫く学習課題を設定し、予想することで今後の学習の見通しをもてるよう学習を展開していく。中部地方の３つの地域の工業と農業の生産額や代表的な生産品を比較して読み取る活動を通して、複数の資料を比較したり関連付けたりして中部地方の産業の特色を捉えられるようにする。また、読み取ったことを基に、全体で疑問を出し合って単元を貫く学習課題を設定したり、グループで予想を交流したりすることで生徒が主体的に学習できるようにしたい。また、既習事項と関連付けて予想させることで、自然的条件や社会的条件が関係していることを捉えさせ、次時からの調査活動へつなげていきたい。

（４）単元とキャリア教育との関わり

ＫＪキャリア教育アンケート（５月実施）の結果では、自己理解・自己管理能力の項目「不得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組もうとしていますか（４.００ポイント中３．１７）」についての自己評価が、他の質問と比較して低い結果となり、困難な課題に対して、試行錯誤したり、自ら調べたりしながら粘り強く考えようとする姿勢が身に付いていない様子がうかがえる。

本単元では、個人で考えた後にグループや学級で意見を交わす活動を設定する。この活動により、多様な意見に触れることで、多面的・多角的に考えさせたい。また、グループ内で分担して調べ、特色を話し合い、まとめることで他者との関わりを通じて自分の考えを広げ、深められるようにしたい。

また、振り返りでは、自分の生活と学習をつなげたり、次の単元や時間に向かって努力したりできるようにしたい。

5　本時の計画（本時２／６）

（１）ねらい

中部地方の産業について、農業と工業に関する資料を読み取る活動を通して、単元を貫く学習課題を設定し、予想することができる。

（２）学習過程

時間	学　習　活　動	形態	教　師　の　支　援　及　び　評　価	資料等
5	1　前時の復習をする。 2　本時のめあてをつかむ。	一斉	・東海、中央高地、北陸の３地域区分されること、気候や地形について取り上げる。	
	中部地方の産業に関する資料を基に、単元を貫く学習課題をつくろう			
１５	3　三地域の農業と工業の生産額や代表的な農産物や工業製品の資料を読み取る。	個 ↓ グループ ↓ 一斉	・東海、北陸、中央高地の農業と工業の生産額や代表的な農産物や工業製品を比較できるように資料を提示する。 ・各地域の生産額や代表的な農産物や工業製品などの違いに着目させる。 資料から、中部地方の産業について、有用な情報を適切に選択して、それを基に読み取っている。 【資料活用の技能】 （ノート・発表）	グラフ 電子黒板
１５	4　中部地方の産業について調べたいことや疑問を出し合い、単元を貫く学習課題をつくる。 【主】【対】	個 ↓ 一斉	・生徒の発言をチャート図にまとめ、思考を可視化する。	
	中部地方の農業や工業の発展を支えているものは何だろうか。			
１０	5　設定した単元を貫く学習課題に対する予想を立てる。【主】【深】	個 ↓ グループ	・気候や地形など既習事項を根拠に、予想できるよう助言する。 ・予想を発表することで、次時以降の見通しをもたせる。 中部地方の産業が発展した背景について、単元を貫く学習課題や予想を考え、表現している。 【思考・判断・表現】 （ノート・観察）	
5	6　本時を振り返る。	個		

（３）授業検証上の視点

①調べたいことや疑問を出し合い、単元を貫く学習課題を設定したり、単元を貫く学習課題に対する予想をグループで交流したりしたことは、主体的・意欲的に学ぶ生徒の育成につながっていたか。

②グループ活動において、資料を基に読み取った事実と考察したことを整理して話し合うことは、考えを深めるために有効であったか。

4　単元の指導・評価計画

時	学習内容	学習目標	評価規準と評価方法（観察・発表・ノート・学習シート）			
			関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
1	中部地方の特色	三地域の地形と気候を地図や雨温図からとらえ、図表にまとめることができる。			○三地域の自然環境の特色を地図や気温と降水量のグラフから読み取っている。（ノート・発表）	◎中部地方を構成する県の位置と名称、三地域と範囲を理解している。（ノート・発表）
2 本時	中部地方の産業	三地域の代表的な農産物や工業製品を調べ、単元を貫く学習課題を設定し、産業発展の背景を予想することができる。		◎中部地方の産業が発展した背景について、単元を貫く学習課題や予想を考え、表現している。（ノート・観察）	○資料から、中部地方の産業について、有用な情報を適切に選択して、それを基に読み取っている。（ノート・発表）	
3	東海地方の産業	東海地方で施設園芸農業や機械工業が発展した理由を、自然環境や社会環境に着目して考えることができる。	○東海地方の農業や工業が発展した背景を意欲的に考えようとしている。（ノート・観察）	◎施設園芸農業や機械工業が発展した理由を自然条件や社会的条件と関連付けて考察し、その結果を適切に表現している。（ノート・発表）		
4	中央高地の産業	中央高地で果樹や野菜栽培、電子部品工業が発展した理由を、自然環境や社会環境に着目して考えることができる。	○中央高地の農業や工業が発展した背景を意欲的に考えようとしている。（ノート・観察）	◎果樹や野菜栽培、電子部品工業が発展した理由を自然条件や社会的条件と関連付けて考察し、その結果を適切に表現している。（ノート・発表）		
5	北陸地方の産業	北陸地方で稲作や伝統産業、地場産業が発展した理由を、自然環境や社会環境に着目して考えることができる。	○北陸地方の農業や伝統産業、地場産業が発展した背景を意欲的に考えようとしている。（ノート・観察）	◎北陸地方で、地場産業が成立したり、米作がさかんになったりした理由を自然条件から考察し、その結果を適切に表現している。（ノート・発表）		
6	中部地方のまとめ	中部地方の地域的特色を産業を中核として総合的に捉え、文章でとめ説明することができる。		中部地方の産業の地域的特色について、地形や気候、歴史的背景、他地域との結び付きなどと関連付けて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。（ノート）		

授業研究会記録（社会）

会　場　　２年２組
授業者　　杉沢美穂
指導者　　北教育事務所　菊谷陽子　指導主事
参加者　　杉沢美穂（授業者）・米倉善彦（司会）・成田　透（記録）・松尾　弘　教頭
　　日景美喜雄・木次谷優和子・佐藤朋子

【協議主題】
社会的事象を多面的に捉え、学習したことを社会生活に生かそうとする生徒の育成について
【協議の主な視点】
・調べたいことや疑問を出し合い、単元を貫く学習課題を設定したり、単元を貫く学習課題に対する予想をグループで交流したりしたことは、主体的・意欲的に学ぶ生徒の育成につながっていたか。
・グループ活動において、資料を基に事実と考察したことを整理して話し合うことは、考えを深めるために有効であったか。

１　研究協議
(1) 教科経営についての説明
木次谷・今年度社会科では、社会的事象を多面的にとらえ、学習したことを社会生活に生かそうとする生徒を目指して教科経営を行っている。
・社会的事象を多面的にとらえるためには、基礎的・基本的な内容を確実に理解させ、定着を図ることが必要と考え、今日の授業の最初でも確認テストを行ったが、継続してミニテストを行っている。
・社会生活に生かそうとする生徒ということで、今年度は新聞の一面を３分前学習として２・３年生に配り、習ったことが新聞の記事で確認できることや知っている語句が新聞に載っていることを確認しながら、自分と社会とのかかわりを実感させるようにしている。
・手立てとして、確認テスト、授業の展開場面で資料の視点や方法を工夫して学び合いができるように、また、学び合いを様々な学習形態を取り入れて、学びを深めさる展開をしている。今日もペアで確認したり、時間をグループで確認したり、座席を移動して確認するなど様々な学習形態を取り入れて、たくさんの意見を交流できるような工夫をして取り組んでいる。自分たちの学びが実生活に結びついているということを実感できるように、この後も指導していきたい。

(2) 授業者から
杉沢・今回は日本の諸地域の中の中部地方を取り上げた。中部地方は、東海・中央高地・北陸と３つの地域に分けることができる。中部地方と大きく捉えて、産業を一つにまとめるのは厳しい。地形・気候は全然違うところなので、それぞれを見た上で、最後の単元のまとめのところでは、各地方の学習を基に共通することは何か、概念化を図っていきたい。本時では、前時の学習を基にしながら産業に着目して、単元を貫く学習課題を設定し予想する授業にした。３つの地域から１つずつ県を取り上げて、農業と工業の生産額

とその割合を比較して読み取る活動を。

・複数の資料を読み取ることが少し苦手な生徒が多い。授業の中で複数の資料からあることを比較したり関連させたりということを多く取り入れたい。単元の中で多く、進んで読み取る活動を行っている。

・中部地方３つの特色をおさえ、愛知県の農業生産額と工業生産額が高いのはなぜか、米が多いのはなぜか、愛知県の輸送機械は車だろうなど作っているものに注目しながら、背景・情景を見ていきたいと思い、設定した。予想を立てる際、多くの生徒が気候と地形に着目していたので、前時の学習が生かされていた。いつも予想をさせると、忘れましたと前時の内容を全く書かない生徒も、前時の内容をおくことによって予想を立てることができていた。多くの生徒ができていたので、前時を活かせていてよかった。交通網・人口の違いに注目している生徒もいた。いろいろな角度からなぜ産業や産業の特色あるものが違うのか、考えられていた。次からは東海・中央高地・北陸の順で、各地方ごとに見て調べていきたい。最後は共通する点、気候を生かしている、気候や地形を克服する工夫をしている、交通網を活かしているなどを推理しながら共通点を考えさせ、まとめていきたい。産業と自然的条件、社会的条件の関わりなど。中部地方で学んだことをこの後の関東や東北、北海道で産業を見るときに生かしていければ、深い学びになっていく。

(3) 質疑応答

佐藤・指導案では単元を貫く学習課題と書かれているが、授業では「それぞれ生産しているものが違うのはなぜか」となったのはどうしてか。

・振り返りの場面で、授業の計画を立てる時にキャリア教育との関わりを考えて授業を進めていると思うが、自分の生活と学習をつなげたり、自分の変容などがキャリア教育と関わってくると思うが、視点５「印象に残った友達の考え」で紹介したのはなぜか。

・本時の評価について、生徒の達成度はどのくらいだと考えているか。

杉沢・単元を貫く学習課題は、当初予定していたのは指導案に書いている「発展を支えるものは何だろうか」であるが、他の２クラスで授業してみた結果、生徒の中に産業を支えるものという表現がしっくりこない。自分の中で支えるものの中に歴史の背景や自然環境、社会環境の条件が含まれているが、生徒の中には支えるものという表現がしっくりこないなと感じたので、生徒がイメージしやすい言葉ににした方がより生徒の言葉に近くいいと思い、単元を貫く学習課題の文言を少し変えた。

・自分の生活と学習のつながりというのは、毎回言われなくても書くもの、視点としてあげなくても毎回振り返りとして書くように言っているので、それプラス今日はここでこれも一緒に考えてみようとしたので、あえて言っていない。

・単元を貫く学習課題を考えは自分から言葉を出したので、予想のところだけを見ると、既習事項である気候や地形を理由として根拠として予想できているので、自分的には全員Ｂは達成しているかなと思っている。中にはより詳しく涼しい気候なので、温暖な気候を活かしてとより具体的に根拠を述べて書いている生徒も数名いたので、その生徒たちは評価はＡになるかなと思っている。

(4) 協議

・課題意識をもち、解決にむけて主体的・意欲的に学ぶための手立てができていたか。
・自分の考えを適切に伝え、集団で考えを認め合う場面の工夫は適切であったか。

木次谷・３の資料の読み取りのところを個人で資料を読み取り、小グループにすることで自分には気付かない意見が友達から拾い上げることができ、もう一回資料を見直して「ああ、そういうのも読み取れるな」という気付きがあったことはよかった。前半のグループ学習はよかった。もし、グループ学習で主体的・意欲的に学ぶ生徒の育成というのにつなげるのであれば、４の調べたいことや疑問を出し合い、単元を貫く学習課題を作るところで､今回チャート図を使って先生が子供たちの意見を聞いて１つずつ書いていったが、その場面でグループ活動にして、紙やホワイトボード等に書いてそれを貼って、どの班も共通していることは何かというと、自分たちの言葉を使って単元を貫く課題ができたのかなと、それが主体的に学ぶにつながるのではと思った。先生と生徒だけのやりとりになってしまい、そこが発展する場面だったのではと思った。難しいのではあるが。

米倉・国語でも、１人１人の言葉を生かすために、２学期からよく付箋を使っている。付箋に書いた自分の意見をみんなで出し、そこから話合いになったり発見が始まったりしている。自分のノートに書いてもみんなの目に映らない、話すと言葉が消えるので、付箋にペンで書いてみんなの前に出して、必要があれば説明して、そこから交流が始まる。班で話し合って、新しいニュアンスのことが出てくれば、誰かが付箋に書いてくれグルーピングしてと話合いが盛り上がる。１人１人のノートを見ると、いろいろなことに気付いて書いていたので、付箋を使ってみればいいなと思った。

日景・理科の授業を見に行った時に、電子黒板に生徒が打ち込んでいて時間がかかるなと、これからタブレットが来て、それに打ち込んでパット画面に出ると時間が短縮できるなというところから、社会の授業でも何かをやる際、先生が１回１回書かなくても子供たちが書き込んですぐに映るといいなと思った。自由に話す時間で男子だけで固まっていたので、近くの人と話してもよいのでは。似ている生徒が集まると似たような答えになるのかなと思った。話す時間がもう少しほしい生徒もいた。自信がないのでみんなと話してそこから一斉という、個→グループ→一斉という手段が多いのでは。今の本校の生徒にとってはそれが必要であるが、まず自信をもたせそれからみんなで、いずれはみんなの前で自分の考えをもって全体の場で話ができるようになっていけばいいなと思う。

杉沢・多教科でも社会のように単元を貫く課題というものは存在するのか。

木次谷・単元を貫く課題と言うのは社会特有のものであると思う。

日景・体育だと、ポンと最初に大きいのはこれで行くんだよとはある。

米倉・国語でも言われたころはあったが、表現が難しい。貫き具合が難しい。意識してくださいと言われたことはある。

杉沢・貫いて、途中でもう１つ出てきてもいいと思うが、最初の課題と。

教頭・子供たちに話し合わせながら、単元を貫く学習課題を設定するということで、意欲や主体性が出てきていいが、普段は生徒が作る形でやっているのか。

杉沢・グループで考えさせたり、付箋でやったりしている時もある。２年生になってから使っているのはクラゲチャートで、いろんなことをやってきたが一番しっくりきたのがクラゲチャートだったので、１年間やってみようと思っている。言葉は子供たちからとってきている。

教頭・１時間の中で収めるというので今日は大変だったのかなと思う。明日からの授業の中で単元を貫く学習課題というのは授業の中でどういう位置づけになり、どのような形で生徒に意識させていくことになっていくのか。

杉沢・振り返りの紙にも書いているし、黒板も一番の上に書いて、その下に本時の学習課題を書いていくという形になっていく。

教頭・今日予想したことに関してどうであったかという振り返りやまとめが入ってくると。

杉沢・そのまとめをちょっとずつ合わせていくと単元のまとめのヒントになる。

教頭・今日は前時の学習が、特に予想のところで生きていた。それが最初の確認テストあたりから思い起こしながらつながっていた。小黒板があったのもよかった。この後の授業も前時の学習が上手くつながっていくんだろうな、効果的なんだろうなと感じた。

日景・今日先生が提示しためあて、社会ではどうなんだろうか。例えば数学科では、例題をみんなでこういう課題にしていこうなどみんなで作ることができるし、体育は前回これできなかったから、今日これが課題ねと生徒と課題を直しながら作っていくことができるが、社会はみんなで作っていくことはできるのか。

木次谷・資料を基にすれば。

杉沢・作りやすい。次の時間からは流れやレシピを出して今日使った資料も活用しながら東海地方の課題を作って、東海地方はそれについて新しい資料で調べる。２時間目に単元を貫く課題を作るというのを今まで九州・中国・四国とやって、流れ的に２時間目に地形を見て気候をやって次は単元を貫く課題だなと見通しはある。

日景・見通しをもって前と同じようにやるというのが分かれば生徒も主体性に取り組める。主体性をもたせるためには流れをつかむことが大事であるし、パターン化するのはいい方法だと思う。

木次谷・今まで３つやってきて今回４つめだとすれば、クラゲチャートを個人またはグループで書くことができれば、各班４～５人の中から出て話し合って単元を貫く課題、大きいクラゲを持ち寄ることもできるのでは。

杉沢・いろいろやってみたいと思う。（他の地方でやってみたい。）

木次谷・今日の感じだとできると思う。

日景・クラゲチャートはどこでも作っているのか、本校独自のものなのか。

木次谷・チャート図の中の種類の１つである。

杉沢・いろいろなものの中から集約していくのにはいいチャートである。

日景・読み取りを出した時に、子供の発表は教師の予想よりも同じだったのか、少なかったのか、多かったのか。

杉沢・予想よりはちょっと少ない。どの単元、毎時間そうであるが他の２つのクラスに比べ少ない。

日景・少なくてもできるのか。

杉沢・ポイントはおさえられていたので、それ以上広げず進めた。

佐藤・生徒が教師の指示通り動いていて、信頼関係もあってよかった。グループ活動というところで、本時のメインが「何でだろう、どうして」という疑問のところを、もう少しグループの中で「ああでもない、こうでもない」と出し合って、グループの中で作ったものを生徒の言葉でが学び合いが深まるところ、メインの活動だったのではないか。確認のし合いで終わっていた。何人かが発表して、先生対生徒の発表者のやり取りで進んでしまったところが、本時はグループ活動に力を入れるところなので、みんな学び合えるように、数学の授業でも大人しくなかなか意見が出ないクラスなので、なんとかして大人しいい人たちがみんなの前で発表するのは厳しいので、少人数の中でも話したり質問したりできるように。今日の授業では、大人しい人たちが黙って座り、よく発表する何人かが発表して、１０分くらい座っていたので、もっとみんなを巻き込んでいければいいと思った。

日景・グループでもなかなか意見が言えない。体育の授業では、体育の得意な人が話して他は言えない。どうしたらみんなが言えるようになるのか。できる人の意見を聞いて終わってしまう。それ以外の人が言えない。そういう雰囲気ではないのに。話している人は間違いないと思って聞いてしまう。みんなが自信をもって言える。小さいグループから。

米倉・グループで話したことを基に、最後に報告するというスタイルをとっている。報告は自

分の考えではないので、グループの話合いで出たことを、こんな話が出てこの人の意見はみんなほうと思いましたという感じで。報告のスタイルをとって、報告者を変えながら進める。立派な人たちの話だけで決まるのではなく、４人いたら３人がグループで協力して報告者が話すことをみんなで決めていく。手元にある付箋も使いながら。それを繰り返すことで、次はグループからどうしたというよりも手が挙がってくる。

日景・自分が書いたのだけで話すよりも、付箋を貼ることで人の意見を見ることができる。

教頭・資料について、工業と農業のグラフを２つ、３つの都市を出しての話合いだったが、資料の量は適当だったのか。資料からいろいろなことを子供たちが考えて意見を出していたが、指導案を検討する時に話題になったのか。量が多いと消化しきれず、話もまとまらないこともあるだろうし。今日は適当だったのか、もう少しあってもよかったのか。

杉沢・最初はもっと多く、それを削った。あまり多いと消化不良を起こす生徒が多々いるので、絞ってここまでにした。３つの地域の特色ある産業を見つけてほしかったので。できればこのくらいの量から読み取れる力を付けてほしかった。

指導主事・６つ全部を読み取るという意図で提示したのか。農業で１つ、工業で１つなのか。

杉沢・最低限１つずつ。今までの様子から見ると２つはいけるかなと。

指導主事・様子を見ると十分書けていたので、適切な量であったと思う。

日景・資料の米を見た時に富山と長野のパーセント・割合は違うが、金額的に同じだと思ったが、数学的に。読み取る人は読み取ったのか。

杉沢・悠人君は計算していたが、５分では足りず途中で終わっていた。悠人君はいつも計算して割合を出している。

日景・割合では、こっちの県が多くとこっちは少ない。でも金額にすると。

木次谷・杉沢先生が資料を見せる時に割合を強調していた。子供たちは数字だけ見て多いと答えるので、資料を読み取る視点をさりげなく与えていたので、子供たちは混乱せず書けていた。

日景・資料を読み取るのは難しい。

木次谷・必ず実テや入試でもああいう問題が出題され、２つ関連付けて書きなさいという問題が秋田県の傾向としてあるでるので、あれくらいはみんなが書けるように育てていく必要がある。

日景・振り返りに挙手の回数があり、比較的挙手が多かったが、声量が小さくはっきり聞こえない。伝わるように声の大きさを訓練していかなければいけない。杉沢先生は２回聞くあたりが、同じことを。まず子供たちに言わせて確認していたのがよかった。発表者が多くの人の方を見て。話す人から。みんなでやっていきたいと思った。

教頭・２回ほど発表した後に隣りの生徒に他の言い方でと言い直しさせていたのは、事前に内容を確認していたのか。

杉沢・確認していた。

教頭・ああいう感じでもいい。自分で書いていなくても、隣の人の発表をちゃんと聞いているかどうか確認する意味でも。

杉沢・朝のニュース発表の時もたまに聞いているかどうか確認している。

日景・そういう時、３年生はハンドサインを使っていた。

木次谷・理科はやっている。

日景・それは３年生独自でやっているのか。

木次谷・理科独自。

日景・みんなで同じのを同じですと。小学校からやっていて、大体１年生の時はやる。各小学校のハンドサインをやっていて、いつの間になくなっていく。３年生だけでなくみんなでやっていけばいいのに。

菊谷・中学１年生はやっているが、学年が上がるにつれ全然やらなくなる。ハンドサインがあることで、授業者が黒板に徹しいる時に、子供たちでリレー発表していける。同じ意見をつなげていく時には非常に効果的である。先生が違う子に当ててと言った時に、違うハンドサインが出れば、生徒が主体で進んでいけるし、効果的である。大館市内の中学校でハンドサインを使って学習を進めている学校もある。せっかく小学校でやってきたことを止めなくてもつないでいければ一番良い。小学校が違うとバラバラなので、入ってきた時に確認することが必要である。

米倉・ハンドサインは前もって同じですという生徒には当てないように、似ていますか違う視点ですにしてと言うと、広がっていく。１年生は油断しているとハンドサインを使うやりかけることがある。

成田・１時間を使って単元を貫く課題を設定をするのが新鮮で斬新でした。英語科ではよくオーセンティックな英語を使う場面、洗練された場面を設定しなさいということで、例えば今話題になっていることを取り上げたり使ったりしているのか。また、最近説明してから英語を使うのではなく、間違ってもいいのでどんどん言わせて少しずつ直していっている。今日の授業を英語科から見れば、どんどん子供たちにグループで意見を言わせて、そこから少しずつ修正していきながら意見を出す。自分だったらそうやるのかなと考えて見ていた。

日景・資料の読み取りに間違った読み取りとはあるのか。みんなが正しく読んでいた？

杉沢・割合と書いているのに、額に直して金額と勘違いしてやっている人もいたが、最近は私が強調したところは間違える子はいなくなった。

佐藤・みんな正しいことを言い合っているのか。

杉沢・正しいわけではないが、間違ったこと、額のことを書いている人もいたが、グループの時に修正していた。

木次谷・それはグループで話し合った意味がある。額と自分では読み取ったが、割合だったと気づいてもう一度見直してみると。

日景・間違いを教えてあげる、こうじゃないよと。そういうのも話合いの１つである。間違いたくはない。だから書こうと思っても書かない。書けるけども書かない、発表しない。

日景・グループで今日のような活動をするのは４人くらいが妥当なのか。

木次谷・４人だと遊んでいる人がいないので、社会では４人が多い。５人だと遊ぶ。することがない。

米倉・３人は一生懸命やるけど、残った２人はボヤっとしている。

日景・何も考えず生活班で話し合ってと言ったら、所長訪問で指導を受けた。どこの学級でも４人でと言えばすぐなるのか。

杉沢・大体なる。

教頭・授業を見て板書の構成が素晴らしかった。学年持ち上がりで２年かけて子供たちをしつけて育ててきていることもあって、学習スタイルが定着していて、子供たちも非常に落ち着いて集中して学習に向かっていた。緊張もしていたが。タイマーを非常に活用して、時間が管理されている授業であった。時間をとって子供たちの様子もよく見届けしていた。時間が足りない時には足すなどしていた。刻みも計算されたもので動きまで考えてやっていて、子供たちにも身に付いるのが伝わってくる授業であった。時間を細かく区切ることで、子供たちはそれに慣れてちゃんとやっていたが、先生も考えてメインの発問に関しては時間を長くとるなど調整していると思うが、あまり細かく切るのはいいところもあるが、悪いところもあるのかなと。今日は非常によかった。時間を調整しながら授業をされているので、自分のスタイルが定着していると思った。よく子供を待っていてそれから授業を進めていて、安心して活動できていた。

杉沢・毎回短めに設定して進めている。

米倉・国語もです。ちょっと間に合わないくらいにして。見て回って伸ばす。話合いの時、割合長く時間をとるが、１０分の話合いであれば、５分で切って、今後の見通しをもたせる。時間を意識させるのを大事にしている。

２　指導助言

指導主事・良かった点５つ。改善・振り返ってほしいのを３つ。参考１つ。評価のことについて。

○少し大人しい気もしたが、子供たち集中して頑張っていた。資料の読み取りが度の生徒も出来ていた。割合の高い・低いとか、数とか量の多い・少ないを気を付けて丁寧に指導してきている成果だと感じた。木次谷先生も含めてとても意識されているので、特にここら辺どうしても生徒は記述させたりしてもあいまいになりやすいところなので、このあともしっかり指導していってほしい。子供たちの資料の読み取りで、そういう指導が行き届いているので、ただ割合だけでなく、生産額の大きさに着目している生徒、既習の知識を活用して車を作っているから輸送用機械の割合が高いなどと理由付けをしながらしてまとめている生徒もいて、非常によく読み取っていた。グループ内の話合いも、自分の読み取ったことに説明を加えながら話すことができていた。これは個で考える読み取る時間をしっかり５分保証して、じっくり生徒に書かせる成果であり、とてもいい場面である。

○自由に立ち歩く場面の設定があった。単元の課題の作成に向けて個で疑問等考えさせる場面であった。そこで、書けていない生徒に注目して見ていたが、その書けていない子があの場で他の子が来た時に、友達の考えを聞いてなるほどなという気づきがあり、その後でしっかり自分のノートに書き始めていた。つまずいている生徒にとって考えを出すためのよい手立てになっていた。黙って１時間座っているのは子供たちにとっても苦痛の時間になるので、とてもいい効果がある。

○予想を立てさせる手立てが非常によかった。前時の自然環境等の学習をしっかり生かして、気候や地形等に着目して書いている生徒が多かった。中には前時の学習シートを振り返っている生徒もいた。黒板に書いている自然的条件とかも非常によかった。そういう手立てが非常によかった。生徒も愛知は海と接しているから、広い土地があるからと小学校で学習したことも生かされていた。子供が育っている、力を付けていると感じる姿であった。全く予想を書けていなかった生徒も実は発見した。その時、先生がグループで話し合ってごらんと言った時、その子は黙っていたが、友達の予想を聞いて学びが深まっている様子が見えた。話をして子も自分の考えを説明を加えて丁寧に言えていたので、書けなかった子にとっては非常にいい学び合う場面であった。グループの学び合いが、いい姿が沢山見えた。普段からグループ学習をやってきた成果が本当に表れていて、個の考えが本当に広がるいい学び合いになっていた。

○毎時間振り返りの時間をとってシートに書かせている。挙手回数とか、学習の自己評価。見方・考え方から書いていた。非常に工夫されている。毎時間丸印、花丸を付けながら見届けていた。この後も続けてほしい。自分の指導を思い出すと、あのようなカードをやって、毎時間集めたものにコメントを書いたら、社会科好きの子が多かった。子供が書いた振り返りをしっかり読んで認めてあげることで子供の意欲を育てることもできる。振り返りに書かせて終わりではなく、発表させる場を作ってほしい。みんなの前で紹介するとか、次の時間の最初で紹介して学習課題につなげるなど、いろいろな工夫があるし、取り上げられることによって子供たちが頑張ろうと思う気持ちにもなるし、価値づけることによって主体的に学ぶ生徒の育成につながるので、書かせて終わりではなく、生かす道を探ってもらいたい。

○確認テストや新聞の取り組みは力を付けさせるよい取り組みである。振り返りもやって、確認のテストもやって時間はかかるが、上手にタイムマネージメントをしていたので、続けてほしい。

☆単元の課題を設定するのは難しい。いろんな疑問を出させていたが、最後は生徒の言葉を生かすと言いつつ、先生の言葉になっていた。各班でクラゲチャートにまとめさせてみるのもいい手だったかもしれない。例えばグラフを読み取った後に、まとめて言うと見方・考え方で言うと総合で、どんなことが言えるのかなというのを子供たちに考えさせてみる。それぞれの地域で盛んな農業・工業が違うという結論を見いだせることに気づかせればよかった。何でだろうね、ここの学習はそういうところを学習してみようと言って、言葉を考えさせればするっと出てきたのではないか。単元を貫く課題の設定は非常に難しいので、子供の声を生かしてやるが、共通点やまとめを大事にしながら社会科の見方・考え方を働かせながらもっていく。今日は難しい学習にチャレンジした。なかなか挑戦する先生がいない。

☆生徒の発言を深める。取り直しがもっとあってもよかった。単元の課題を設定した後に、予想を立てさせて、交通網や人口の違いというとてもよい発問が出されていた。もう少し詳しく、どういうことと問い返してみることが必要であった。それが今後の学習の見通しにつながる。交通網と言っても、高速道路のことを考えているのか、名古屋のあたりの地下鉄を考えているのか分からない。人口の違いという言葉も出てきたが、それが何につながるのか、労働者が多いということにつながるのか、消費者につながるのか。そういうところを生徒から詳しく聞くことで、この後の学習の見通しにつながっていけたのではないか。全体の場面になった時、子供たちグループでは非常によく頑張っていたが、全体の場面では発表して終わりというやり取りになっていた。そこで先生が返してやり、もう少し深めていければよかった。

☆本時の授業の中で見取る場面・評価の場面が２つ準備されていた。実際、先生は２つ見とれているでしょうか。見てはいるが、きちんと記録をとってほしい。適切に個の記述を見取り、この考えが評価など生かせる場面も出てくる。深める場面で生かすこともできるので、見取りを丁寧にしてほしい。今日であれば、例えば一瞬で見取る方法としてシートの工夫がある。事前に枠を作っておいて、書けている書けていないというように一目瞭然、ぱっと見た時に読み取れる、見とれるようなシートの工夫があってもいい。それが、学習状況Ｃの生徒を見取る効果的な手段にもなる。もう１つに評価場面についても、具体的な評価基準がない。書ければいいのかなと評価基準になっている。具体的な姿が見える評価基準にしてほしい。例えば、前時に学習した内容を関連付けて書けているなど、見取るための視点をひょか基準の中に入れてほしい。そうやって見取っていくようにしてほしい。１時間に見取りは１つ。

＜参考＞

・主体的に取り組ませるために、この地域であれば、北陸・中央高地・東海の３つの地域がある。その３つの地域をグループごとに分担させて農業と工業について調べさせてみて、発表させる。発表させた後に共通点を出させる。それぞれの自然条件や社会条件など、こういうのを生かしてやってるんだという共通点を導き出せれば、中部地方の特色につながっていく。生徒の実態として、資料活用とか思考・判断・表現の力が劣ってるという記述もあったので、そういうのを生かすためにも、こちらからだけ資料を与えていくのではなく、生徒が持っている資料集とか教科書などを活用して選択しながら、自分たちで発表するスタイル、そういう学習の進め方も各地方の中で一度はやってみてもいいのではないか。子供たちが調べることによって学びが深まるのでよく知る。気を付けなければならないのは、調べなかった地域のところがどうしても劣ってしまうので、

共有化の部分を大事にしてもらいたい。

＜評価について＞

・来年度から新学習指導要領全面実施ということで、評価の観点が４つから３つに変わる。全て教科の目標とか内容の育成を目指す資質・能力、３つの柱で定義されている。１つ目が知識及び技能、２つ目が思考力・表現力・判断力、３つ目が学びに向かう力・人間性。この３つの柱で再提起されていることを踏まえて、観点別学習状況の評価の観点も３つになる。評価の観点と目標に示す文言は若干違うので、指導案を書くときに気を付けてほしい。評価は知識・技能と文言が変わる。評価基準の語尾は生徒の姿で表記する。理解しているとか、表現しているなどの文言になる。指導と評価の一体化に関する参考資料が出ているので参考にしてほしい。学習評価のポイントとして、評価計画を作成しておくことが大切である。それを作成する際に大切なのは、学習内容のまとまりである単元を適切に設定することである。評価計画を立てる時に、毎時間生徒全員の記録をとって評定などの総括の資料とするために蓄積するのは現実的ではない。単元の中で学習状況を記録に残す場面を精選する。かつ適切に評価するための評価の計画を立てることが重要である。

第３学年１組　理科学習指導案

令和２年９月３０日
授業者　唐津　信幸
場　所　化学実験室

１　単元名　　運動とエネルギー　「エネルギーと仕事」

２　単元の目標

（１）運動の規則性、力学的エネルギーに関する事物・現象に進んでかかわり、それらを科学的に探究するとともに、事象を日常生活とのかかわりでみようとする。
（自然事象への関心・意欲・態度）

（２）運動の規則性、力学的エネルギーに関する事物・現象の中に問題を見いだし、目的意識をもって観察、実験などを行い、事象や結果を分析して解釈し、自らの考えを表現することができる。（科学的な思考・表現）

（３）運動の規則性、力学的エネルギーに関する事物・現象についての観察、実験の基本操作を習得するとともに、観察、実験の計画的な実施、結果の記録や整理など、事象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。（観察・実験の技能）

（４）観察や実験などを通して、運動の規則性、力学的エネルギーに関する事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
（自然事象についての知識・理解）

３　生徒と単元

（１）単元について

これまでに生徒は、本単元に関わるものとして、小学校では、第５学年で「振り子の運動」について学習している。また、中学校では、第１学年の「（１）身近な物理現象」で力の基本的な働き、第２学年の「第２分野（４）気象とその変化」で圧力や大気圧について学習してきている。

本単元は、理科の見方・考え方を働かせて、物体の運動とエネルギーについての観察、実験などを行うことによって、力、圧力、仕事、エネルギーについて日常生活や社会と関連付けながら理解させるとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けさせ、思考力、判断力、表現力等を育成することが主なねらいである。

本単元は、事象を科学的に探究する技能の基礎となるので、運動の測定、測定結果のグラフ化、力と関係させたグラフの解釈、力の合成・分解の図形的分析・解釈をていねいに行う必要がある。そして物理学の概念を習得していく過程を体験しながら、運動の規則性やエネルギーの基礎について学習できる単元である。

（２）生徒について

男子８名、女子１６名、計２４名の学級である。観察や実験には、ペアやグループで協力して取り組む生徒が多い。考察の場面では、自分の考えや意見がもてずにいる生徒が多く、そのため積極的に挙手発表する生徒が少ない。

本単元の導入時に行ったレディネステストでは、第１学年で学習した力の働きについての定着度合いが低く、物体の動きと力の働きを関連付けて記述する問題の正答率が低かった。

ＫＪキャリア教育アンケート（５月実施）では、「見通しをもって計画的に進めたり、そのやり方などについて改善を図ったりしているか」という項目のポイントが低い。授業では、実験や観察に対して、「何を得るために、この実験を行っているのか」という目的意識がはっきりとしないまま、眼前の活動に取り組んでいる生徒も見られる。

（３）指導について

本単元の「エネルギーと仕事」では、力学的エネルギーに関する実験を行ってから、仕事

の概念を導入し、エネルギーの移り変わりと保存について理解させたい。

本時では、生徒の実態より、「実験の結果がどうなれば、何が分かるのか」を実験前に確認することにより、見通しと目的意識をもって学習に取り組ませたい。また、実験前の手順の確認や注意事項に時間がかかって実験の時間が不足することがないように、実験方法についての手順は前時であらかじめ確認したり教具を工夫したりして、実験の時間を十分に保障したい。考察の場面では、全員が自分の考えをもてるように、規則性や関係性を見いだすための着眼点をキーワードとして提示したり、補助発問をしたりしたい。その際、考察の場面で自分の考えがもてなくても、その後グループで意見交換したり議論したりして納得したものを自分の考えとしてもよいことにし、考察への不安感を和らげたい。振り返りの場面では、本時の学習で得たことを自らの日常生活の中で探せるような視点を与え、次の学習や日常生活の中で課題を見付け、深い学びにつなげたい。その際、教師側から簡単な例を紹介し、日常生活との関わりに気付かせたい。

（４）単元とキャリア教育との関わり

本単元では、思考力、判断力、表現力等を育成するために、見通しをもって観察、実験などを行い、その結果を分析して解釈し、力のつり合いと合成・分解、物体の運動、力学的エネルギーについての規則性や関係性を見いだし表現するとともに、探究の過程を振り返らせることが大切である。本単元の学習の中で見通しをもつこと、結果について考えること、そして行ったことを振り返ること、といった流れを繰り返し学習することを通して、前述したＫＪキャリア教育アンケートでポイントの低かった課題対応能力を育んでいきたい。

また、本単元で特に、自分の考えをもち、その後グループや全体で意見交換し考察するといった活動をより多く設定することにより、「相手が理解しやすいように工夫しながら、自分の考えや気持ちを伝えようとする」といった人間形成・社会形成能力をさらに育むことが期待できる。他者に働きかける力やコミュニケーション・スキルは、日常生活や社会生活でより一層重要性を増すと考えられるので、この能力を伸ばしていきたい。

4　単元の指導・評価計画

時間	学習内容	学習目標	観点別評価の規準（評価方法、観察、発表、ノート、評価問題）◎は主要評価			
			自然事象への関心･意欲･態度	科学的な思考・表現	観察･実験の技能	自然事象についての知識・理解
1	物体のもつエネルギー	・物体のもつエネルギーやエネルギーをもっていることについて考えることができる。	◎これまでに学んだことや生活経験をもとに興味･関心をもって取り組み、発表している。（観、発、ノ）			○物体がエネルギーをもっている状態について説明することができる。（発、ノ、評）
2 **本時**		・運動している物体のもつエネルギーの大きさは何によって決まるのかを実験をもとに考えることができる。		◎実験の結果から、質量が大きく、速い物体ほど運動エネルギーが大きいことに気付くことができる。（観、発、ノ）		○質量が大きく、速い物体ほど運動エネルギーが大きいことを説明することができる。（発、ノ、評）
3		・高さのある物体のもつエネルギーの大きさは何によって決まるのかを実験をもとに考えることができる。		◎実験の結果から、質量が大きく、高さが高いほど位置エネルギーが大きいことに気付くことができる。（観、発、ノ）		○質量が大きく、位置（高さ）が高い物体ほど位置エネルギーが大きいことを説明することができる。（発、ノ、評）
4	力学的エネルギーの保存	・位置エネルギーや運動エネルギーがどのように変化するか考えることができる。		◎位置エネルギーの変化と関連付けて、ふりこの運動のようすを説明することができる。（観、発、ノ）		○位置エネルギーと運動エネルギーは移り変わること、力学的エネルギーは保存されていることを説明することができる。（発、ノ、評）
5	仕事と力学的エネルギー	・仕事と力と距離の関係、仕事の単位や求め方について説明することができる。			○仕事を求める式から仕事を求めることができる。（観、発、ノ）	◎物体に仕事をすることによってエネルギーを得ることを説明することができる。（発、ノ、評）
6 7		・力学的エネルギーの大きさの変化と、他の物体にした仕事の大きさとの関係について調べることができる。		○物体の力学的エネルギーの増減は、物体がしたりされたりする仕事によることに気付くことができる。（観、発、ノ）	◎実験の結果を表やグラフなどにまとめることができる。（観、発、ノ） ◎仕事や力学的エネルギーを計算することができる。（観、発、ノ）	

8	仕事の原理と仕事率	・仕事の原理についての説明を聞き、道具を利用すると、仕事の大きさはどうなるのかを考えることができる。	○道具を使って力を小さくした場合、仕事の大きさはどうなるか考えている。（観、発、ノ）		◎正しい操作で実験を行い、結果を表にまとめることができる。（観、発、ノ）	
9		・仕事の原理と、仕事率について考えることができる。		◎道具を使う、使わないにかかわらず、仕事の原理が成り立つことに気付くことができる。（観、発、ノ） ○仕事の能率は、単位時間当たりの仕事で比べればよいことに気付くことができる。（観、発、ノ）	◎仕事率を求める式から、仕事の能率を計算することができる。（観、発、ノ） ○計算により能率を比較することができる。（観、発、ノ）	
10	エネルギーの移り変わり	・エネルギーの移り変わりについて考えることができる。	○私たちはさまざまなエネルギーを変換して利用していることや、変換の際に利用できないエネルギーも生じていることについて考えている。（観、発、ノ）			◎エネルギーは他のエネルギーに移り変わることができることを説明することができる。（発、ノ、評）
11		・熱エネルギーへの変換と、熱の伝わり方について説明することができる。	○熱の伝わり方について考えている。（観、発、ノ）			◎熱の伝わり方として、伝導や対流、放射を説明することができる。（発、ノ、評） ◎エネルギー変換の際には、熱エネルギーが発生することを説明することができる。（発、ノ、評）
12	エネルギーの保存	・さまざまに姿を変えるエネルギーは失われていくのかを考えることができる。 ・エネルギー変換効率について考えることができる。		◎位置エネルギーが電気エネルギー以外に、利用できないエネルギーに変換されることに気付くことができる。（観、発、ノ）	◎エネルギーの変換を調べる回路をつくり、発電の効率を計算で求めることができる。（観、発、ノ）	
13		・エネルギー変換の前後で、エネルギーの総量は保存されていることの説明を聞き、エネルギーの有効活用について考えることができる。	○目的のエネルギーへの変換効率を高めるにはどうしたらよいのか考えている。（観、発、ノ）	○エネルギーの総量は保存されることに気付くことができる。（観、発、ノ） ◎エネルギーの減少を少なくするための対策について、自分の考えを説明することができる。（観、発、ノ）		

５　本時の計画（本時２／１３）

（１）ねらい

・運動エネルギーについて仮想ボーリングの実験を行い、その結果をグラフにする活動を通して、物体の質量と速さとの関係性を見いだし、質量が大きく、速い物体ほど運動エネルギーが大きいことを文章で表現することができる。　（科学的な思考・表現）

（２）学習過程

時間	学　習　活　動	形態	教師の支援及び評価	資料等
３	１　学習課題をつかむ。	一斉		大型テレビ
	物体のもつ運動エネルギーを大きくするには、どうしたらよいだろうか。			
			・予想については前時に済ませ、実験の時間を十分に確保する。	
４	２　実験方法の確認をする。【主】	一斉	・どんな結果が予想されるのかを確認することにより、見通しと目的意識をもたせる。	
１８	３　実験を行い、結果をまとめる。（表作成、グラフ化）	グループ	・実験を２つのグループで分けて行うことで、時間の短縮を図る。	実験装置一式 グラフ用紙
１２	４　実験結果から、運動エネルギーを大きくするものについて考察し、発表する。【対】	個 ↓ グループ ↓ 一斉	・考察に自信がもてない生徒のために、個で考察できなくともその後のグループでの話合いで納得した考えがあったら、それを自分の考えとしてもよいことにする。	大型テレビ
４	５　結論をまとめる。	個 ↓ 一斉	・課題の文言やキーワードを用いて、結論付けるようにする。 実験結果の表やグラフから、運動エネルギーを大きくするには物体の質量を大きく、速さを速くすればよいことについてまとめている。　（発表、ノート）	
５	６　確認問題に取り組む。	個	・問題解決の実感を味わわせるためと知識の定着を把握するため、問題に取り組ませる。	シート
４	７　振り返りをする。【深】	個	・振り返りの視点として「本時の学習と日常生活との関わりについて」を与え、生徒が考えやすいように例文を提示する。	

（３）指導検証上の視点

①課題に対して、目的意識をもって探究させるための手立てはどうであったか。

②実験結果の処理や考察の場面における自分の考えを意見交換したり科学的な根拠に基づいて議論したりする活動は、ねらいの達成に有効であったか。

授業研究会記録（理科）

会　場　　会議室
授業者　　唐津信幸（３年１組）
指導者　　北教育事務所　阿部剛士　指導主事
参加者　　中学校職員

【協議主題】　関心や意欲をもって自然の事物・事象に関わり、見いだした問題を解決するために見通しをもって観察、実験などに取り組むことができる生徒の育成について

【協議の主な視点】・課題に対して、目的意識をもって探求させるための手立てはどうあったか。
・実験結果の処理や考察の場面における、意見交換したり科学的な根拠に基づいて議論したりする活動は、ねらいの達成に有効であったか。

１　研究協議

(1) 授業者から

・前時で「エネルギー」についての関心を高めた。運動している物体がもっているものを「運動エネルギー」と呼ぶのだということをおさえ、ボーリングのピンをより多く倒すにはどうしたらよいだろうかということの予想を立てた。実験のところまではスムーズに進んだ。
・簡易速度計に不備があり、もっと早く気付くべきであった。
・机間指導をもっとじっくりやれたらよかった。
・通常であればグラフの軸はノート１ページにとりやっている。生徒から「こんなに小さいのですか？」との声があがっていたが、散布図にならないようにグラフを小さめにした結果である。
・生徒たちは、実験結果をどう言ったらいいか分からず戸惑いが見られた。
・等速直線運動、比例、右上がり等、やったことではあるがスラッと出てこなかった。点の並びをどうとらえるかのフォローが甘かった。
・全員分集めてスクリーンに出した時、傾きに気付くことができたのはよかった。
・入力作業が混んでいたので、そこの部分でスムーズに流れなかった。これが、結果発表や考察の時間確保に影響した。

(2) 質疑応答

Ｑ：先生が一度ストップをかけた場面があったが、どのような意図があったか。
Ａ：点の並びが右上がりのように見えるという事実だけをおさえさせたかった。方向付けさせたかった。結果をおさえることが下位の生徒の手助けになると思った。
Ｑ：考察の段階で結果まで書く生徒もいたのでは？
Ａ：「断定」となると、言葉じりが変わってくる。言葉ではうまく言えないけれど、結果の予想はみんながついている。予想でも出ていたことなので、もっと簡単にできたことなのでは？という気もしている。もっと簡単に進むのであれば、深い学びも追究できた。次の段階に広げられたのではないかと思う。

(3) 協議

・課題に対して、目的意識をもって探究させるための手立てはどうあったか。
・実験結果の処理や考察の場面における、意見交換したり科学的な根拠に基づいて議論したりする活動は、ねらいの達成に有効であったか。

・「目的意識をもって追究させるための手立て」として、どんなグラフになり得るのかを予想で出させておけばよかったのではないか。
・（阿部指導主事より質問）20 m／秒以下としたのはなぜか？
　→Ａ：横に１０個のところに点が並び、右上がりのグラフにはならなくなる。つまり、相関性が見えなくなるから。速さが少ないと１にもいかない。「原点は通る？通らない？」と隣のクラスでは指導した。科学的には本当は比例ではない。
・大学では、実験結果のデータ検証から始まる。きれいに楕円形でかたまった部分と、はみ出た部分があるのであれば、「直線的になっている」とは言えない。はみ出した横並びのところを本当は除かないと、科学的にはダメ。先生はまず概算を言わせたかったのだと思うが、本校の生徒に対してであれば、省いてもよかった。「何か言えることはない？」の投げかけだけでよかった。生徒から出てきた言葉でまとめていくのが教師の役割。
・もっとデータを多く取らせたほうがおもしろかったのでは？
・自分のチームの中で２通りやっていれば、個人の中でも見えてきたのではないか？
　→「８枚並んだだけで見分けなさい」はねらっていない。そこのところを、２つのグループでＯＨＰシートを重ねる、比べるなどすると面白かったのでは？
・確認問題をやった時に、質量が大きい方が出てきていなかった。自分のチームがやっていなかったからと言えるかもしれない。
・途中で止めてここまででいいと言った時があったが、視点を与えておけば、止めずにすんだのではないか？
・自分であれば、考察する時の視点を与える。点だけだと苦しいものがある。
・グラフを書いたものを相手と交換させる活動をしたらよかったのかな？と思う。
・キャップをまっすぐ打てないので時間がかかっていた。斜めのところに置いて、スピードを実験で分からせることによって、任意のスピードではなく恣意的なスピードをつくり出せたのでは？転がしたほうが一定のスピードが分かりやすい。あそこで時間をくったのでは？
　時間ロスがなければ、実験の種類や回数を増やせたのではないか。
・今日は２時間目ということだったが？
　→実際には２．５時間目のような感じ。前の時間に、グラフの枠をとったり、手引き書を事前配付したりした。「ボーリングをやったことある？」と投げかけ「運動エネルギーというんだよ。この運動エネルギーを大きくするには？」と問いかけた。
・社会科で行っていた「単元を貫く学習課題」のようなものはやっているか？
　→理科ではやっていない。できるだけその時間の目標を生徒の言葉を活かしたものにしているが、毎時間そのようにはできていない。

＜協議主題①について＞

・速さは予想で出たが、質量の方はやってみないと分からない。２本グラフになった時に「どういう意味？」みたいになれば、「やりながら見る」というのができたのではないか？
　「グラフに表した時に、どんなグラフとして表されるはずか」という予想を立てればよかったのでは？
　→斜面の傾きによって・・・とそのグラフは学習している。２本できて、傾きがこっちの方が大きい、だから２本並べると出ると思った。

・プロットのばらつきがあったがために、グラフとして前の勉強と結びついていない。
・やはり、分けないで、１つのグループで２つやらせないといけなかったのか？
・「深い学び」「次の思考にどうつなげるか」というのをつくり出したい。この時間の中では無理。後段にもってくるのは無理。
・実験データは把握するのに苦労する。先生が囲んだからこそできた。どう判断したらいいかで生徒から出てくるものは違ってくる。先生が強調することで「右上がりの直線」と出た。
・グラフを直接とらえようとしないで、「どんなことが分かる？」と言った方がよかったのかも？グラフは書かせるけど、そこに固執せず、考察に時間をかけた方がよかった。
・そこを先生が引っ張るのではなく、グループの中での流れにもっていければよかった。
＜協議主題②について＞
・グラフをどう理解すればいいかに時間がかかり、考察の場面において、あまり「話合い」とかそういったものはもてていなかった。
・最後のところで、結論をきちんと書いている人がいる一方で、そこがまだ分かっていない人もいた。課題に対しての結論を書くのだということが分かっていない生徒もいた。
・グラフについての議論、つまり科学的な根拠に基づいての話合いではなく、「言葉」についての議論になってしまっているのが残念。
・何でも順番にきちんと教えなければいけないということはないと思う。子どもたちが実感として結びつけてくれるところから導いたほうが定着はすると思う。
・「質量が同じだったら」「速度が同じだったら」と先生は聞いたが、生徒の理解はそこまではいっていない。「質量を同じで」という意識はない。だから先生が書かざるを得なかった。
・後ろから見て教えていくことが大事では？教師の視座を変えるとよい。今日のは彩花の発表「質量が一定で速度が一定で」はピンときていないのでは？
→前時に悠が「速さを一緒にすればいい」と言っていたのに、今日は気付いていなかった。
・日常生活に生きるところを考えさせたところがおもしろかった。

２　指導助言

＜素晴らしい点について＞
１．生徒の主体的な姿勢と教師の準備
①生徒について
・挙手が積極的であった。
・生徒の表情がとてもよかった。
・５０分を通して、生徒の主体的な動きが見られた。
・話の聞き方がよかった。話し手への注目がしっかりとできている。
・強いて言うならば、もっと元気があればなおよかった。
②先生について
・実験道具の準備がよかった。
・ＩＣＴの活用がなされていた。
・板書が素晴らしかった。

２．ＩＣＴの活用
・データの記録に関して使われていた。
・予想の根拠として写真を提示していた。
・実験している動画を撮り、考察に再利用することもできる。

３．結果の確認と考察の視点

・子どもの思考がいちばん止まりがちなのが考察を書くときである。どれが結果でどれが考察かがわかっていないからである。よくあるのが、子どもたちに丸投げされているパターンである。
しかし、唐津先生は、結果の確認を全体で行った。その結果、生徒はどこまでどう書けばいいかを理解し、共通点、相違点にそって書いていた。欲を言えば、はじめからこの視点を示しておいてもよかった。

４．個でまとめる結論と評価問題について
・質量が同じであればという限定となっていないかもしれないが、先生がねらっているところまでは到達できていた。個でまとめると正しい文章になっていない場合もあるので、グループで見せあったりして､文章的な言語能力を高めていく方法を考えていく必要はある。

５．日常生活に関連した振り返り
・本時の学びを日常生活に返していたのはよかった。学んだことを日常生活に置き換えて考えさせていた。日常生活で意識できると学ぶ意義や有用性が高まる。

＜今後考えたいところ＞
１．根拠のある予想、仮説と見通し
・来年度より新学習指導要領が完全実施となるが、その中で重視されているのは、「根拠」である。既習事項で日常生活からはなかなかもってこられない生徒には手助けをして、できれば書かせたい。ノートに単語では書いていたが・・・「根拠」もしっかりと書かせたい。
・実験の結果の見通しをもたせることが大事である。その上で、自分たちのところでできたグラフと比べさせる。はじめにイメージさせておくとよかった。

２．結果と考察の違いを子どもたちにしっかりと指導
・どこまで書かせたかったのか。それがはっきりしていれば、子どもは迷わなかった。先生が黒板にズバッと書いた考察まで書かせたかったのか。

３．話し合う目的について
・考察の部分で話し合わせたが、先生が子どもにどうさせたかったのかが分からなかった。グループでまとめてよい考察にするのか？あるいは、修正するのか？他の子から学ばせるためか？その教師からの視点に合わせて子どもは考察する。

４．タイムマネージメント
・理科は時間とのたたかいであるから、これを大事に。
①データ記入
今日ので言えば、あとでもよかった。グラフの傾向をつかむだけでよかった。省けるところを考えるのが大事。
②スピード
今日の実験はスピードを遅くするのが一番難しいものだった。そうであれば、距離を広げてスピード感を広げてやればよかった。自由にやらせてもきちんとした結果が出た。
③エクセル入力
班から２名出し、１人が読み上げてやればよかった。
ここで生み出された５分を最後に位置付ければ、素晴らしい授業であった。

令和２年度

第３回指定訪問研究会
（保健体育・英語）

研究主題

中高一貫教育校の特色あるキャリア教育を通して、
主体的・意欲的に学ぶ生徒の育成

体育祭（１０／１０）

KJ 祭（１０／２４）

令和２年１１月２６日(木)

秋田県立大館国際情報学院中学校

《 研究会日程 》

１０：４０～１１：３０　　研究授業Ⅰ（保健体育）
１１：４０～１２：３０　　研究授業Ⅱ（英語）
１４：５０～１６：２０　　授業研究会

《 研究授業 》

教科等	授業者	単元・題材・資料等	授業教室	研究会会場	指導者
保健体育	日景美喜雄	球技（バレーボール）	中体育館	２年２組	小 舘 直 子 指 導 主 事
英　語	成　田　透 本多　牧子 ArianneSolomon	Presentation2　町紹介	２年３組	２年３組	八 田 浩 彦 指 導 主 事

《 授業研究会 》

１　はじめの言葉
２　指導者紹介・職員自己紹介
３　研究協議
　⑴　教科経営についての説明（教科主任）
　⑵　授業者から
　⑶　協議主題・協議の主な内容についての話合い
４　指導助言
５　終わりの言葉

《 協議主題・協議の主な内容 》

保健体育	協　議　主　題	体育や保健の見方・考え方を働かせ、知識や技能を活用して、仲間とともに課題解決できる生徒の育成について
	協議の主な内容	・ルールを変えた簡易ゲームは、技能を高め、自チームの課題を見付けるというねらいを達成するのに有効であったか。 ・学習カードを活用したグループの話合いは、チームの課題を設定するのに有効であったか。
	参　加　者	【授業者】日景美喜雄　【司会】杉沢美穂　【記録】唐津信幸 髙橋裕樹　木次谷優和子　武田俊樹

英語	協　議　主　題	伝えたいこと、伝えることを見出し、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成について
	協議の主な内容	・生徒が主体性をもって学びを深めることができる学習過程であったか。 ・伝えたいことを見いだし、英語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする手立てがとられていたか。
	参　加　者	【授業者】成田　透　本多牧子　【司会】菊地富子　【記録】本城直幸 藤原悠介　佐藤朋子　松尾　弘教頭

第２学年２組　保健体育科学習指導案

令和２年１１月２６日
授業者　日景美喜雄
場　所　中学校体育館

１　単元名　　球技（バレーボール）

２　単元の目標
（１）球技の楽しさや喜びを味わうことができるよう、フェアなプレイを大切にしようとすること、自己の責任を果たそうとすること、作戦などについての話合いに貢献しようとすることなどや、健康・安全を確保して、学習に自主的に取り組もうとしている。
（運動への関心・意欲・態度）
（２）生涯にわたって球技を裕に実現するための自己の課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。（運動についての思考・判断）
（３）球技の特性に応じて、ゲームを展開するための作戦に応じた技能や仲間と連携した動きを身に付けている。（運動の技能）
（４）技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法、試合の行い方を理解している。
（運動についての知識・理解）

３　生徒と単元
（１）単元（題材）について
　バレーボールは個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。基本的な技能や仲間と連携した動きを身に付け､自分たちのチームの特徴に応じた作戦を立てて攻防を展開できることをねらいとする。その際、自己やチームの課題を見付け、解決に向けて運動の取り組み方を工夫できるようにすることもねらいである。バレーボールでは巧緻性、敏捷性、スピード、筋持久力などが動きに関連して高められる

（２）生徒について
　男子６名、女子１７名の学級である。４月のアンケートで体育が「好き・どちらかといえば好き」と答えた生徒が１５名で多くの生徒は体育が好きである。しかし、「嫌い・どちらかといえば嫌い」と答えた生徒が４名いる。体育が嫌いな生徒は運動すること自体が嫌だったり、失敗したことを笑われたりしたことを理由として挙げている。昨年のバレーボールの学習ではゲームは好んで行うが、サーブやパスなどの基本的な技能が身に付いていない生徒が多く、ラリーが続く楽しさを味わうことは少なかった。技能を身に付けるための練習に繰り返し取り組もうとする姿勢が弱い。そのため、本単元でも練習に消極的な生徒が多いことが予想される。また、ボールを怖がってしまう女子が多いため、技能習得のためには時間がかかりそうである。

（３）指導について
　本単元を通して基本的な技能を身に付けゲームを楽しむことができるようにしたい。技能を身に付けるために個やペアでドリル練習に取り組んだり、グループで練習方法を選択して取り組んだりしていきたい。また、空いた場所をねらって返球するために、サーブをダイレクトに返すのではなく、サーブレシーブをし、次の人が空いた場所を狙いやすいようなトスを上げられるようにしたい。肩より高い位置からボールを打ち込んで返せるようにし、第３学年での３段攻撃にもつなげたい。
　本時は、ゲームに特別ルールを取り入れ、１回だけワンバウンドを認めてパスがつながりやすいようにし、ラリーが続く楽しさを感じとってほしい。そして、ゲームを振り返り、グループでの話合いを通してチームの課題を見付けることができることをねらいとする。前時に学習する攻撃的な返球（スパイク、ソフトアタック、ジャンピングパスアタックなど）を使って３回で返すことで、レシーバー、セッター、アタッカーの役割、空いた場所をカバーするボールを持たない人の役割があり、チームの課題として考えられるようにする。学習カードに個の考えを記入してから話合いを行い、全員が考えを発言できるようにしたい。そして、次時にはチームの課題を解決するための練習方法を選択して練習に取り組む活動につなげ、チームの能力を高めていきたい。

（４）単元とキャリア教育との関わり
　本単元では、基本的な技能を身に付けたり、チーム力を高めるたりするために練習を繰り返し行う。生徒たちはできないとあきらめる傾向にあるが、仲間と一緒に練習に取り組むことであきらめずに練習させたい。そして、教育アンケートで他の質問より低い結果であった「主体的な行動、忍耐力」を高めていきたい。また、チームの課題を見付け、話し合う活動を通して、「課題対応能力」も高めていきたい。

4　単元の指導・評価計画

時間	学習内容	学習目標	観点別評価の規準（評価方法：観察，発表，学習カード）◎主要評価内容			
			運動への関心・意欲・態度	運動についての思考・判断	運動の技能	運動についての知識・理解
1	オリエンテーション ①オリエンテーション ②器具の配置と練習	・バレーボールの特性を知り，学習の進め方について理解することができる。				◎バレーボールの特性について具体例を挙げている。（発・学）
2	ボール操作Ⅰ ①パス技能の確認 ②パスラリー	・パス技能を確認し、相手の取りやすいところに返球することができる。			◎ボール操作の技能を使って、相手の取りやすいところに返球できる。（観）	
3	ボール操作Ⅱ ①パス技能の確認 ②パスラリー	・既習のパスを使って、パスラリーに挑戦しボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるための運動の行い方のポイントを見付けている。 ・パス練習に積極的に取り組もうとする。	・パス練習に進んで取り組もうとする。（観）	◎ボール操作やボールを持たないときの動きなどの技術を身に付けるための運動の行い方を見付けている。（学）		
4	ボール操作Ⅲ ①パスラリー ②グループ練習 ③パスラリー	・準備姿勢をとり、ねらった場所にパスを返すことができる。		◎自チームの課題を見付け、解決のために練習を選んでいる。（発・学）	・味方が操作しやすい位置にボールをつなぐことができる。（観）	
5	ボール操作Ⅳ ①ねらった場所への返球 ②パスゲーム	・準備姿勢や定位置に戻る動きを繰り返し行い、空いた場所に返球することができる。			◎空いた場所に返球することができる。（観）	
6	ボール操作Ⅴ ①攻撃的な返球の習得 ②簡易ゲーム	・ジャンプをして、高い位置から返球できる。 ・仲間に助言して，仲間の学習を援助しようとする。			◎ジャンプをして、高い位置から返球することができる。（観）	
7 本時	空いた場所をめぐる攻防Ⅰ ①スパイクの確認 ②簡易ゲーム	・ゲームを振り返る話合いの活動を通して、自チームの課題を見付けることができる。	・課題を見付ける話合いで自分の意見を述べようとする。（観・学）	◎自チームの課題を見付けている。（発・学）		
8	空いた場所をめぐる攻防Ⅱ ①グループ練習 ②簡易ゲーム	・前時に見付けた課題を解決するための練習方法を選択して、練習取り組んでいる。	・課題解決に向けて進んで練習に取り組もうとする。（観）	◎課題解決のための自チームの課題に応じた練習方法を選んでいる。（学）		
9	空いた場所をめぐる攻防Ⅲ ①ゲームⅠ 作戦 ②ゲームⅡ	・自チームにあったポジショニングを考え、自分の役割に応じた協力の仕方を見付けている。		◎ポジショニングにおける自分の役割に応じた協力の仕方を見付けている。（学）		
10	空いた場所をめぐる攻防Ⅳ ①ゲームⅠ 作戦 ②ゲームⅡ	・自チームに適した作戦を考え、自分の役割に応じた協力の仕方を見付けている。	◎作戦を立てるとき、話合いに参加しようとする。（観・学）	・自分の役割を果たし，チームへの協力の仕方を見付けている。（学）		
11	空いた場所をめぐる攻防Ⅴ ①ゲームⅠ 作戦 ②ゲームⅡ	・これまで身に付けた技能をいかして、ゲームに取り組んでいる。	・公正な態度でゲームに取り組もうとする。（観）			◎試合の進め方やルールについて具体例を挙げている。（学）
12	学習の振り返り ①ゲーム ②学習の振り返り	・学習を振り返り、バレーボールで高まる体力についてまとめることができる。				◎バレーボールを続けていくことでで身に付く体力について具体例を挙げている。（学）

5　本時の計画（７／１２）

（１）ねらい

ゲームを振り返る話合いの活動を通して、自チームの課題を見付けることができる。

（２）学習過程

時間	学　習　活　動	形態	教　師　の　支　援　及　び　評　価	資料等
1	1　整列、あいさつをする。			
１０	2　準備運動をする。 体操・ドリル練習	一斉 ペア		
3	3　学習目標の確認をする。	一斉	・話合いのポイントを明示し、課題を見付ける見通しをもたせるようにする。	ﾎﾟｲﾝﾄ
	攻撃を３回で返すために、自分たちの課題を見付けよう。			
5	4　アタック練習をする。	ｸﾞﾙｰﾌﾟ	・前時の復習をし、ゲームでスパイク、ソフトアタック、ジャンピングパスアタックなどを使えるようにする。	用語 (掲示物)
6	5　簡易ゲーム１	一斉	・レシーブをしやすくするためにサービスはアンダーハンドサービスとし、アタックラインの後ろ側からであればどこから打ってもよいことにする。 ・１回だけワンバウンドをＯＫとし、パスがつながるようにする。	
3	6　ゲームの振り返りをする。	ｸﾞﾙｰﾌﾟ	・ボールを持っている人と持っていない人の動きの両面から反省してみるように促す。	
6	7　簡易ゲーム２	一斉	・３回目にアタックをして返球したチームを褒め、そのチームにも、他のチームにも３回で返す意欲をもたせる。 ・パスをつなげられるように準備姿勢をとったり、空いた場所をカバーしたりして攻めるように助言する。	
6	8　チームの課題を話し合合う。【深】	個 ↓ ｸﾞﾙｰﾌﾟ	・自チームの課題を見付けている。（学習カード） ・課題を見付ける話合いで自分の意見を述べようとしている。（観察、学習カード） ・話合いで発言できるように、最初に学習カードに個の考えを記入させる。 ・それぞれのチームの課題を掲示し、次時の学習につなげられるようにする。	
4	9　話し合ったことを発表する。	一斉	・次時に課題を解決するためにどんな練習に取り組んでみたいか発表させ、次時の学習に意欲をもてるようにする。	
5	10　学習カードに振り返りを記入し、発表する。	個 ↓ ｸﾞﾙｰﾌﾟ	・「振り返りの視点③」の「学習にどのように取り組んだのか」について記入させて学習を振り返るようにする。	
1	11　あいさつをする。			

（３）授業検証上の視点

①ルールを変えた簡易ゲームは技能を高め、自チームの課題を見付けるねらいを達成するのに有効であったか。

②学習カードを活用したグループの話合いはチームの課題を設定するのに有効であったか。

授業研究会記録（保健体育）

□会　場　　２年２組教室
□授業者　　日景美喜雄（２年２組）
□指導者　　北教育事務所　小舘直子指導主事
□参加者　　中学校職員（杉沢美穂、唐津信幸、髙橋裕樹、木次谷優和子、米倉善彦）

【協議主題】
体育や保健の見方・考え方を働かせ、知識や技能を活用して、仲間とともに課題解決できる生徒の育成
【協議の主な視点】
①ルールを変えた簡易ゲームは、技能を高め、自チームの課題を見付けるというねらいを達成するのに有効であったか。
②学習カードを活用したグループの話合いは、チームの課題を設定するのに有効であったか。

１　研究協議

（１）授業者から
①本校の生徒の実態について
・体育のときしか運動しない生徒が多い。（文化部が全体の半分以上）
・１学期は、新型コロナウィルスの感染を防ぐため、接触を避けていた。２学期徐々に接触する運動を取り入れてきた。
・２年生は、比較的話合いのできる集団である。
・体力テストの結果は、かんばしくない。
②本時について
・今日は体育館が冷え込んでいた。
・本時は、ねらいが「ゲームを振り返る話合い活動を通して、自チームの課題を見付けることができる。」であったが、そのねらいに対してどうであったか。ねらいについて、本時の中では「作戦タイム」と「話合い」の２ヵ所『ゲームを振り返る話合い活動」を設定したが、ほとんどの生徒が見付けることができたのではないか。考えたことを文章にできるか、ということについても達成できたと思う。
Ｑ授業の構想時、どんな言葉が出れば達成されたと評価できると思っていたのか？
Ａ「レシーブ」「アタック」などに絡めたものが出ればよかった。１班だけ、「レシーバーからセッターにつながらない。」という課題が出ていた。多くは、「パスできない。」などの基礎的・基本的技能に関わるものだった。他にも「仲間と仲間の間にボールが行ったとき、誰が取るのか。」といったものや「（ボールに対して）動かない。動けない。」といった感覚的なものだったり、個人の技能差に起因するものだったりであった。チームの課題を１つに限定させたので、よい課題も排除されたところもあったかもしれない。
・話合いの中身について。バレーボールが得意な人が話しがちであるが、そうでない人も発言していた。「友達の話を聞いて、次に生かしたい。」と書いている生徒もいた。ただ、書いていても挙手しない生徒が多い。

・「パスは何回でもいいよ。」とこれまでやってきた。「１バウンド１回はＯＫ」にしたおかげで、バレーボールっぽくはなった。その中でラリーが続く楽しさを味わったり、３回で返せた時とそうでなかった時の違いを話合いに入れてきた。
・学習カードは、単元ごとに毎回やっている。
・カードやシートなどの書かせるものがなくても、ぽんぽん話が出ればよいのだが、発表するためには現段階では何かに１回書かせないとうまくいかない。
・もっと活動時間を与えたかった。十分な運動時間を保障させたかったのだが、話合いをメインに行ったので…。後半、の「思考・判断」の場面では、他校ではどのような実践があるのだろうか。
・高校生の選択授業を見たが、女子だけであった。中学生と同じような感じで、「狙ったところにパスをする」というのは難しいと感じた。また、練習ばかりだとつまらないのでゲームを入れて…というのも同じようであった。
・１年生では、「パスをつなぐ、返す」、２年生ではそれに少し「攻撃」を。３年生では「３段攻撃」になれれば。
・バレーボールは、『排球』。球を自陣から排除するからだと生徒に教えたら、納得していた。

（２）質疑応答

Ｑ＜髙橋＞「学習目標」はいつ生徒に提示しているのか？

Ａ＜日景＞３分前学習のときに、ホワイトボードに記入している。

Ｑ＜髙橋＞この「攻撃３回」は、どこから来たのか？生徒から？これがどのような振り返りになり、次時にどのような課題につなげていく計画なのか？

Ａ＜日景＞計画の所で、一つ一つやっていければよかったのだが。
自分のチーム内でラリー⇒他のチームとの中でラリー⇒打ってしまう⇒アタック
という流れできたので、より本物に近づけるためにアタックの練習も取り入れた。
このクラスは、指示したことを忠実にやるタイプの集団で、他のクラスでは、自分たちのやりたいことをどんどんやっていく感じである。
ただ、「ワンバウンドもＯＫ」にしたことはどうであったか。バレーボールという球技は「ボールを絶対に落とさない」ものである。チームによっては、落とさないように頑張っている班もあったので、その班を取り上げて、「では、ボールを落とさないようにやってみようか」ということであった。

Ａ＜日景＞出した課題に対して、練習方法を考えて、次それをやってみよう、という流れを想定していた。体育の場合は、「自ら考える」というよりは「選択」になる。それを次時に「〇〇を選択して、ゲームに臨もう」というような課題にできればいいかなと思っていた。

Ｑ＜木次谷＞グループ編成は、意図的か？運動部に所属する生徒がグラウンド側のコートに多く、更衣室側のコートは、盛り上がっていなかったようだ。靖悟君だけが物足りなさを感じていたように見えた。

Ａ＜日景＞靖悟君のグループにも上手な人はいたが、積極的な人が必要だったようだ。靖悟君が男子１人だけというのもあったと思う。

＜米倉＞セッターの位置だったから、そういうのも関係したのかもしれない。帆夏さんや奈央さんをセッターにすれば、靖悟君が生きたかもしれない。

Ａ＜日景＞颯空君の班は、ポジションを交代していた。

（３）協議

視点①「ルールを変えた簡易ゲームは、技能を高め、自チームの課題を見付けるというねらいを達成するのに有効であったか。」

＜髙橋＞「ルールを変える」ということについては、盛り上がりを見せたので、それはよかったのではないか。

＜米倉＞ワンバウンドがあるおかげで、ボールに触れることができる人もいた。

＜日景＞そのせいで混乱している人もいた。

＜髙橋＞どういういきさつでそうなったのか？生徒から声があったのか？それによってもとらえ方が違うのではないか。

＜日景＞生徒から要請があったわけではなく、ゲームが続かないことに何らかの不満を生徒がもっていることを感じたのでそうしてみた。

＜髙橋＞うまくなれば「ワンバウンドはなくそう」と、生徒から挙がるかもしれない。

＜日景＞サーブも上から打ちたい人も出てくるかもしれない。でもそうすると、今度はまたそのサーブを誰も取れないかもしれない。

＜杉沢＞生徒に必要感があればよいのかもしれない。

＜米倉＞ワンバウンドは、サーブのときだけ？３回の内１回いつでもＯＫ？

＜日景＞後者の方である。同じように説明しても、解釈の仕方はそれぞれ違ったりしている。

＜米倉＞そのへんが周知されていなかったのかもしれない。

＜日景＞ワンバウンドで取るがために、枠の外にあらかじめ守る人がいたり、ルール一つ変えることにより、本来のバレーボールとは変わってきたりしたところもある。生徒たちは、サーブレシーブを課題には挙げてはいない。

＜髙橋＞ルールを変えるから、それによって作戦ややり方が変わってくる。そのため、役割は大きい。

＜米倉＞「６人の力をいかに合わせるか」だと思う。

＜髙橋＞「振り返りのところで、『アタック』や『レシーブ』のような用語があれば」とあったが、「空いている所を狙う」ためには「声掛け」が必要である。うまく、そして安心してプレーするためには声掛けが必要である。

＜木次谷＞１回目と２回目の間に、「作戦タイム」を入れたことにより、積極性や意識が高まっていたように見えた。技能が高まったかは定かではないが課題は見付かったので、手立てとしてはよかったと思う。

＜米倉＞生徒は、楽しそうにしていた。おとなしい人も参加できていた。

視点②「学習カードを活用したグループの話合いは、チームの課題を設定するのに有効であったか。」

＜日景＞「学習カード」などは、他教科でも書いているんですよね？

＜木次谷＞ＫＪ生は、１回何かに書いておかないと発表ができない。今回は割と話せていたのではないか。何も書かないで、いきなり発表させるのは無理だと思う。

＜日景＞星花さん、柊花さんも、結構書くことができていた。ただ活動させることを主にするなら、なるべく書かせなくても発表できれば。カードもなしで。

＜髙橋＞次の時間は、運動メインで。また繰り返すことによって、話合いの時間も短くなっていくのではないだろうか。技能については、３年生になってから。運動部に所属している生徒は、比較的普段から話合いはしているので。

＜木次谷＞ＫＪ生は経験値があまりない。

＜髙橋＞ＢＧＭは、毎時間流しているのか？
＜日景＞そうだ。そうしないとシーンとしてしまうので。
１年生のソフトボールの授業のときに、声を出させようとするとピッチャーにやじを飛ばしていた。
＜杉沢＞声を掛けるときは「声出せー！」では声が出ない。具体的に「〇〇と声を出せ」と言わないと、生徒は分からない。
＜日景＞声の掛け方も教えてやらないといけない。号令も毎回違う人にやらせている。
＜唐津＞授業の流れはよかった。できれば、もっと運動量が欲しかった。

２　指導助言

・４月、５月は、コロナで大変だったと思う。全体計画も変えていただいたようでありがたい。

＜よかった点＞
①学級の雰囲気がよい。良好な人間関係が構築されている。学習規律もよい。
男子６人だが、男女仲良く学び合いをしていた。学級経営がうまく行われているのでしょう。発表時に、聞いている人が体をさっと発表者に向けていたのが素晴らしい。発表者もうれしいと感じているはずだ。
②準備運動について
体操からパス練習と移ったが、断簡的に進んで、本時で使う技能を入れていた。ただ、ボールがまだあったので、できれば１人に１個渡してやらせてもよかった。キャッチまで１人で。その後対人で、と。できるだけたくさんボールに触れさせたい。
音楽はよい。有効である。気分を高める効果がある。曲などは、できれば子どもに聞いてみてはどうか。
③学習の見通しのもたせ方について
タイムクロックを使用したり、話合いのときのポイントを明示したり、既習事項や大切なことの確認ができたりした。
④学習カードの活用について
１枚もので持たせるのか、別のシートも使うのか、いろいろと考えられると思うが、毎時間活用しているのがよい。来年度から「思考・判断・表現」という観点になるので、そのあたりも今後検討してほしい。よかったのは、個人で考える欄があり、その後グループで話し合ったことを書く欄があったこと。子どもに書かせたのなら、先生も書く。できるだけ。振り返りは、技能の知識を使った言葉で書かせたい。単に「楽しかった」だけではなく。
⑤たくさんほめていた（人柄）
ほめ言葉がよかった。ほめないと子どもはやらない。助言やアドバイスは、できるだけ知識に関わることを、大きな声で、より具体的に。そのことが、チームでの話合いに生きる。

＜視点①について＞
・ルールは、子どもたちの必要感があればよいが、どういうルールにすればよいか分からない。そこで、１年生のときにできるだけ特別ルールを作らせれば、２年生で「じゃあどうすればいい？」というようにすればよい。

・「ワンバウンド」で処理することは、実は難しい。それよりだったら、キャッチがいい。ワンバウンドは、道具を使用する運動（テニスやバドミントンなど）であれば有効である。バレーボールは、「落とさない」というのが大前提になる。
・運動部に所属している子どもがいるので、例えば野球の守備などは、「ボールに対して正面に向かう」とか「腰を落とす」など、関連のある動きはある。先生が少し価値付けてやればよい。ボールを「自分が動いて取りに行く」ということを教えなければならない。
・「ルール」は、できるだけ技能を身に付けさせ、楽しんでできるようなものに。
・「サーブレシーブ」は、①できるだけアンダーハンドパスで、②オーバーハンドパスでキャッチ、という段階を踏ませればよい。アタックするためには、いいトスが上がらなければならない。いいトスを上げるためには、オーバーハンドパスが有効だ、というように。
・「バレーボールの楽しさ」というのは、スパイクである。その練習を取り入れたことはよかった。子どもたちは、結構入れていたし、楽しいと感じたはず。では、どうすれば打てるようになるのか、そのためにはいいトスを上げなければ。いいトスを上げるためには、オーバーハンドパスが大事。オーバーハンドパスを上手にするには、いいレシーブが大事。というように、子どもたちに逆のゴールからの指導を。そのような発想が大切である。「なんで、このようなパスをした方がよいのか」といった必要感をもたせたい。
・「３年生で『３回で攻撃』。だから今２年生で前取りしてやっているんだよ。」というように話してもよいと思う。また、なんでも「パスから」ではなくて、スパイクやサッカーで言ったらシュートからやってもいい。シュートのためには、ドリブルでつなぐことが必要である。
・基本的に、中学生ですべて完結させなくてもよい。新しい指導要領や小学校解説も読んでみてほしい。なぜかというと、小学校で体育嫌いになると、中学校で体育を好きになるわけがない。とにかく、その運動の楽しさを味わわせること。そのようにして高校へ進ませる。自分たちはプロではないのだから、技能を完璧にしなくてもよい。「運動や球技って、おもしろい。」という思いをもたせてほしい。

＜視点②について＞
・今日のように、カードを使うのはよい。ただ果たして、自分のカードだけでよかったのか。今日の活動の流れは、ゲーム①→振り返り①・作戦→ゲーム②→振り返り②、であったが、振り返り①と②を比較させるということが必要であった。そのため、「振り返り①・作戦」の場面で、何かホワイトボードなどに掲示させたらよかった。
・今日は、いきなり「チーム」であったが、今日は「個」ではなかったか。例えば、ボールを取れなかった←ボールを取りにいかなかった←他の人とぶつかるかもしれないと思った←だから声を出すことが必要、というように、「自己やチームの課題」として、自分事としてとらえなければならない。つまり、「自分は○○だったけど、チームは○○だったよね。」というように、具体の動きを盛り込ませたい。何を視点に書かせるのかが重要である。
・ゲーム①とゲーム②の違いを、生徒は分からなかった。「３回で」なので、３回で何回できたのか。例えば、めくりの得点板を使用してカウントしてみてはどうだろうか。比較する必要があり、そのためにはそれを視覚化する必要がある。何もないところからは比較することはできない。カウントを見て、「ラリーが続くとバレーボールって楽しいんだな。」と感じるであろうし、「やっぱり話合いって大事だな」と感じて、話合いも充実してくるはずである。このように、チームの課題を設定するためのツールがあればよい。

＜課題＞

①「学習課題」は、「～？」という「ねらい型」に。生徒に、振り返りのときに何が大事だったのかを考えさせるように。できれば、子どもたちと一緒につくり上げることができればよい。例えば、「ラリーが続かなかった」のであれば、「『どうやったら」＋○○？」という形にして、「○○の所に『３回』って入れてみようよ。」と、先生が提案してもいい。

②「振り返り」は、ぜひ発表させたかった。例えば、「今日のＭＶＰ」など。みんなで共有したい。ほめるなどして、意欲付けを図りたい。

③基本的技能をどうやったら身に付けられるのか。それは、１年生のときから丁寧に指導する必要がある。例えば、「オーバーハンドパスは額の上で」とか「棒立ちはダメ」とか。ただ、スパイク練習を入れたのはよかった。

④準備運動のドリルはよかったが、量が足りない。「思考・判断」のときだからこそ、準備運動で汗をかかせたい。例えば、サーキットを取り入れるなどして。１０分間だけでも。運動部員が少ないという現状からも。全員で体操をやらせなくても、グループなどで動かしてもいいと思う。

⑤整理運動をぜひやってほしい。家に帰ってからけがを訴える生徒が多い。２分くらいでも、そして「どこか痛いところはない？」などと。運動部員でも、家に帰ってから訴える生徒いる。子どもたち、グループででも振り返りが終わったところから行うなど。

第２学年３組　英語科学習指導案

期　日　令和２年１１月２６日(木)
授業者　成田　　透（Ｔ１）
　　本多　牧子（Ｔ２）
　　Arianne Solomon（ＡＬＴ）
場　所　２年３組教室

１　単元名　　Presentation 2　町紹介

２　単元の目標
（１）聞き手に分かりやすいように発表したり、発表を聞いて積極的に質問したり、意見を述べたりしている。　（コミュニケーションへの関心・意欲・態度）
（２）自分の町について、４文以上の英文を書いて発表することができる。(外国語表現の能力)
（３）先生や友達の発表を聞いて、町の様子について理解することができる。
（外国語理解の能力）
（４）スピーチの構成に関する知識、There　is(are)の文や、動名詞の形・意味・用法に関する知識を身に付けている。　（言語や文化についての知識・理解）

３　単元と生徒
（１）単元について
　本単元は、町紹介のモデル文を理解し、そのあと自分が住んでいる町についてまとめ、書いて発表したり、質問し合ったりする活動と、世界の友達の町について知るという題材である。
　言語材料としては、Unit 6 で学習した there is 構文の復習として、there is 構文の肯定文・疑問文、単数・複数が出てくる。
　「自然」「建物」「祭り」「食べ物」など、自分の町について紹介したい話題の例を複数示すことで、同じ町のことでもさまざまな切り口から紹介できるようにしたい。

（２）生徒について
　男子７名、女子１６名の学級である。男女の仲がよく、自分の考えや質問などを発言しやすい雰囲気の学級である。学習に対しては、真面目に取り組むことのできる学習集団であるが、集中力に欠け、指示がなかなか伝わらない場面も見られる。
　これまでの英語の授業においては、ペア活動を多く取り入れることで、誰とでも話しやすい雰囲気をつくってきた。

（３）指導について
　本単元では、まず東西南北を使った表現を使って、自分の住んでいる町の位置を説明できるようにしたい。次に、総合的学習の時間で調べた自分の町の宣伝とつながりをもたせながら自分の町の有名なものや、自分の町にあるものを紹介し、さらにその場所でできることなどを紹介させたい。
　２学期、国際文化交流会を行った際は、日本語を使って外国の文化を学んだり、自分の町を宣伝したりしたが、この単元を学習することで、英語で宣伝することができたという達成感をもたせたい。実際ＡＬＴなどの外国人に自分の町を紹介したり、来年度修学旅行で台湾へ行って学校交流する際に自分の町を紹介したりすることができるなど、実生活の中でも活かせるよう指導を進めていきたい。その際、写真を使うことや、地名や地域ならではの固有名詞は、知らない人には聞き取りづらいので、できるだけゆっくり言ったり、繰り返し言ったりすることが効果的であることを確認したい。

（４）単元とキャリア教育との関わり
　１学期に行ったＫＪキャリア教育アンケートでは、本学級は概ね良好な結果であったが、「気持ちが沈んでいる時や、あまりやる気が起きない物事に対する時でも、自分がすべきことには取り組もうとしていますか。」と「不得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組もうとしていますか」の問いに対する肯定的回答が、他の項目よりも若干低めであった。そこで本単元では、順序立ててスピーチを構成するよう丁寧に指導することや、総合的な学習の時間ともつながりをもたせ、意欲的に発表に取り組めるようにする声掛けをしていきたい。

4　単元の指導・評価計画

時間	学習内容	学習目標	観点別評価の規準（評価方法：観察、発表、ワークシート） ◎は主要評価内容				キャリア教育の視点から身に付けさせたい能力・態度
			コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	
1	モデル文の内容理解と発表内容の構想	自分の町について、４文以上の英文で発表したり、発表を聞いて質問したり、意見を述べたりすることができる。				◎スピーチの構成に関する知識、there is(are)の文、動名詞の形・意味・用法に関する知識を身に付けている。 （ワークシート）	
2 本時	町紹介についてのスピーチ		○聞き手に分かりやすいように発表したり、発表を聞いて積極的に質問したり、意見を述べたりしている （観察）	◎自分の町について、４文以上の英文で発表することができる（発表）			○主体的に行動する力
3	本文の内容理解	世界の友達の町を紹介したスピーチ原稿を読んで、その内容を理解することができる。			◎世界の友達のスピーチを読んで、町の様子について理解することができる（観察）		

５　本時のねらい（本時２／３）

（１）ねらい

自分の町について、例文の文型を活用しながら、中間発表よりステップアップさせた４文以上の英文を作成し、魅力的に発表することができる。

（２）学習過程

時間	学習活動	形態	教師の支援及び評価			資料等
			Ｔ１（成田）	Ｔ２（本多）	ＡＬＴ	
	0　Guess what	一斉	・活動を通して英語を話しやすい雰囲気をつくる。	・単語が出てこない生徒へヒントを与える。	・単語が出てこない生徒へヒントを与える。	ＴＶ 電子黒板
5	1　Warm-up ・あいさつ ・復習	一斉	・リズムとテンポを大切にして進める。	・生徒とともに声を出し、生徒の発声を支援する	・モデル文を読む。	ＴＶ 電子黒板
5	2　Target ・教師のデモンストレーションを見て、学習目標の確認をする。	一斉	・Ｔ３とのデモンストレーションを通して、町紹介をする。	・ポイントを黒板に貼る。	・Ｔ１とのデモンストレーションを通して、町紹介について質問をする。	ＴＶ 電子黒板 カード
	自分の町について、４文以上の英文で魅力的に発表しよう！					
１０	3　Preparation ・写真を使って、相手に伝わるようにスピーチ練習をする。	個	・スピーチまでたどり着かない生徒に、例文の文型を活用することでスピーチできるよう支援する。 ・地名や地域ならではのものの名前をゆっくり言ったり、繰り返し言ったりすることが効果的であることを伝える。 ・黒板に貼っているポイントを確認させながら、練習できるように支援する。			写真 付箋
5	4　Group Activity 1 ・４人１グループで、紹介したり、質問に答えたりする。【主】	グループ	・教師がそれぞれ２グループを担当し、相手に分かりやすくスピーチできるよう、また、質問や意見が出てこない生徒にヒントを与えるなど支援する。			写真 付箋
5	・中間発表をする。	一斉	・中間発表する生徒を意図的に指名する。 ・生徒のよいところを紹介しながら、さらにステップアップできるよう助言する。	・町紹介の写真を教材提示装置で提示する。	・生徒の町紹介について質問をする。	教材提示装置
5	5　Thinking Time ・最初のグループ活動を基に、より分かりやすく、さらに情報を付け加えた詳しい内容にする。【主】【深】	個	・中間発表を基に、最初の活動で得た情報を付け加えながら、より詳しい内容になるように支援する。			付箋
5	6　Group Activity 2 ・新しい４人１グループに分け、町紹介をする。	グループ	自分の町について、例文の文型を活用しながら、中間発表よりステップアップさせた４文以上の英文を作成し、魅力的に発表することができる。（発表）			写真 付箋
5	・全体で町紹介の発表を共有する。	全体	・生徒の発表から、よかった点を紹介し、次時への意欲を高める。			写真 付箋
5	7　Reflection ・授業の振り返りをする。 ・次時の予告をする。	個	・自分の町を紹介するとき、分かりやすく、さらに情報を付け加えた内容にすることができたかどうか確認する。			

（３）授業検証上の視点

①生徒が主体性をもって学びを深めることができる学習過程であったか。

②伝えたいことを見いだし、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとさせる手立てはどうであったか。

授業研究会記録（英語）

会　場　　２年３組
授業者　　成田 透・本多牧子・Arianne Solomon
指導者　　北教育事務所　八田浩彦　指導主事
参加者　　成田 透（授業者）・本多牧子（授業者）・菊地富子（司会）・本城直幸（記録）・藤原悠介・佐藤朋子・松尾 弘 教頭

【協議主題】
　伝えたいこと、伝えることを見出し、英語で主体的にコミュニケーションを図ろうとする生徒の育成について
【協議の主な視点】
・生徒が主体性をもって学びを深めることができる学習過程であったか。
・伝えたいことを見いだし、英語で主体的にコミュニケーションを図ろうとする手立てがとられていたか。

１　研究協議

(1) 授業者から

成田・本校ではすべてＴＴによる授業だが、Ｉ期は本多教諭は入っておらず、２期時間割から本多教諭と２人で行っている。ＡＬＴも含めた３人での授業は今日初めて行った。
・指導案では、「魅力的に発表しよう」としていたが、「魅力的に伝わるように」として授業を行った。
・発表の場面では声を大きくとか、付箋を見ながらではなくアイコンタクトや写真を指さしてなどを意識して発表するようにと指示したが、難しかったようだ。
・１回目よりも、２回目の発表で情報を加えたりステップアップをと考えたが、実際にはそこへ行ったことがないのに発表している生徒もいて、難しかったようだ。
・質問もうまくいかなかったので、魅力を付け加えるのが難しかったようだ。
・代表による発表は、事前に考えた生徒がうまくまとめられていなかったので急遽選んだ生徒で、班ではうまくできていたが前に出てきたらスラスラとはいかなかった。

本多・昨日一昨日と他のクラスで練習のような授業をしたが、写真の裏に付箋を貼ってそれを見ながら発表する生徒がいて、本時ではアイコンタクトを意識させなければと考えた。
・発表の仕方や、説明・質問時に英語が出てこないときは日本語でも良いから進めるようになど、授業のスタート時点での指示が大切だったと感じた。
・班活動では質問がなかなか出てこないので、そこに時間をとられたと思った。
・単に魅力を伝えるだけの一方的な発表ではなく、相手と話すこと、コミュニケーションをとることに重みをおいた授業の進め方についてご指導いただきたい。

アリー・行ったことがない所を紹介していて、質問に答えられない生徒がいた。

(2) 質疑応答・協議

菊地・協議に向けて授業者への質問があれば。

教頭・発表を２回設けたということは、質問を受けて発表をステップアップさせて欲しいという先生の思いからか？

成田・全員ではなくても一部生徒は付け加えて発表していたので良かったかなと。ただ、欲を

言えば、できる生徒にはその場所への思いや詳しい情報を加えたりして発表をステップアップさせて欲しかった。

教頭・行ったことがないのに紹介していたということは、場所は自由に選ばせたのか？

成田・時間もなかったので自由に選ばせた。そのため、ネットで調べれば誰でも分かるような情報で発表する生徒もいた。

菊地・発表や質問に使う例文をもう少し出しておいても良かったのでは？

成田・他のクラスで例文を全部出しておいたら、そればっかり見て発表し、覚えようという姿勢がなかったので、今日は出さなかった。

菊地・なぜ先の質問をしたかというと、１回目の時に自信なさそうに発表する生徒がいたことと、質問に関してもどう聞いていいのか分からない生徒もいたようなので。

本多・説明や質問のパターンも提示しておいた方が良かったかなと。

本城・本校生徒の実態と照らし合わせれば、基本的でしっかりと定着させたい事項はやはり提示しておいた方が良かったのではないか。もし、その提示する材料が多いのであれば場面ごとに貼り替えるなど、小道具を使い分けて授業を進めたり、理解が遅い子やなかなか声が出ない子には「あそこを見てまねてごらん」と支援するなど、授業をコントロールして行くのが教師の仕事ではないのか。

佐藤・本校では、電子黒板でのプレゼンなどＩＣＴ機器を利用した授業がたくさん行われていてすばらしいと思う。評価のところでは３つのポイントをあげていて、生徒の自己評価はＡが15人Ｂが８人と良いのだが、英語としてはどうなのか？　魅力的にという点よりも、英語で言えて会話できなければならないのだから、果たしてどうなのかと。本校生徒は、基本的なところや前のところが分からなくてどんどん下がっていく生徒が多い状況下であり、本時も、メインの「５　中間発表をする」場面で何を拠り所にして良いのか分からない生徒もいたようだ。やはり、黒板や掲示物を有効に使って学び合いを深めていくとか、質問時間で出た内容を全体で共有する場面が必要だったのではないか。また、実生活に基づいた教科の英語として、今日学んだことを次にどう活かしていくかということが大事ではないのか。さらに、英語の授業なのだから、友達の発表への反応も簡単な英語でできないのかなと思った。

菊地・英語を使って発表させる、英語で反応させるための工夫とかがあれば。

本多・英語の授業において英語で反応させるというのはやはり大事なことだと思う。最近の自分の授業では、Ｉ agree. とかＩ see. などと英語で反応させているが、分かっていても恥ずかしがってなかなか声が出ないのが現状なので、今後も積極的に声が出せるように積み重ねていきたい。また、最近の英語の学習指導においても、まず話してみて、その後に正しい英文にするという流れになってきており、本時においても、質問時間に英語で何と言うのかを尋ねられてとっさに単語を回答したが、文章にした場合にはよりふさわしい単語があるという場面があった。でもその場での会話としては成り立っていたので、生徒たちにも「まずは話してみる、積極的にコミュニケーションしてみる」という姿勢を身につけさせていきたいと思っている。

本城・今話されたＩ agree などのカードみたいなものは作ってあるのか？

本多・以前勤務していた学校では英語教室があったのでそういうのを作って掲示していたが、本校では作っていない。

本城・さっきも言ったが、本当に定着させたいことであれば、基本的すぎることであってもカードを作って掲示しておくとか、今は英語の時間だから英語でとか、生徒をどんどん仕向けていかなければならないのではないか。数学でも、三角形の合同条件を記したカードを作って何度も提示して暗記させても、昨日言えても今日は言えない生徒がたくさんいる。やはり、本校生徒の実態を考えたら厳しいと思う。

本多・今後、簡単な会話や反応の仕方を黒板に貼って、その都度示していくなど定着を図っていきたい。
本城・発表者の２名はどのようにして決めたのか？
成田・１人目のちゅらさんは、１回目の発表状況を観察してアイコンタクトや写真を示しながらのプレゼンが良くできていたので指名した。２人目のれもんさんは、班活動ではよくできていたのだが、前に出たら緊張したのかスラスラといかなかった。
菊地・全員に２回発表させたが、内容をプラスできていたのか？
成田・１回目は魅力を伝える、２回目には何か情報を追加して、ということで発表させたが、中にはステップアップできた生徒もいた。
菊地・行っていないところを紹介する生徒もいて、やはり難しかったのではないか？
藤原・最初にデスクワークをやったときに、成田先生がデモの時に使っていた滑り台とかバーベキューの話をしていて、それと関連づけたものをさせている点が良かった。
・付箋へのメモでは日本語で書いている生徒もいて改善が必要なのかなと思った。
・12：35分までかかっていたのは、タイムマネジメント面でどうなのかなと思った。
・自分もこのクラスで授業をしているが、生徒は普段通りの様子であったと思う。
教頭・ウォームアップで生徒もやる気になっていったのではないかと思った。オールイングリッシュの取り組みも良かったし、２回目の発表で相手を変えていたのも効果的だったと思う。デモの時にはやはり例文があった方が良かったのではないかと思った。
菊池・今日の授業は、うまくできたといえるか？
成田・良かったかなと思っている。
教頭・次の時間で話したことを書かせると思うが、２回目の発表の時には時間を余している生徒もいたのであそこで書かせても良かったのかなと思う。

２　指導助言

○良かった点

①生徒の様子。明るく楽しく生き生きと活動していた。オールイングリッシュに生徒も積極的に反応しようとしていて、授業を通して生徒が鍛えられていると感じた。

②意欲の高まる場面設定。自分の街をただ説明するのではなく、魅力が伝わるようにのシチュエーションは、はやくやってみたいと思わせる意欲の高まる場面設定で良かった。デモで今日の学習の流れを確認することができていた。

③ＴＴの実践。３人の先生方の役割分担が明確でチームワークが良かった。細かいところまで打ち合わせされているのだなと感じた。関わり方や支援のバランスがとれていて効果的なＴＴであった。今後は、生徒を見る視点を３人で役割分担していくことも考えられる。

④スモールステップの展開の良さ。一つ一つの課題を段階的に少しずつ与えながら展開していた。まず個で充分に準備をし、グループアクティビティを２段階にして合間に中間評価を設けて学びの状況を看取るという手立てがなされるなど、子どもたちが充分考える時間が設定されていて良かった。

⑤繰り返し触れさせるということについて。友達の紹介を聞いて内容を変え、さらにグループや相手を替えて繰り返し内容に触れさせるという手立てがなされていて、定着を図るための工夫の大切さが認識されている。

●改善点

大きな柱としては、言語材料をいつどこでどう出して身につけさせていくか、いつ看取るのか、ということになる。

①目的、場面、状況について。本時は、関心意欲態度と表現能力を看取る授業であったが、表現の方に焦点を当てて考えてみると、アイコンタクトやポイントピクチャーよりも、目

的や場面、状況等に応じて思いを伝え合っているかということが鍵になる。本時の活動の目的は何か、具体的な到達点はどこか。つまり、何のために４文以上で発表しようとしたか、どうなれば魅力的であると評価するのか。例えば「修学旅行先で大館を紹介する場面で」などと目的を絞ると、伝えようとする内容が焦点化され、評価もしやすくなるし、活動の方向性も定まっていく。生徒の発表はいろいろなジャンルに広がっていたが、中身を絞っていくと何のためにどこをステップアップしていくかが明確になる。

②気づきを活かすということについて。中間発表を通して良いところを紹介しながら次に向けてステップアップできるようにと進められたが、教師のデモを聞かせた後は、例文や基本形を与えないで子どもたちに考えさせるという方法もあるのではないか。そうすると、生徒は苦し紛れの英語で伝えたいことを一生懸命伝えようとするのではないか。たくさんの間違いが起こると思うが、それらを拾い上げて指導し、やりとりを通して気づかせ、定着を図るというような方法も必要な支援の一つではないかと思う。

③積み重ねについて。どこでいつ身につけさせるか、そのためにも積み重ねが重要。習うより慣れろで、少しずつできるようになっていくことで英語で伝え合うことの面白みもついてくるのではないか。自分の指導経験ではあるが、１年で５文、２年で７文、３年で10文のひな形を学年４月の段階で与え暗記させて、毎時間Ｑ＆Ａで会話させていって定着させたことがある。生徒も、学年につれてできるようになっていくと、達成感を得てさらに次へと進んでいく。本校はＴＴで３人いるので、そのような生徒の学びの状況を拾い上げていただければと思う。

本多・自分はひな形を与えてワンミニットトークなどを取り入れたりしているが、先ほどの学年ごとの５文とか７文などについてもう少し詳しく教えていただきたいが。

主事・既習未習含めて例文に空欄を入れて与えて、出席番号順の当番生徒はその空欄にいろいろと入れて２～３往復の会話をする。

本多・どんな例文が良いんだろうか。

本城・自分は英語の専門ではないが、「これは絶対に定着させたい」という教師側の思いが子どもたちをステップアップさせていくのではないのか。教科書を教えるのか教科書で教えるのかというところを教師側がきちんと考え計画立てていけば、それが生徒に伝われば、休み時間から「この英文を完璧にさせておこう」となるのではないか。３年生で10文を会話させて３分間なんて想像つかないけれど、３年次にはそこへ持って行くんだというやり方が１年時からあるから最終的にできちゃったとなるのではないのか。

令和２年度

第４回指定訪問研究会
（数学・国語）

研究主題

中高一貫教育校の特色あるキャリア教育を通して、
主体的・意欲的に学ぶ生徒の育成

大館の食材できりたんぽ調理＆会食

令和２年１２月１０日（木）

秋田県立大館国際情報学院中学校

《 研究会日程 》

１０：４０～１１：３０　　研究授業Ⅰ（数学）
１１：４０～１２：３０　　研究授業Ⅱ（国語）
１４：５０～１６：２０　　授業研究会

《 研究授業 》

教科等	授業者	単元・題材・資料等	授業教室	研究会会場	指導者
数　学	佐藤　朋子 本城　直幸	平面図形	１年２組	１年２組	中 田 康 広 指 導 主 事
国　語	武田　俊樹	いにしえの心を語らう 夏草	３年１組	３年１組	中嶋　舞衣子 指 導 主 事

《 授業研究会 》

１　はじめの言葉
２　指導者紹介・職員自己紹介
３　研究協議
　⑴　教科経営についての説明（教科主任）
　⑵　授業者から
　⑶　協議主題・協議の主な内容についての話合い
４　指導助言
５　終わりの言葉

《 協議主題・協議の主な内容 》

数学	協　議　主　題	問題の解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、問題解決の過程を振り返り、よりよく解決したり、新たな発見を見いだしたりして、主体的に学ぶことができる生徒の育成について
	協議の主な内容	・本時のねらいを達成する探究型の学習課題、過程の設定は適切であったか。 ・自分の考えを相手に適切に伝え、集団で考えを認め合う場面の工夫は適切であったか。
	参　　加　　者	【授業者】佐藤朋子　本城直幸【司会】木次谷優和子　【記録】髙橋裕樹　成田　透　　松尾　弘教頭

国語	協　議　主　題	充実した言語活動のために、互いに関わり合いながら主体的に学びを深めようとする生徒の育成について
	協議の主な内容	・言葉を根拠に考えを広めたり深めたりできる発問、指示であったか。 ・教材文を読み取った事実と考察したことを整理して話し合うことは、考えを深めるために有効であったか。
	参　加　者	【授業者】武田俊樹　【司会】日景美喜雄　【記録】米倉善彦　本多牧子　唐津信幸　杉沢美穂　菊地富子

第１学年２組　数学科学習指導案

令和２年１２月１０日（木）
授業者　佐藤　朋子（Ｔ１）
　　本城　直幸（Ｔ２）
場　所　１年２組教室

１　単元名　平面図形

２　単元の目標
（１）様々な事象を平面図形でとらえたり、それらの性質や関係を見いだしたりするなど、数学的に考え表現することに関心をもち、意欲的に数学を問題の解決に活用して考えたり判断したりしようとしている。（数学への関心・意欲・態度）
（２）平面図形についての基礎的・基本的な知識や技能を活用して、論理的に考察し表現するなど、数学的な見方や考え方を身に付けている。（数学的な見方や考え方）
（３）基本的な作図をしたり図形の計量をしたりするなど、技能を身に付けている。（数学的な技能）
（４）平面図形についての性質や関係、基本的な作図の方法、平行移動や対称移動及び回転移動、図形の計量の仕方などを理解し、知識を身に付けている。（数量や図形などについての知識・理解）

３　単元と生徒
（１）単元について
　生徒はこれまで、「図形」について、小学校での作業的・体験的な活動を通して、基本的な図形について理解してきている。特に、平面図形については、身の回りの具体物の観察や構成等の活動を通して、図形の構成要素に着目して図形を考察する見方や考え方が育ってきている。
　第１学年では、移動や作図といった操作や観察などの活動を通して、図形についての直感的な見方や考え方を深めることを中心としながら、論理的に考察し表現する力を高めることがねらいである。したがって、直感的な見方や作図や作業から予想を立て、その予想が正しいことを論理的に追究する活動を意図的に設定することで、論理的な思考力を深めていきたい。

（２）生徒について
　男子７名、女子１３名、計２０名の学級である。習熟の程度に差があり、数学に対して苦手意識をもっている生徒もいるが、分からない問題にも粘り強く取り組もうとする。しかし、数学の問題に対して「答えや解き方が１つに決まるもの」「計算の方法、図形についての定理や公式を機械的に暗記するもの」と受動的にとらえている生徒は多く、ある問題に対して、自ら予想を立て、その予想が正しいことを論理的に追究していくことに苦手意識がある。また、これまでの授業や単元評価問題において、問題の解答は導き出せるが、自分がどのように考えて解いたのか表現できないことが多かった。このことから、筋道を立てて自分の考えを表現する力を高める必要性を感じてきた。
　４月に行ったNRTでは、図形分野の平均通過率は５５．８（全国比１０７）、特に平面図形では４５．８（１０４）という結果であった。

（３）指導について
　これまでの学習で、生徒が自ら学習課題を設定し、他者との対話を中心とした学び合いを通じて思考を深化させ、振り返りを通して自己の変容と将来へのつながりを実感できるような探究型授業に取り組んできた。本単元では、単に答えを求めるだけでなく、様々な表現方法（言葉、図、式など）で考えの過程を表現させることで、論理的に筋道を立てて考える力、考えを数学的に表現する力を高めたい。説明の際は、根拠をもとにした説明の仕方の話型を示しておく。発表場面では、表現された「言葉」「図」「式」について発表者の考えを予想する働き掛けをし、数学的に表現された考えを読み取る力を高めたい。
　本時は平面図形の１４時間目となる。おうぎ形の面積や弧の長さの求め方を一般化し、公式を用いてそれらを求める場面である。授業の導入では、命題の正誤がはっきりしない問題を提示する。なぜならば、生徒が作図や作業から予想を立て、その予想が正しいことを追究する活動を行うことで課題解決の必要性を感じ、性質や定理を自ら発見できる喜びにつながるからである。

（４）単元とキャリア教育との関わり
　５月に実施したキャリア教育アンケートでは「分からない時、自分から進んで資料や情報を収集したり誰かに質問をしたりしていますか（４．００ポイント中３．３３）」、「相手が理解しやすいように工夫しながら、自分の考えや気持ちを伝えようとしていますか（３．５）」の項目が他の質問と比較して低い結果となった。このことから、課題対応能力と人間形成・社会形成能力、特に他者に働きかける力が低いことが分かった。そのため、本単元を通して、自らの予想を既習事項を基に主体的に追究しようとする意欲、その過程における自分の考えを適切に分かりやすく表現し、友達と伝え合う力を高めていきたい。

4　単元の指導・評価計画

時間	学習内容	学　習　目　標	観点別評価の規準（評価方法：観察、発表、ノート、評価問題） 数学への関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解
1	図形の移動	しきつめ模様を図形の移動の見方でみたり、図形を移動してしきつめ模様をつくったりすることができる。	○図形の移動に関心をもち、図形どうしの関係を移動の見方で観察したり、移動の性質を調べたりしようとしている。（ノ・発・観）	○しきつめ模様を図形の移動の見方でみることができる。（ノ・発・評）		
2		平行移動の意味を理解し、それらの性質を見いだし、用語や記号を用いて表すことができる。		○平行移動の性質を見いだすことができる。（ノ・観）		◎平行移動の意味とその性質を理解している。（ノ・評）
3		回転移動の意味を理解し、それらの性質を見いだし、用語や記号を用いて表すことができる。		○回転移動の性質を見いだすことができる。（ノ・観）		◎回転移動の意味とその性質を理解している。（ノ・評）
4		対称移動の意味を理解し、それらの性質を見いだし、用語や記号を用いて表すことができる。		○対称移動の性質を見いだすことができる。（ノ・観）		◎対称移動の意味とその性質を理解している。（ノ・評）
5		平行移動、回転移動、対称移動を組み合わせた移動を考え、説明することができる。		◎平行移動、回転移動、対称移動を組み合わせた移動を考え、説明することができる。（ノ・発・評）		○図形の合同の意味を理解している。（ノ・評）
6	基本の作図	作図における定規とコンパスの役割と使い方を理解し、簡単な作図ができる。	○作図に関心をもち、作図の方法を考えたり、作図したりしようとしている。（ノ・発・観）	◎コンパスの役割に着目して、正六角形がかけるわけを考え、説明することができる。（ノ・観・評）	○定規やコンパスを、作図の道具として正しく使い、簡単な作図ができる。（ノ・評）	
7		交わる２つの円の性質を理解する。		◎交わる２つの円の性質を見いだし、説明することができる。（ノ・発・観）		○交わる２つの円の性質を理解している。（ノ・評）
8		垂線の作図方法を理解し、その作図ができる。			○垂線の作図ができる。（観・評）	◎垂線の作図方法を理解している。（ノ・観・評）
9		点と直線との距離、平行な２直線の距離の意味を理解する。				◎点と直線との距離、平行な２直線の距離の意味を理解している。（ノ・観・評）
10		線分の垂直二等分線の作図方法を理解し、その作図ができる。			○線分の垂直二等分線の作図ができる。（観・評）	○線分の垂直二等分線の作図ができる。（観・評）
11		角の二等分線の作図方法を理解し、その作図ができる。			○角の二等分線の作図ができる。（観・評）	○角の二等分線の作図ができる。（観・評）
12		基本的な作図を利用し 75°の角を作図する方法を考え、説明することができる。		○基本的な作図を利用して、75°の角を作図する方法を考え、説明することができる。（ノ・発・評）		
13		円の接線の性質を理解し、それを利用して円の接線の作図ができる。また、基本的な作図を利用して、いろいろな条件をみたす作図ができる。		◎円の接線の性質を利用して、円の接線の作図方法を考えることができる。（ノ・観）	○円の接線の作図ができる。（ノ・発・評）	
14 **本時**	おうぎ形	おうぎ形の弧の長さや面積を求める公式をつくり、それらを求めることができる。	○おうぎ形の弧の長さや面積に関心をもち、それらの求め方を考えたり、求めたりしようとしている。（ノ・観）	○おうぎ形の弧の長さや面積の求め方を考えることができる。（ノ・観）	◎おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。（ノ・観・評）	
15		おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。			◎おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。（ノ・観・評）	
16	単元のまとめ 評価テスト	章のまとめをする。	○平面図形の学習や、問題解決の過程を振り返り、評価・改善しようとする。（観・ノ・発）			◎学習内容を正しく理解し、問題を解くことができる。（ノ、評）
17		学習内容を適用して、問題に取り組むことができる。単元テストに取り組む。				◎学習内容を正しく理解し、問題を解くことができる。（評）

5　本時の計画（本時　１４／１７）

（１）ねらい

おうぎ形の面積や弧の長さの求め方を説明し、公式をつくる活動を通して、公式を用いてそれらを求めることができる。（数学的な技能）

（２）学習過程

時間	学　習　活　動	形態	教師の支援及び評価		資料等
			T1	T2	
2	1　問題を把握する。	一斉	・追究する意欲が高まるように、面積の大きさが判断しづらい問題を提示する。	・問題が視覚的に捉えられるよう、図を掲示する。	
2	2　問題解決の見通しをもつ。	一斉	・自ら解決の見通しをもてるように、既習の円の面積の公式を想起させる。	・生徒の結果と方法についての予想を見やすく板書する。	円に関する公式
2	3　学習課題を設定する。	一斉	・課題が明確にとらえられるよう既習事項との違いに着目させ、生徒の言葉で課題をつくる。		
	おうぎ形の面積や弧の長さはどのように求めればよいのだろう？				
8	4　自力で考える。	個	・早く解決した生徒には、割合が簡単に分からない中心角の場合について考えさせておく。	・自力解決が困難な生徒には、円の面積や周の長さを基にして考えるよう助言する。	
5	5　グループで考えを交流する。【対】	グループ	・一般化につなげられるよう、いろいろな中心角の場合に着目させる。		
１０	6　全体で考えを共有し、比較・検討する。【深】	一斉	・表現された考えを読み取ることができるよう、式の数字が何を表しているかを問い、比較・検討の視点とする。		
5	7　おうぎ形の面積と弧の長さを求める公式を一般化し、まとめる。	一斉	・一般化により、どんなおうぎ形でも使える公式ができたことを確認する。		補助黒板
１２	8　評価問題に取り組む。	個	・おうぎ形の面積と弧の長さを求める問題を取り上げ、理解度を把握する。		評価問題
			おうぎ形の面積や弧の長さを求めることができる。（評価問題）		
4	9　振り返りをする。【主】	個 ペア 一斉	・本時の学びがさらに深まるよう、本時で身に付けた力、将来に生きることという２つの視点を示す。	・仲間の考えを共有することができるように、見やすく板書する。	振り返りの視点

（３）指導検証上の視点

①本時のねらいを達成する探究型の学習課題、過程の設定は適切であったか。

②自分の考えを相手に適切に伝え、集団で考えを認め合う場面の工夫は適切であったか。

授業研究会記録（数学）

会　場　　１年２組
授業者　　佐藤朋子・本城直幸（１年２組）
指導者　　北教育事務所鹿角出張所　中田康広指導主事
参加者　　木次谷優和子（司会）　髙橋裕樹（記録）　成田　透　松尾　弘教頭

【協議主題】

問題の解決に向けて見通しをもち、粘り強く取り組み、問題解決の過程を振り返り、よりよく解決したり、新たな発見を見いだしたりして、主体的に学ぶことができる生徒の育成について

【協議の主な視点】

・本時のねらいを達成する探究型の学習課題、過程の設定は適切であったか。
・自分の考えを相手に適切に伝え、集団で考えを認め合う場面の工夫は適切であったか。

１　研究協議

(1) 授業者から

（佐藤）入学して初めての図形単元である。論理的に考察して表現する力を高めていきたいと考え、単元を組み立ててきた。予想したことが正しいとか間違っているということを、既習の方法を使って追究していくという形で進めてきた。おとなしい学級で、習熟の程度にも差がある。相当支援が必要な生徒もいる。集中力がもたない、関わり方に支援が必要な生徒が多い。Ｔ２の先生には、支援的な形で進めてきている。このクラスは、解答は出せるが、どのように考えて解いたのか表現できない生徒が多く、その必要性を感じて４月から授業をしている。大事にしてきたのは、探究できるような課題を設定して、学び合いで理解できるように引き上げていきたいと思いやってきているがまだまだである。

本時も、発表者と授業者のやりとりにならないようにしている。今日も、どうして２π×９になるのか質問できないという姿があるので、式の意味にこだわって指導してきたつもりである。そこで今日は「しゃべってみたら」と促したら挙手したのは２人だけだったので、その中の説明では理解していなくて、やっぱりみんなと話し合う時間が必要になった。

キャリア教育というのをＫＪで力を入れて取り組んでいるが、５月のアンケートでは「相手が理解しやすいように自分の考えを伝えているか」や「分からないときに自分から進んで解決しているか」という質問の数値が低かったので、この単元で鍛えていきたいと思って進めてきた。

単元の指導計画では、単元の終わりに近づいてきている。おうぎ形のところで２時間とっている。もう一時間は習熟の時間と考えているが、おうぎ形の中心角と面積や弧の長さは比例関係になっているというところを生徒から出させて、最後は中心角を求める学習をしていきたい。

本時のねらいはすごく悩んだ。「技能」のところで設定したので、早くまとめを終わらせて習熟させたかった。発表をスピーディーに行い、比較・検討の場面にもう少し時間をとりたかった。比例的な見方を生徒から引き出したかったところであるが、自力解決やグループでの活動の場面でそれ以上進むことは無理だなと判断してこのようになった。まとめでは、

半径という言葉を小学校のように使った。生徒は、教科書のように文字を使って２πｒのように書くことに非常に抵抗があるので、今回は言葉でまとめた。いずれは文字を使った式で書かせるようにしたい。

本時の達成度は（私が）「１問でよい」と言ったので、それについてはＴ２の支援もあって達成できている。数名が約分のところでつまずいていた。前の単元でもそうだったが、（約分は）数学の苦手な生徒にとっては達成できないところだ。継続して指導し、身に付けさせて進級させたい。振り返りのところでは、人生でおうぎ形は使わないが、数学を通して力を身に付けてほしいと毎時間思っている。キャリア教育とすごく関わってくるが、図形の学習を通して身に付いたことを生徒に書かせている。本時は、ピザを扱っているので琉斗さんは「お得なものを判断する力が身に付いた」と書いていた。

（本城）授業では、特に３人に声かけをしている。説明が聞けない。ノートがかけない。私もできたという達成感を味わわせたい。そのために、生徒と同じ目線で一緒に取り組む姿勢でいる。小学校的な立場で約分の仕方を教えていく。本校の実態に合わせてやっている。

(2) 質疑応答

（成田）英語の授業と比べておとなしい感じがした。近くの人と相談して挙手させるという授業展開を学びたい。導入がおもしろかった。学習課題が具体的でわかりやすい。琉斗とのやりとりが生かされていた。いろいろな声をひろい、一つ一つの作業や、黒板にある数字が何を表しているかとか確認していて、そういうやり方をすれば全ての生徒を理解させて進めていけるんだなと、参考になった。問題把握の場面、問題を視覚的に捉えられるようにするというのは、先生の方で貼ってすすめていく形でよかったのか。公式を導いた後、先生がホワイトボードに貼ってすぐ練習問題に取り組ませていたが、ノートに記入させる時間保証があればよかったのかなと思った。数学の場合、ペアの作り方は前後でやっているのか？

（佐藤）問題場面の提示は教師主導で進めた。ペアは特に決めていない。「近所」でやっている。

（成田）英語ではペアがワンパターンにならないようにしているが。

（佐藤）グループになれば同じ意見の人同士が集まったりと、問題によるのではないか。

（成田）振り返りでは、どんな力が身に付いたかの他に、将来に活きることとあったが、その２つ目はどういうことを予想していたか。

（佐藤）まとめは時間がなかったが、毎回、発表するところまで無駄な時間は省いて必ず振り返りまで進めるというところ、一単位時間は必ず終わるというところを意識していている。しかし、緘黙である由幸さんが発表してしまって３分位時間をとってしまった。ペアについては、男子同士が集まりがち。なので、「〇〇さんのところに行ってみよう」とか「同じ考えの人を探してみよう」と声かけするが、人間関係もあるのでなかなかグループづくりが難しい。が、だんだんできるようになってきている。また、指名されなくても違う考え同士で発表し合いなさいとやってきているがなかなかできない。

（佐藤）振り返りは時間がとれなかった。書いてほしかった内容は、論理的に説明することとか、図を使いながらわかりやすく人に伝える力とか目指し、書いてくれることを期待したが、残念ながら今日はそういう記述がでてこなかった。今後も続けていって、人生に数学が活かされているということを学んでほしい。

（中田指導主事）指導案の中に、自力解決の中で早く解決した生徒には、割合が簡単に分からない中心角のおうぎ形で考えさせると書かれているが、実際にはどういう声かけがあったもの

か。

（佐藤）しなかった。比較・検討のところで、なぜ分数にするのがよいのかというのが出てきてほしかったが、同じ考えの人もまとまっていなくて、発表もなかなか出てこない感じだったので。

（本城）最終的には、360°が全体とか、割合だとか、a／360とか、比とか。そういうのは習っているので、既習事項と照らし合わせていけば、円錐の表面積の求め方ともつながっていくが、まだまだそこまでいけない生徒がほとんど。何人か、振り返りで計算力がついたっていう生徒がいたが、私なりの印象は、２桁の数をかけ算しているということと、／360という３桁分のという、15×15×π×150°／360°は、生徒にとってはすごく大きな数を計算しているという感じがする。それが振り返りに影響していたのかと感じる。

（中田指導主事）小学校でもこれほど大きな数の約分はほとんどやらない。今日の授業では約分を強調されていた。それも反映されていたのか？等分できるものから、等分できないものを扱うことによって、一般化につながるきっかけになるのかな、と。等分できるものばばかり扱っていて、最後に等分できないものが出てきたので、下位の子は大変だったのかな。

(3) 協議

・本時のねらいを達成する探究型の学習課題、過程の設定は適切であったか。
・自分の考えを相手に適切に伝え、集団で考えを認め合う場面の工夫は適切であったか。

（教頭）最初の課題設定がよかった。テンポもよかった。が、予測させたかった。どっちがよいと思うか？と。そして、最後に小坂先生にはどちらをすすめたらよかったのか、と返したかった。そうすれば子どもたちも違ったのかな。

（成田）小坂先生（面積）と米倉先生（弧）の課題があったが、下位の子にとってはどちらから求めればよかったのかなと迷ったのではないか。面積と弧のどちらが書ければよかったのか。２つを書かせたかったのか。できない生徒にはとても大変だったのではないか。想定外に時間もかかった。

（佐藤）最終的には全部だが、できない子どもたちにとってはいくら時間をかけてもできないので、最終的には学び合いでできればいいなと思っていた。

（成田）最終的に、２つを求められた生徒はどのくらい？半分はいたのか？４問は多くはないと思ったが、生徒の実態からすれば多かったかもしれない。

（佐藤）自力解決の10分間は長い設定時間だったと思うが、実際にやってみたら想定外にできない状態だった。４問という設定は多いとは思わないが、生徒の実態からすれば多かったということだった。

（木次谷）どれから解いたらよいのかわからないという状況の生徒もいたし、いざ書いてみると計算ができなくて、２回固まるみたいなところもあった。

（佐藤）÷１／９にしたらすごい数字になって、×１／９はすぐ出てくると思ってたのですが。

（中田指導主事）360分の・・・という発想がよく出てきたなという感想をもっている。できる生徒もいる。以前、同じ授業をしたが面積と弧を同時に扱わなかった。その上に、等分の考えが出なかった。かける何分の360という発想が出てくることが素晴らしいと思った。

（複数）できる生徒とそうでない生徒との差が大きい。

（中田指導主事）出てくればそれと結びつけるとこができるんだけれども。÷４って×１／４だよねというところからスタートしないと、そういう発想が出てこない。

（佐藤）隣のクラスで事前にやってみたら４問はまったくできなかった。

（中田指導主事）もともと習熟の時間を合わせて２時間扱いの計画だったので、面積でしっかり

やっておくと、次時に弧の長さもまったく同じ発想だからあまり時間がかからない。構成的にはそういうやり方もあったのかもしれない。１時間でやるにはこういう構成しかないと思う。

（木次谷）今日頑張ろうと思って予習をやってきている生徒もいた。

（佐藤）隣のクラスでもそうだったが、約分っていうのは相当難しい。相当できなくて。

（中田指導主事）細かく約分していくという発想も、大きい数の約分を小学校ではあまり経験がないから、とりあえず２で割ってみようかという発想もなかなかない。約分について押さえたのはよかった。進級とともに経験を積んでいくので、その都度やっていくしかない。今日の技、「ミスが少ない」「速い」はよかったが、本時の授業のねらいからすると、計算する前に約分をするのもどうかな、というのもある。

（教頭）公式を一般化する前のところで、先生は共通点、違いは何と２つ聞いたのが good クエスチョンだったと思った。共通点は割合をかけているところ、違いのところは、急ぐあまりに抜けてしまった。違いというときに、面積に対して割合をかける、円周に対して割っているというようなところが確認できれば、理解も違ってきたのかな、と感じた。一緒にやっていくのであれば、そこのところを確認できれば全然違ってきたのかなと思った。

＜視点２について＞

（木次谷）普段から自信がないと発表できない生徒が多く、自信をもたせるためにペア、グループ、全体と社会科の授業でやってきている。今日はいつもよりは自分から発表したり、「反応したりしているように見えたが、関わりとか、集団で考えを認め合うとか、自分の考えを相手に伝えるという視点ではどうか。

（教頭）朋子先生はずっとこのスタイルで、授業の中で生徒を動かして確認したり話し合わせたりして確認させていて、安心感をもって発表したり説明したりしている。自信につながっている。このまま続けていけば、自力解決の力が育っていくなと思う。

（佐藤）発表に関わってほしいなと思っている。２π×９とか。仲のよいクラスだし、ハンドサインにも力を入れている。やろうともしているが、なかなかできるようになっていかない。

（教頭）先生もやってきたことを声かけしてきているし、それはこれからできていくのではないか。

（中田指導主事）スタンディングで情報交換で解決済みになっている子はいないか。わかったつもりの子はいないか。小学校でもスタンティングの情報交換は多く取り入られている。中学校でもスタンディングで情報交換するという雰囲気が出てくるのでよい取組だと思う。来年度の評価に関わって考えていかなければならないのは、「解けた人から立たせていく」というルールでやっていくと、１通りの解決方法でしか解かなくなる。評価の観点３つ、主体的に学習に取り組む態度の具体は２つ「粘り強さ」と「自ら調整するの姿」が求められる。主体的…の粘り強さとは、１つ目の解き方ができたら別の方法はないかな？と考えるとか、自ら調整する姿とは、自分で予想して解けなかったときに、他の人のアイディアや既習の方法など別の方法で取り組んでみるとか、ということになる。そうなると、今までのスタンディングでは見取れなくなる。評価が変わるが、それは指導の仕方、授業改善とも結びついている。

（髙橋）話し合いを深めるという視点で考えた時、生徒の実態に合わせた授業展開はどうあればよかったか。「小坂先生にわかりやすく説明する」と学習問題にあったので、例えば、９×９×π×40°／360°＝９πと６×６×π＝３６π、３６π÷４＝９πの比較し、式のやりとりをする。そこを生徒同士で話し合いをさせて深めていくことが今日の授業だったのではないか。そして、小坂先生に式のやりとりを含めてどう説明させるか、というところにつなげていけばどうだっのかなと思った。

（中田指導主事）本時は、公式を作り上げるというところまでねらっているので、となると、見方・考え方、思考・判断・表現でいった方がと思います。髙橋先生が言ったようなことを実際にやるとすれば、÷９や×１／９もあってもよい。全国調査でもおうぎ形の問題はよく出題されている。県の学習状況調査でもほとんど出題されている。それはメッセージ。あまり正答率がよくない。

（本城）比例や割合の考えで確認し、面積の公式を押さえた後で、弧の公式に発展させていくことに取り組ませる。

２　指導助言

今日は２学期の最終回の訪問。中学校の授業の中でとてもよかった。授業構成力、指導技術、いろいろな技がちりばめられていた。参考になることが多かった。探究型の授業展開だ導入場面では、カットしたピザがどちらが大きいかという決定問題で、面積や弧を求める必要感がでていた。私も同じ授業をしたが L（20cm、45°）、M（15cm、80°）の設定にして公式の一般化に導くようにした。できれば L サイズと M サイズ実際のサイズで比較したい。見た目で判断できるようにしたい。

導入から最終的に公式をつくりたいことを学習課題において押さえていた。とすれば、できた生徒には、公式はどうなるのかを考えさせておくのもよかったかもしれない。展開場面では、スタンディングの情報交換が機能していた。また、ペア学習、反応を求める声かけ、切り返しの発問、これらによって主体的に学ぶ姿が見られた。全体として学び合いをしている。全体を巻き込む教師の力量が現れている。さすが。

考えの共通点を問い、それによってそれぞれの考えを結びつける。統合的な考え、数学的な見方・考え方の一つになる。公式化する前に、中心角／360にしないといけないという必要感について説明した後に、先生が具体的に問うた場面では、１人の生徒が気付き、多くの生徒にに広めるよりは多くの生徒が気づくような手立てをとった方がよかった。一度解き終えた後に、似たような問題をつくらせる活動があれば、等分されない問題が出てくることもある。そうすれば発展的な考え方となり、数学的な見方・考え方のうちの一つ。生徒の実態からそれができないとすれば、教師が例題として与え、気付かせることも可能だ。時間がなくて25°がうまくいかないということにどのくらいの生徒が気付いたか。終末場面では、能率的な約分の仕方を確認した上で練習問題に取り組ませていたのがよかった。ミニティーチャーを活用しながら達成状況を確認していたのもよかった。

さらによくしていくために、導入の見通しでは、何をどのように見通させるかが大事となる。学力差も考慮して全員が自力解決できるように見通しをさせてから自力解決をスタートさせたい。例えば、「半径６ cm、中心角90°」のおうぎ形の面積は小学生の時に求めた経験がある。これを確認できれば見通しがもてたかもしれない。

展開では、本時のねらいいを達成させるために、学び合いで何をどのようにおさえることが必要なのかということの吟味が大切かなと思う。教材研究の深さは授業者によって違うが、今日の授業の肝は、元の円の何分の何かが分かれば出せるというところ。それがわかれば、中心角と面積の比例の関係であることをこの時間で明確にしなければならない。比例関係に気付かせたい。おうぎ形に延長して円を描かせ、その上で図から視覚的に理解させたい。その他には表の活用もある。比例関係がわかればよいということを生徒が理解できれば、何分の何かがわかればよいことになり、生徒に納得感が生まれる。「おうぎ形は元の円の何分の何だから」ということが生徒たちに繰り返し確認されて理解されればよかった。小学校との学習の結びつきが少し弱かった。展開の場面で小学校での学習を結びつけて確認していれば理解が深まっていたかもしれない。図などで視覚的に攻めていくことで全員の理解が深まるのかと思う。視覚に訴える教具の工夫も大事。

評価場面では、指導に生かす評価と記録に生かす評価があることを意識していきたい。指導に生かす評価とはCにならないための評価ということ。Bになるように支援する。授業が進み、ここまでは全員ができてほしいなという成績をつけるときにするのが記録に生かす評価。手を出せるのか出せないとか、ここではできなくても、ここまでではできてほしいとか。そういう意識があることによって私たちの指導も大分変わってくる。今日は指導に生かす評価、それでよかった。３月発行の『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』には、指導に生かす評価は「・」、記録に生かす評価は「○」で示されている。主体的に取り組む態度の基本的な考え方も同じ。

振り返りについては時間がなかったとか、やらせたかった振り返りが全部できなかったというのもあると思うが、紹介した振り返りについては、紹介するだけの価値があると思うので、その価値が何なのかを具体的に生徒に伝えていくことで価値づけてほしい。キャリア教育という視点で考えると、生徒がどういう視点で振り返るとよいのかというのがつかめていない。よい振り返り紹介していきながら、具体的に伝えていくとよい。

２学期の授業がこういうよい授業でよかった。中学校の授業改善が、小学校の授業改善に比べて進んでいないというのが全県的な課題。一人でも、二人でもこのような授業をしてくれる先生がいてくださると変わってくる。今後もよろしくお願いしたい。

第３学年１組　国語科学習指導案

令和２年１２月１０日（木）
指導者　武田　俊樹
場　所　３年１組教室

１　単元名　　いにしえの心と語らう
『夏草－「おくのほそ道」から－』光村図書３年

２　単元の目標
（１）古文や漢文を読み、様々な見方で読み味わって自分の意見をもとうとしている。
（関心・意欲・態度）
（２）古文や漢文を様々な観点で読み味わうために、場面や登場人物の設定の仕方を捉えて、文章全体の理解を深めている。（読むこと　イ）
（３）古文や漢文を読んで、文章に表れているものの見方や考え方の違いを整理し、人間、社会、自然などについて自分の意見をもっている。（読むこと　エ）
（４）歴史的背景などに注意して古典を読み、その世界に親しんでいる。
（伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項　ア(ｱ)）

３　生徒と単元
（１）単元について
『おくのほそ道』は、和漢混淆をふまえた屈指の名文であり、格調高く、また韻文と俳句が見事にとけあったものと考える。本教材「夏草」は、その『おくのほそ道』の「門出」の部分と、「平泉」の部分から構成されている。『おくのほそ道』は、俳句を紹介する前に地の文が書かれているのが特徴的である。生徒が地の文の内容を深く読み取ることができれば、この構成により、俳句が一層深みのあるものとして存在感を増しているということに気付くはずである。
「門出」の場面では「旅」という言葉が多用され、人生を旅とする芭蕉の考え方が凝縮された部分となっている。「平泉」では、その旧跡に立ち、藤原三代の栄華、義経主従の功名に思いをはせながら、杜甫の詩を口ずさみ、単に荒れ果ててしまった景色のみを見るだけではなく、そこに生きた人々の心にも思いを馳せ、そこから自然の悠久さと人間の営みのはかなさを感じ取ることができる。芭蕉がどのような思いで旅をし、旅に対してどのような考え方をしているのかをつかむことにより、作品に込められた芭蕉の生き方やものの考え方、さらには人生観までも知ることができるのではないだろうか。そして、それが古典のすばらしさを感じさせる一助になると考える。さらに、教科書に取り上げられている俳句や古文を読み味わわせることで、芭蕉の感性やものの見方、考え方が、現代を生きる生徒にも大いに参考となるだろう。

（２）生徒について
男子８名、女子１６名の学級である。日々の授業にまじめに取り組んでいる生徒が多い。しかし、普段の授業では自分の考えをもってはいても、自ら進んで表現せず、教師が板書した表現しか書かない生徒がいる。また、話合い活動では、意見発表にとどまり、対話が成り立たないときがある。
そのような実態から、教科書の本文から読み取れることを最大限に生かして、自分の思いをしっかりともたせ、さらに他者に向けて交流することにより自分の意見を深める。そして、内容理解にとどまらず、自分の考えを広めさせたい。
生徒はこれまで、一年「蓬莱の玉の枝」（竹取物語）、二年「扇の的」（平家物語）、「枕草子」、「仁和寺にある法師」（徒然草）の学習を通し、古典の文章に出会い、音読を中心に古文に読み慣れ、親しむとともに古人の生き方やものの見方を読み取ることにより、古文に対する興味・関心を高めてきた。しかし、古典に対して、苦手意識や拒絶的な態度をもっている生徒も少なからず存在している。歴史的仮名遣いや古語の理解が十分でなく、現代語訳に対して強い苦手意識を感じており、作品本来のおもしろさにたどりつかない要因となっているようだ。
そこで、本単元では音読や、芭蕉の旅に対する思い、現在を生きる私たちとの共通の思いを考えることで、作品本来のおもしろさを味わわせ、作品への関心を深めさせたい。このことが、古典文学をさらに深く学ぶことで知識欲を喚起させることにつながり、学習への意欲となると考える。

（３）指導について

本単元の指導に当たっては、作品が俳諧紀行文であるので、芭蕉がどんな思いで旅をしていて、旅に対してどんな考え方をしているのかをつかむことによって、作品のおもしろさや、芭蕉の旅に対する思いと現代を生きる私たちとの共通の思いを考えさせたい。また、独特の漢文調の文章や、対句表現、添えられている俳句を鑑賞することで、芭蕉が推敲に推敲を重ねた格調高い文章を楽しませたい。それを通して、生徒たちに、昔の人のものの見方や考え方に触れて我が国の文化や伝統について関心を深めさせ、古典に親しむ態度を育てることがこの学習のねらいである。

「門出」の場面では、芭蕉の旅への思いを理解させるために、原文の随所に描かれた芭蕉の旅への思いをとらえさせる。この際、「なぜ死を覚悟してまで旅に出たのか」考えさせることで芭蕉の人生観や、俳句の芸術性を高めたい強い思いを掴ませたい。「平泉」の場面では、涙を流す芭蕉の思いを考えさせることで、単に風景を見て詠む俳句だけでなく、史実をもとに知識も入れた文学性の高い俳句を作ったことに気付かせたい。さらにそれをグループで話し合わせることで、文の内容についての理解を深め，芭蕉の生き方やものの見方にせまらせたい。

（４）単元とキャリア教育との関わり

１学期に行ったＫＪキャリアアンケートの結果では、自己理解・自己管理能力の項目「不得意なことや苦手なことでも、自ら進んで取り組もうとしていますか」、課題対応能力の項目「分からないことやもっと知りたいことがある時、自分から進んで資料や情報を収集したり、誰かに質問したりしていますか」についての自己評価がやや低い結果となっている。このことから、困難な課題に対して自ら調べたり考えたりする姿勢が身に付いていないと考える。

本単元では、個人で考えた後にグループや全体で意見を交流する活動を設定した。そうすることで、自分が調べられなかった事実や多様な考えに気付き、自分の考えに広がりや深みをもたせることができると考えた。はじめは自分の考えがもてない生徒も、友達の意見を聞いて自分の考えを付け加えたりすることができるようにしたい。

4　単元の指導・評価計画

時	学　習　内　容	学　習　目　標	観点別評価規準と評価方法（観察・発表・ノート・学習シート）		
			関心・意欲・態度	読　む　こ　と	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項
1	・「門出」について音読し、口語訳・文学史について学習する。	・作品の特色や、文学的背景を理解し、その世界に　親しむことができる。	◎歴史的仮名遣いや、それぞれの作品の言い回しに留意しながら音読している。（観察） ○「芭蕉」や「おくのほそ道」の概要を知り、学習に対する関心をもとうとしている。（観察・ノート）		○作品の特色や歴史的背景に注意して読み、その世　界に親しんでいる。（観察）
2	・「芭蕉」の旅についての思いを考え、意見を交流　する。	・「芭蕉」の旅に対する思いを理解し、俳句に込められた思いを考えることができる。		◎旅についての「芭蕉」の思いを捉えて、文章全体の理解を深めている。（観察・ノート・発表）	
3	・「平泉」について、音読・語句の確認・口語訳を　考える。	・古語を理解することができる。			◎作品の特色や歴史的背景に注意して読み、その世界に親しんでいる。（観察・ノート）
4 本時	・「夏草や･･･」の俳句に込められた思いを考える。	・涙を落とした「芭蕉」の思いを考えることができる。		◎「芭蕉」が平泉で涙を流した思いを捉えて、内容を的確に理解している。（観察・ノート・発表）	
5	・金色堂で読んだ俳句に込められた「芭蕉」の思いを理解する。	・金色堂に対する思いを理解することができる。		◎俳句に込めた芭蕉の思いに対する自分の考えを書き、ものの見方や考え方を深めている。（観察・ノート・発表）	

5　本時の計画（４／５）

（１）ねらい

『おくのほそ道』の「平泉」の場面前半部を読み、芭蕉が何を見、何を感じたのかを考えることを通して、俳句に込めた思いを考えることができる。

（２）学習過程

時間	学　習　活　動	形態	教　師　の　支　援　及　び　評　価	資料等
7	1　前時の学習を振り返り、作品について確認する。	一斉	・授業への関心を高めるためにクイズ形式で前時の学習を振り返り、本時の学習の方向付けを図る。	
	2　学習課題をつかむ。	一斉		
	「夏草や･･･」の俳句にどんな思いを込めたのか。			
3	3　「平泉」の前半部の音読をする。	個	・この場面は現代語訳が教科書に掲載されていないので、意味を理解するために前時で脚注を参考に現代語訳をまとめさせておく。	平泉の地図 板書カード
１５	4　地の文の単語を分類する。（残っているものとなくなってしまったもの）【主】	個 ↓ 一斉	・芭蕉の感動を考えやすくするために、芭蕉がまず高館に登ったことを確認し、そこから見たものを確認する。	
１０	5　芭蕉はなぜ涙を流したのかについて考え、交流する。【対】	個 ↓ ｸﾞﾙｰﾌﾟ	・考察に自信がない生徒のために、個で考察できなくともその後のグループの話合いで納得した考えがあったら、それを自分の考えとしてもよいことにする。	
5	6　グループで話し合ったことを発表する。	一斉	・考えが深まるように、切り返しや問い返しの発問で全体が共有できるようにする。	
7	7　話合いを基に芭蕉が俳句に込めた思いをノートにまとめ、全体で発表し合う。	個 ↓ 一斉	松尾芭蕉が俳句に込めた思いをまとめている。【読むこと】（ノート・観察）	
3	8　本時の学びについて振り返る。	個 ↓ 一斉	・振り返りの視点を示すことで１時間の学びを確かめ、次時への意欲付けを図る。	

（３）授業検証上の視点

①言葉を根拠に考えを広めたり深めたりできる発問・指示であったか。

②教材文を読み取った事実と考察したことを整理して話し合うことは、考えを深めるために有効であったか。

令和２年度　第４回指定訪問　国語授業研究会記録

１２月１０日(木)　記録者／米倉

【研究主題】中高一貫教育校の特色ある教育を通して、主体的・意欲的に学ぶ生徒の育成。

【協議主題】充実した言語活動のために、互いに関わり合いながら主体的に学びを深めようとする生徒の育成について。
協議内容①言葉を根拠に考えを広めたり深めたりできる発問、指示であったか。
②教材文を読み取った事実と考察したことを整理して話し合うことは、考えを深めるために有効であったか。

【参 加 者】(１４：５０～１６：２０　３年１組教室)
○指導者／中嶋 舞衣子 指導主事
・授業者／武田俊樹　・司会／日景美喜雄　・記録／米倉善彦
・本多牧子　・唐津信幸　・杉沢美穂　・菊地富子　・内藤

１．はじめの言葉
２．指導者紹介・職員自己紹介
３．研究協議
(１)教科経営についての説明(教科主任／米倉)　→　「学校経営計画」Ｐ１０をもとに説明

(２)授業者から
生徒はあまり古文・古典が得意とも言えず、好きとも言えないという実態を受けて、今回古典を選択した。俳諧紀行文という性質上、地の文を手がかりにして俳句(夏草や～)を読み味わうことを狙いとした。
地の文の中の、残ったもの／無くなったものと比べ、涙を落としたことの芭蕉の思いへとつなげさせたかったが…昨年学んだ「平家物語」の無常観とのつながりにも気づかせたかったが、そこまでは至らなかったのが少し残念だった。

・地の文、単語、歴史的背景などたくさんの情報を、どのような形でつなげてきたのか。
→「地の文」という言葉自体は小学校から使用されている。藤原三代など、生徒の歴史的知識が十分ではないと感じたので、補足的な説明の時間を要した。冒頭部分では芭蕉の旅にかける思いを自分たちと比べさせながら考え刺せる機会を持った。

・指導案、本時の計画の「４」が「６」の位置になったが、その意図は。
→杜甫の「春望」からつなげてくれば出しやすくなると感じたため。

・国語的に「無常観」が正解なのか。「感動」でもよいのか。あるいはそのほかのことでもいろいろ書いていればいいのか。
→「感動」だけだと、その幅が大きすぎると考える。「無常観」という言葉は出なくても、「むなしさ」「はかなさ」付近にまで近づければと感じている。

・「むなしさ／悲しさ」と「感動」が半々くらいだったように見えた…
→俳句中の切れ字「や」を強調したことにより、「夏草＝自然」を重要視してしまい「自然の悠久さ」に傾いたと考えられる。

・高校でも現代語訳を読んでも(人物の動き・掛け合いなど)十分理解できない場合も多いが、中学校ではどうか。
→教科書に現代語訳が併せて載っているが、それでも要所を補足しないと理解できない様子もたびたび感じる。

・俳句は、その作品に触れた人(読者)が感じ取っただけではだめなものなのか。
→一般的にはそうだと思うが、この教材についてはやはり作者の思いを汲み取らないと。

・「個で考える時間」がもう少しあっても良かったと思った。考えを書いて可視化することも有効と思った。

・前半の話し合いで机を付け合わなかったのは、その話し合いには時間をかけないという計画だったからか。

→そう考えていた。ただ、もう少し個で考えさせてからグループにしたほうが…と反省している。

(３)研究主題・協議の主な内容についての話合い

・古文中の単語から考えをスタートさせるのは、現代語訳の理解の程度と合わさって、生徒によってはとても難しいかと思う。

・「むなしさ／悲しさ」という言葉は早い段階で出されたので、それと「夢の跡」というフレーズの印象を併せて考えていければ、別な方向の考えの深まり・広がりが見られたかもしれない。

・「今無くなった物」の無くなった原因を考えさせていけば「兵どもの夢の跡」のイメージがしやすかったのでは。

・現代語訳を読んでも十分に理解できないという状況は、古文の読み取りの上ではやはり大きい。

・話さないと、言葉を交流しないと考えは深まらないし広がらないと(それぞれの班の様子から)強く感じた。そのためにもまず、自分の考え・立場を確立しておく必要がある。

４．指導助言

・評価基準は教師が明確に持っておくべき。
・国語の学習で捉えるとすれば、その学習を通して、授業者がどんな力をつけたいのかを明確に持っておかなくてはならない。みんな違ってみんないいではダメ。

・生徒の学習に向かう姿勢が素直で前向きでとてもいい。
・グループになった歳に、代表を決めて発表に望むなど、グループ内での自主的な姿が見られて感心した。
・生徒同士の雰囲気や、生徒と先生の関係性の良さが感じられた。
・他の意見をいったん受け止めて、考えを深めようとする姿勢がよい。

・資質・能力を鍛えていく授業構想を。
→本単元を通して、どんな力を身につけさせたいか。常にゴールの方から逆算して授業を組み立てる。
本時であれば…
〇芭蕉の考え方や人生観を捉える
↓ためには…
〇本文中の、芭蕉が置かれた場面や状況を捉える
↓ためには…
〇絵図・写真・映像・作者の年譜などの資料
↓ためには…
〇芭蕉の目に映っていたものは、そこから何を思い浮かべたか
↓それらを活用することで
◎「夏草や～」に芭蕉が込めた思いがわかる・近づける

生徒が古典に親しみを持てることを狙いとしている。古典の指導は原文で無ければ行えないという訳では無い。確かな理解のためには、わかりやすい文章や理解の手助けとなるような資料も必要である。

・国語の中で古典を扱う意義・意味を、指導者がしっかりと理解して授業を構築してほしい。

・昔の人との「共通点」「相違点」を見つけられる

・学習課題とまとめのどちらを先に決めるか。狙いを達成した生徒の姿を想定することは大切。本時の評価基準を決める上でも必要。教師が「どんなことを書けていればいいのか」をまず考える。そして、そのためにはどんな「仕掛け・発問」が必要なのかを考える。その上で学習課題を形作っていく。

・大まかなイメージでは、まとめの形も崩れてくるし、流れや発問も的を得たものにならない。

・教師が見通しを持つことも大切。どうやったら／何があれば理解できるか・気づけるか・考えにつながるかなど、必要な物が身近にあって気づけるようにし、生徒たちも見通しを持って授業に

臨めるようにしたい。
・そのようにして、「どのような学び方をしたら解決に至ったのか」を再確認させるのが「ふり返り」である。その時間の感想などはふり返りとは言えない。

・学習活動や資料は、どちらも必要なものを適切な程度・形・分量で、用意・活用すべき。

・自分一人で、悩みながらも、自分なりの考えを生み出し、たしかに持つ。そのための時間も必要になる。また、「秋田型」だからと、とにかくグループになって学習すればいいという訳では無い。

・異なる教科間で交流しながら、授業改善に向かっていくことが、今後より大切となる。教科は異なっていても「土台」は同じ。

５．終わりの言葉

令和２年度
北教育事務所長学校訪問
授業参観資料

生徒総会

３年生から学ぶ１年生

大北総体激励会

令和2年9月3日（木）

秋田県立大館国際情報学院中学校・高等学校

北教育事務所長学校訪問　日程

９：００	来校（校長室）
９：０５～　９：３０	学校経営説明（校長室）
９：４０～１０：３０	２校時授業参観
１０：４０～１１：３０	３校時授業参観
１１：４０～１２：１０	感想及び指導助言（校長室）

単元（題材）名・授業者一覧

２校時（　９：４０～１０：３０）

＊印　高校教員

No	学年・組	教　科	単　元　・　題　材	授　業　者	授業教室
1	２年１組	国　語	「盆土産」（４　関わりの中で）	武田　俊樹	２年１組
2	２年２組	国　語	「盆土産」（４　関わりの中で）	米倉　善彦	２年２組
3	２年３組	社　会	江戸幕府の成立と鎖国	杉沢　美穂	２年３組
4	１年１組	数　学	方程式	佐藤　朋子（Ｔ１） 本城　直幸（Ｔ２）	１年１組
5	１年２組	保健体育	心身の発達と心の健康 「性とどう向き合うか」	日景美喜雄	１年２組
6	３年１組	数　学	関数 $y = ax^2$	髙橋　裕樹 信太　　譲＊	３年１組 多目的教室２
7	３年２組	理　科	運動とエネルギー	唐津　信幸	生物実験室

３校時（１０：４０～１１：３０）

No	学年・組	教　科	単　元　・　題　材	授　業　者	授業教室
1	２年１組	英　語	Unit4 Homestay in the United States	成田　　透（Ｔ１） 藤原　悠介（Ｔ２）	２年１組
2	１年２組	道　徳	ネット将棋	木次谷優和子	１年２組
3	３年２組	英　語	Unit4 To Our Future Generation	本多　牧子 Arianne Solomon	３年２組
4	２年２組	理　科	化学変化と原子分子	菊地　富子	化学実験室
5	１年Ｅ組	簿　記	第 23 章　伝票　３伝票制	櫻庭　咲子＊	１年Ｅ組
6	１年Ｄ組	簿　記	第 23 章　伝票　３伝票制	長崎　純一＊	１年Ｄ組
7	１年Ｃ組	化学基礎	第３章　粒子の結合 ３　分子間にはたらく力	黒川　陽介＊	１年Ｃ組
8	１年Ｂ組	生物基礎	遺伝情報の分配	和田　宏哉＊	１年Ｂ組
9	１年Ａ組	国語甲	評論　自然をめぐる　　合意の設計	畠山　智子＊	１年Ａ組

２校時（　９：４０～１０：３０）

No	学年・組	教　科	単　元　・　題　材	授　業　者	授業教室	本時のねらい	備　考
1	２年１組	国　語	「盆土産」 （４　関わりの中で）	武田　俊樹	２年１組	作品の時代設定や場所について文中の言葉や便覧などの様々な資料から情報を収集して読み取る活動を通して、作品への理解を広げることができる。 （本時　２／６）	
2	２年２組	国　語	「盆土産」 （４　関わりの中で）	米倉　善彦	２年２組	作品の主題をテーマにして書いた250字作文をグループ内で読み合い、考えや意見を交流する活動を通して、作品への理解を広げたり深めたりすることができる。 （本時　６／６）	
3	２年３組	社　会	江戸幕府の成立と鎖国	杉沢　美穂	２年３組	江戸幕府成立時の国内統治政策や対外政策が平和維持に貢献したか価値判断する活動を通して、260年余りも続く時代をつくることができた理由を考え、自分の言葉でまとめることができる。 （本時　５／５）	
4	１年１組	数　学	方程式	佐藤　朋子 本城　直幸	１年１組	係数に分数をふくむ方程式について、解き方を説明し合い、数学的なよさの観点におけるもっともよい解き方を検討する活動を通して、分母の最小公倍数を両辺にかけ、整数に直して解くことができる。 （本時　７／１５）	ＴＴ
5	１年２組	保健体育	心身の発達と心の健康 「性とどう向き合うか」	日景美喜雄	１年２組	資料のグラフの読み取りやエクササイズの活動を通して、思春期における性に関する適切な態度や行動の選択について理解することができる。 （本時　４／８）	
6	３年１組	数　学	関数$y=ax^2$	髙橋　裕樹	３年１組	$y=ax^2$のグラフがaの値の絶対値の大小によってどのような形になるかを調べ、その特徴をまとめることを通して、与えられたグラフの特徴から適当な式を判断し選び出すことができる。 （本時　６／１３）	少人数
				信太　　譲	多目的教室２	【発展的な学習】 グラフ作成ソフトを活用して、頂点が原点にない２次関数のグラフと式の関係について調べ、その特徴をまとめることを通して、与えられたグラフの特徴から適当な式を判断し選び出すことができる。 （本時　６／１３）	少人数
7	３年２組	理　科	運動とエネルギー	唐津　信幸	生物実験室	水平な面上を移動する台車の運動について、その実験結果を考察することにより、力がはたらかず、一直線上を一定の速さで運動すると、時間と移動距離が比例することに気付くことができる。 （本時　５／２７）	

３校時（１０：４０～１１：３０）

No	学年・組	教　科	単　元　・　題　材	授　業　者	授業教室	本時のねらい	備　考
1	２年１組	英　語	Unit4 Homestay in the United States	成田　　透 藤原　悠介	２年１組	自分の家や学校生活などで困っていることについて、グループでの相談を通して、助動詞mustを用いた適切なアドバイスをすることができる。 （本時　５／１０）	ＴＴ
2	１年２組	道　徳	ネット将棋	木次谷優和子	１年２組	自ら選択したどんな小さな行為にも責任があることを認識し、物事を自主的に考え、判断し、誠実に実行し、その結果に責任をもち義務を負うことの大切さに気付くことができる。	
3	３年２組	英　語	Unit4 To Our Future Generation	本多　牧子 Arianne Solomon	３年２組	「It is ～ for(人) + to不定詞」構文を用い、まとまりのある自己PR文を作成することにより、自分に関する情報を整理して書くことができる。 （本時　４／１２）	ＴＴ
4	２年２組	理　科	化学変化と原子分子	菊地　富子	化学実験室	酸化銅が水素によって還元される化学変化や二酸化炭素中でマグネシウムが燃焼する化学変化を、モデルを用いて考えることにより、化学反応式で表すことができる。　（本時　２２／３７）	
5	１年Ｅ組	簿　記	第23章　伝票 ３伝票制	櫻庭　咲子	１年Ｅ組	３伝票を用いた場合の起票や集計方法のルールを学び、実際の伝票を用いて起票・集計を行うことで基礎的・基本的な技術を身に付けることができる。 （本時　２／３）	
6	１年Ｄ組	簿　記	第23章　伝票 ３伝票制	長崎　純一	１年Ｄ組	３伝票を用いた場合の起票や集計方法のルールを学び、実際の伝票を用いて起票・集計を行うことで基礎的・基本的な技術を身に付けることができる。 （本時　２／３）	
7	１年Ｃ組	化学基礎	第３章　粒子の結合 ３　分子間にはたらく力	黒川　陽介	１年Ｃ組	ペア学習を通して、電気陰性度と分子の形から極性分子、無極性分子について説明することができる。 （本時　８／１０）	
8	１年Ｂ組	生物基礎	遺伝情報の分配	和田　宏哉	１年Ｂ組	細胞周期におけるＤＮＡ量の変化について、グラフで表すことを通して理解できる。　（本時　２／５）	
9	１年Ａ組	国語甲	評論　自然をめぐる 合意の設計	畠山　智子	１年Ａ組	第１段落を読み、「遠景の語り」と「近景の語り」の自然の見方が異なることを理解することができる。 （本時　２／５）	

授業アンケートについて

高校研究部

目的　　授業アンケートで客観的に自らの授業を振り返り、今後の授業力向上に役立てる

実施時期　１・２学期末、年間２回実施

手　順

- 今年度の授業研究を行う科目・　クラスを設定する。
- 当該科目・クラスを対象に１学期の授業アンケートを実施する。
- アンケート結果に基づき、授業研究を行う。
- ２学期末のアンケートで授業研究の進捗状況を確認する。
- 次年度の研究課題を設定する。

アンケート結果を元にした振り返り（教科全体）

各教科の平均値の値を研究部で処理し、レーダーチャートの形式で各教科の現状を視覚化する。

各教科で内容を検討して次学期の授業改善に生かしていく。

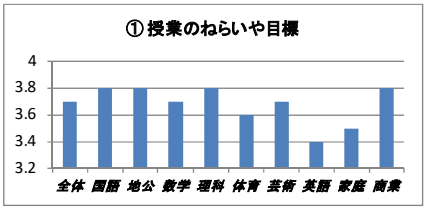
授業アンケート

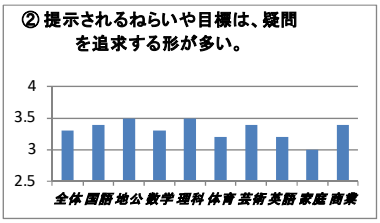
令和2年度　1学期授業アンケート集計（項目別）

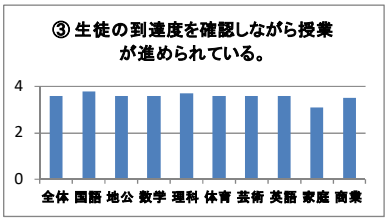
高校研究部

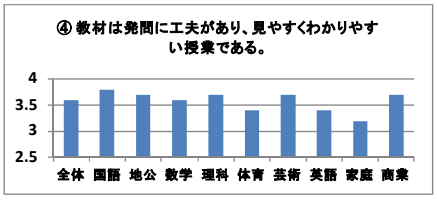
【授業・指導について】

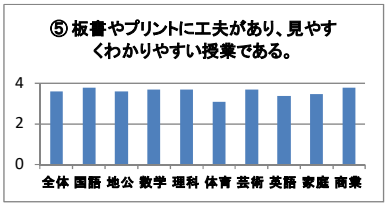
		全体	国語	地公	数学	理科	体育	芸術	英語	家庭	商業
①	授業のねらいや目標がはっきり示されている。	3.7	3.8	3.8	3.7	3.8	3.6	3.7	3.4	3.5	3.8
②	提示されるねらいや目標は、疑問を追求する形が多い。	3.3	3.4	3.5	3.3	3.5	3.2	3.4	3.2	3	3.4
③	生徒の到達度を確認しながら授業が進められている。	3.6	3.8	3.6	3.6	3.7	3.6	3.6	3.6	3.1	3.5
④	教材は発問に工夫があり、見やすくわかりやすい授業である。	3.6	3.8	3.7	3.6	3.7	3.4	3.7	3.4	3.2	3.7
⑤	板書やプリントに工夫があり、見やすくわかりやすい授業である。	3.6	3.8	3.6	3.7	3.7	3.1	3.7	3.4	3.5	3.8
⑥	私語や居眠り、起立回答などの指導がなされ、規律ある授業である。	3.6	3.5	3.6	3.5	3.5	3.6	3.6	3.8	3.4	3.5

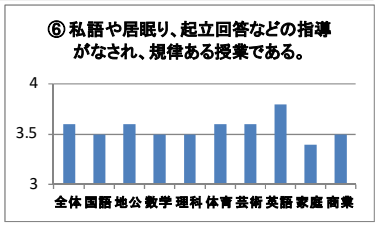






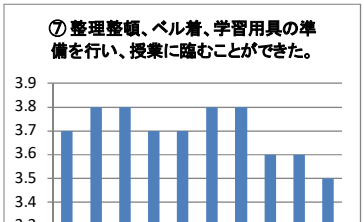


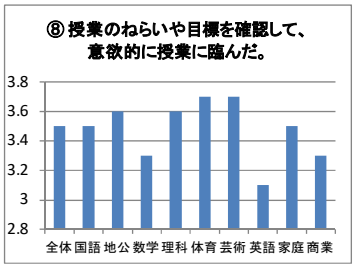


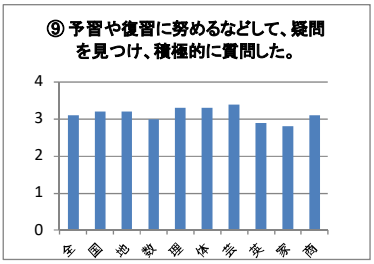


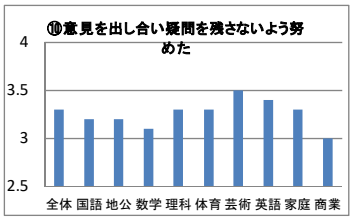
【自分自身について】

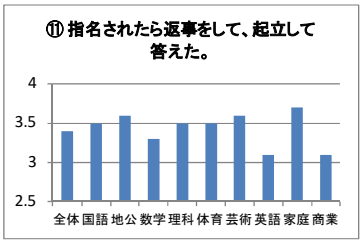
		全体	国語	地公	数学	理科	体育	芸術	英語	家庭	商業
⑦	整理整頓、ベル着、学習用具の準備を行い、授業に臨むことができた。	3.7	3.8	3.8	3.7	3.7	3.8	3.8	3.6	3.6	3.5
⑧	授業のねらいや目標を確認して、意欲的に授業に臨んだ。	3.5	3.5	3.6	3.3	3.6	3.7	3.7	3.1	3.5	3.3
⑨	予習や復習に努めるなどして、疑問を見つけ、積極的に質問した。	3.1	3.2	3.2	3	3.3	3.3	3.4	2.9	2.8	3.1
⑩	意見を出し合い、疑問を残さないように努めた。	3.3	3.2	3.2	3.1	3.3	3.3	3.5	3.4	3.3	3
⑪	指名されたら返事をして、起立して答えた。	3.4	3.5	3.6	3.3	3.5	3.5	3.6	3.1	3.7	3.1
⑫	発言するときは、語尾までしっかり答えるよう努めた。	3.5	3.7	3.7	3.3	3.6	3.5	3.7	3.3	3.5	3.3
⑬	毎時間の終わりには、ねらいや目標を参考に達成度を確認した。	3.3	3.3	3.3	3	3.4	3.5	3.6	3	3	3.2

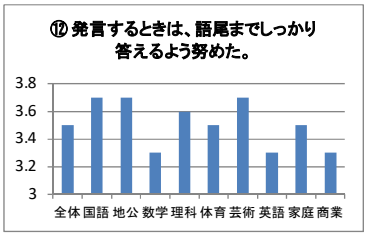


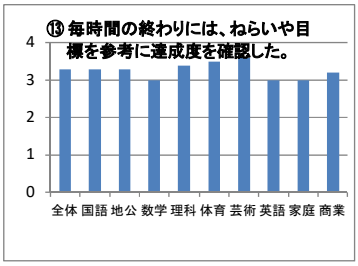










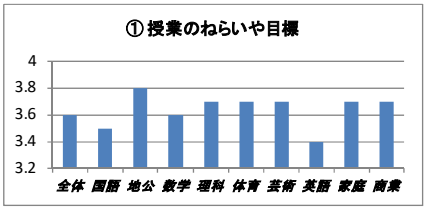


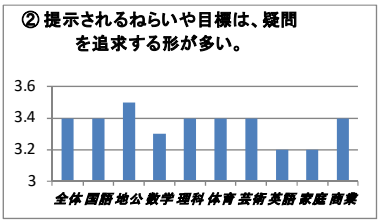
令和2年度　2学期授業アンケート集計（項目別）

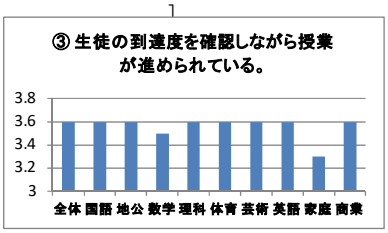
高校研究部

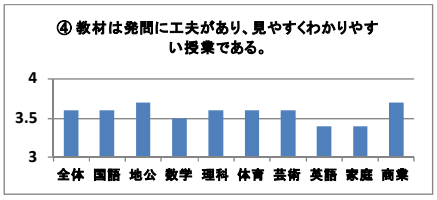
【授業・指導について】

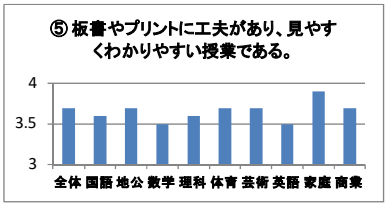
		全体	国語	地公	数学	理科	体育	芸術	英語	家庭	商業
①	授業のねらいや目標がはっきり示されている。	3.6	3.5	3.8	3.6	3.7	3.7	3.7	3.4	3.7	3.7
②	提示されるねらいや目標は、疑問を追求する形が多い。	3.4	3.4	3.5	3.3	3.4	3.4	3.4	3.2	3.2	3.4
③	生徒の到達度を確認しながら授業が進められている。	3.6	3.6	3.6	3.5	3.6	3.6	3.6	3.6	3.3	3.6
④	教材は発問に工夫があり、見やすくわかりやすい授業である。	3.6	3.6	3.7	3.5	3.6	3.6	3.6	3.4	3.4	3.7
⑤	板書やプリントに工夫があり、見やすくわかりやすい授業である。	3.7	3.6	3.7	3.5	3.6	3.7	3.7	3.5	3.9	3.7
⑥	私語や居眠り、起立回答などの指導がなされ、規律ある授業である。	3.6	3.4	3.6	3.7	3.5	3.5	3.5	3.7	3.5	3.6

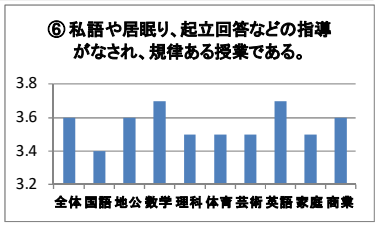






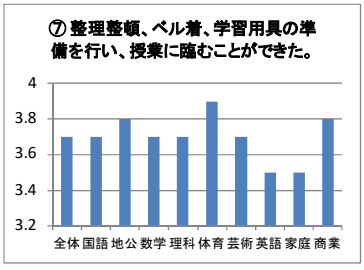


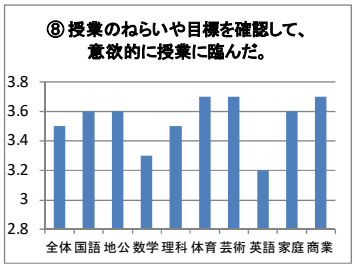


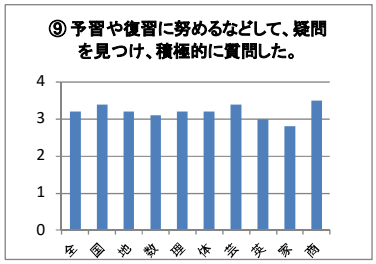


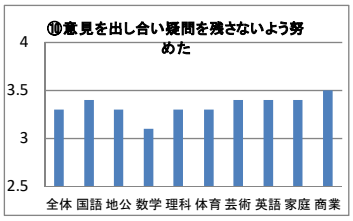
【自分自身について】

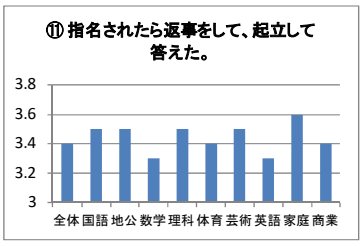
		全体	国語	地公	数学	理科	体育	芸術	英語	家庭	商業
⑦	整理整頓、ベル着、学習用具の準備を行い、授業に臨むことができた。	3.7	3.7	3.8	3.7	3.7	3.9	3.7	3.5	3.5	3.8
⑧	授業のねらいや目標を確認して、意欲的に授業に臨んだ。	3.5	3.6	3.6	3.3	3.5	3.7	3.7	3.2	3.6	3.7
⑨	予習や復習に努めるなどして、疑問を見つけ、積極的に質問した。	3.2	3.4	3.2	3.1	3.2	3.2	3.4	3	2.8	3.5
⑩	意見を出し合い、疑問を残さないように努めた。	3.3	3.4	3.3	3.1	3.3	3.3	3.4	3.4	3.4	3.5
⑪	指名されたら返事をして、起立して答えた。	3.4	3.5	3.5	3.3	3.5	3.4	3.5	3.3	3.6	3.4
⑫	発言するときは、語尾までしっかり答えるよう努めた。	3.5	3.6	3.7	3.4	3.5	3.5	3.5	3.4	3.5	3.6
⑬	毎時間の終わりには、ねらいや目標を参考に達成度を確認した。	3.4	3.4	3.4	3.4	3.3	3.5	3.6	3.1	3.4	3.5

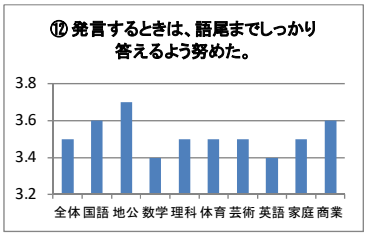


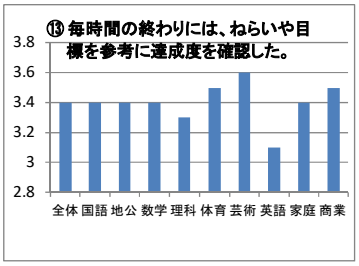








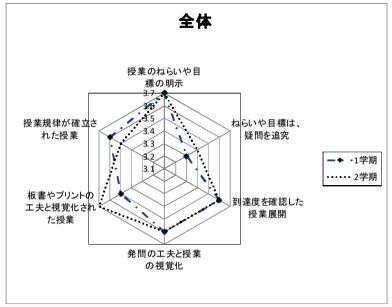


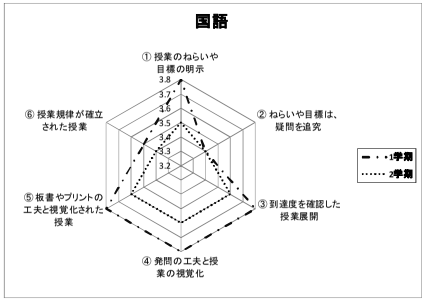


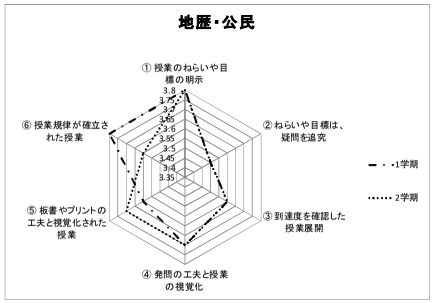
授業アンケート比較

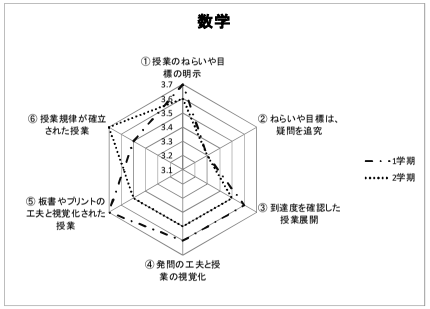
【授業・指導について】

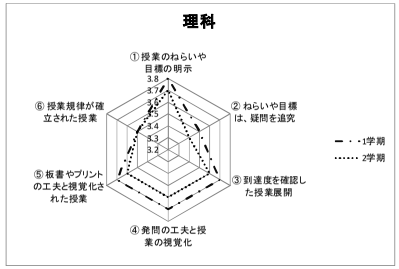
	項目	全体			国語			地公			数学			理科			体育			芸術			英語			家庭			商業		
		1学期	2学期		1学期	2学期		1学期	2学期		1学期	2学期		1学期	2学期		1学期	2学期		1学期	2学期		1学期	2学期		1学期	2学期		1学期	2学期	
①	授業のねらいや目標の明示	3.7	3.7		3.8	3.5		3.8	3.8		3.7	3.6		3.8	3.7		3.6	3.7		3.7	3.7		3.4	3.4		3.5	3.7		3.8	3.7	
②	ねらいや目標は、疑問を追究	3.3	3.4		3.4	3.4		3.5	3.5		3.3	3.3		3.5	3.4		3.2	3.4		3.4	3.4		3.2	3.2		3.0	3.2		3.4	3.4	
③	到達度を確認した授業展開	3.6	3.6		3.8	3.6		3.6	3.6		3.6	3.5		3.7	3.6		3.6	3.7		3.6	3.6		3.6	3.6		3.1	3.3		3.5	3.6	
④	発問の工夫と授業の視覚化	3.6	3.6		3.8	3.6		3.7	3.7		3.6	3.5		3.7	3.6		3.4	3.2		3.7	3.6		3.4	3.4		3.2	3.4		3.7	3.7	
⑤	板書やプリントの工夫と視覚化された授業	3.5	3.7		3.8	3.6		3.6	3.7		3.7	3.5		3.7	3.6		3.1	3.1		3.7	3.7		3.4	3.5		3.5	3.9		3.8	3.7	
⑥	授業規律が確立された授業	3.6	3.5		3.5	3.4		3.8	3.6		3.5	3.7		3.5	3.5		3.6	3.6		3.6	3.5		3.8	3.7		3.4	3.5		3.5	3.6	

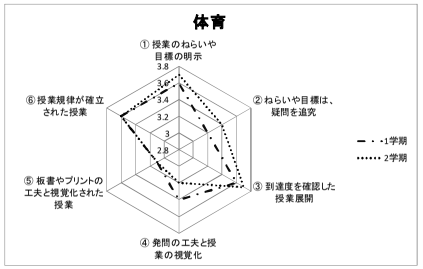


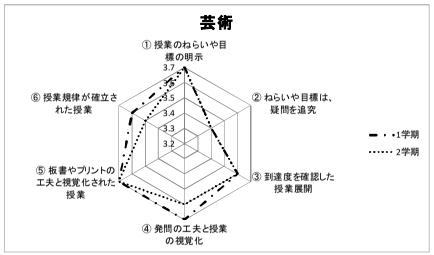


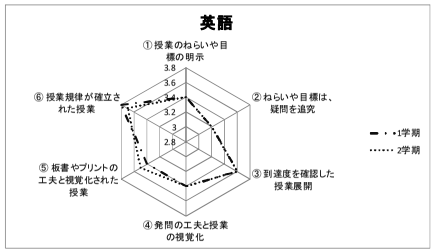


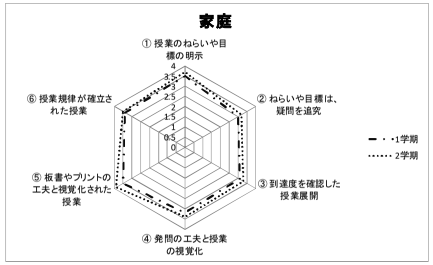


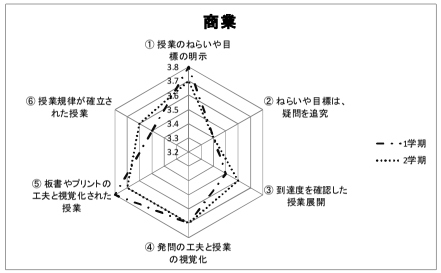










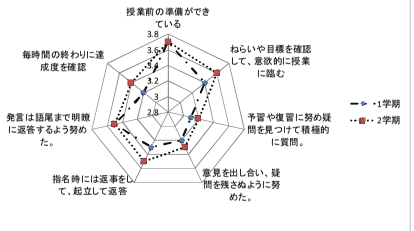


授業アンケート通年比較

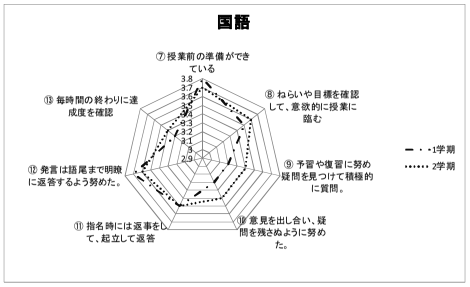
【自分自身について】

	項目	全体			国語			地公			数学			理科			体育			芸術			英語			家庭			商業		
		1学期	2学期		1学期	2学期		1学期	2学期		1学期	2学期		1学期	2学期		1学期	2学期		1学期	2学期		1学期	2学期		1学期	2学期		1学期	2学期	
⑦	授業前の準備ができている	3.7	3.7		3.8	3.7		3.8	3.8		3.7	3.7		3.7	3.7		3.8	3.9		3.8	3.7		3.6	3.5		3.6	3.5		3.5	3.8	
⑧	ねらいや目標を確認して、意欲的に授業に臨む	3.4	3.6		3.5	3.6		3.6	3.6		3.3	3.3		3.6	3.5		3.7	3.7		3.7	3.7		3.1	3.2		3.5	3.6		3.3	3.7	
⑨	予習や復習に努め疑問を見つけて積極的に質問。	3.1	3.2		3.2	3.4		3.2	3.2		3	3.1		3.3	3.2		3.3	3.2		3.4	3.4		2.9	3		2.8	2.8		3.1	3.5	
⑩	意見を出し合い、疑問を残さぬように努めた	3.2	3.3		3.2	3.4		3.2	3.3		3.1	3.1		3.3	3.3		3.3	3.3		3.5	3.4		3.4	3.4		3.3	3.4		3	3.5	
⑪	指名時には返事をして、起立して返答	3.3	3.5		3.5	3.5		3.6	3.5		3.3	3.3		3.5	3.5		3.5	3.4		3.6	3.5		3.1	3.3		3.7	3.6		3.1	3.4	
⑫	発言は語尾まで明瞭に返答するよう努めた。	3.5	3.5		3.7	3.6		3.7	3.7		3.3	3.4		3.6	3.5		3.5	3.5		3.7	3.5		3.3	3.4		3.5	3.5		3.3	3.6	
⑬	毎時間の終わりに達成度を確認	3.2	3.4		3.3	3.4		3.3	3.4		3	3.4		3.4	3.3		3.5	3.5		3.6	3.6		3	3.1		3	3.4		3.2	3.5	

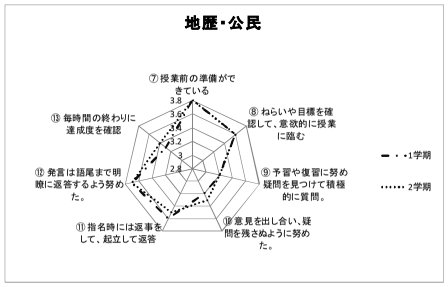
全体



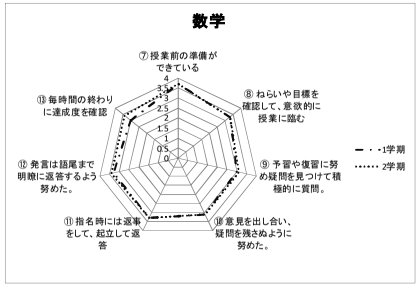
国語



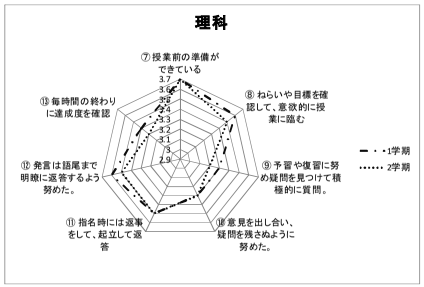
地歴・公民



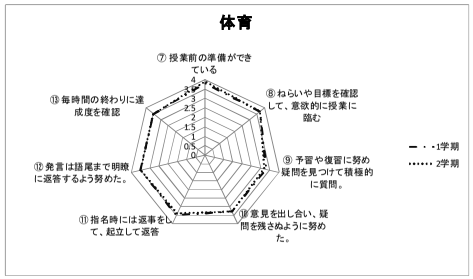
数学



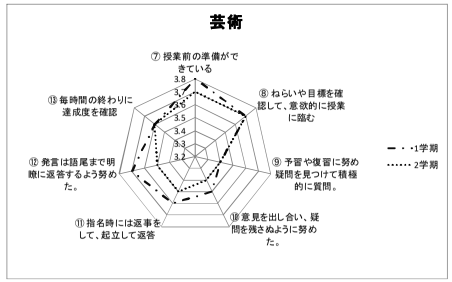
理科



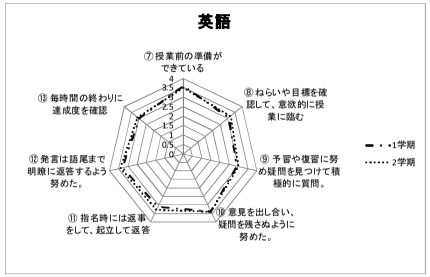
体育



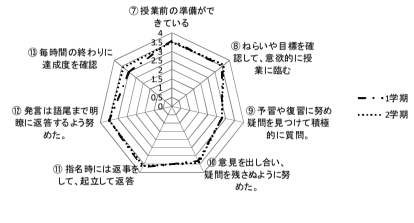
芸術



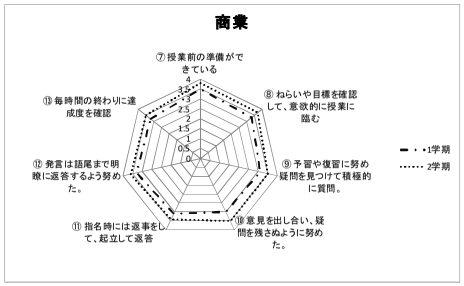
英語



家庭



商業



初　任　者　研　修　の　記　録

令和２年度高等学校初任者研修「校内研修実施報告書」

学校番号　（　６　）　学校名（ 大館国際情報学院 ）高等学校
初任者氏名　（ 伊　藤　和　泉 ）

実施月日（曜日）	研修内容	領域	研修方法・形態	時間割内・放課後の区別 内	放	研修時間		研修指導者
4/2 （木）	初任者研修オリエンテーション	②	講義	0	4	4		指導教員、研究部主任
4/8 （水）	生徒の健康管理	②	講義	0	3	3	○	保健主事
4/13 （月）	授業参観と研究協議Ⅰ	④	授業参観	2	2	4		教科指導員、保健体育科
4/17 （金）	年間学習指導計画の作成	④	講義	3	0	3		教科指導員
4/20 （月）	教材研究の進め方Ⅰ	④	講義	2	0	2		教科指導員
4/28 （火）	本校の教育目標、経営方針と教員としての使命感	①	講義	0	3	3		校長
4/28 （火）	校内組織と服務規程	②	講義	0	3	3		教頭
5/1 （金）	諸表簿及び公文章の手引き	②	講義	0	3	3		事務長
5/15 （金）	学習指導案の作成Ⅰ	④	協議	5	2	7		教科指導員
5/29 （金）	教材の精選と活用	④	講義	2	0	2		教科指導員
6/2 （火）	生徒指導の現状と課題	③	講義	4	0	4	○	生徒指導主事
6/3 （水）	生徒の学力の実態把握	④	講義	4	0	4		教科指導員
6/5 （金）	授業参観と研究協議Ⅱ	④	授業参観	3	1	4		教科指導員、保健体育科
6/8 （月）	学校行事と年間計画	②	講義	4	0	4	○	総務主任
6/26 （金）	個に応じた学習の工夫	④	講義	2	0	2		教科指導員
7/8 （水）	ホームルーム経営上の問題点と留意点①	②	講義	3	0	3		１年部主任
7/13 （月）	研究授業と反省・協議Ⅰ	④	授業研究	3	4	7		教科指導員、保健体育科
7/14 （火）	学校図書館の在り方と利用状況	②	講義	3	0	3	○	図書部主任
7/15 （水）	本校の教育課程	②	講義	3	1	4	○	教務主任
7/17 （金）	本校の進路動向と進路指導の進め方	①	講義	4	0	4	○	進路指導主事
7/20 （月）	カウンセリングの在り方	③	講義	4	1	5		生徒指導主事
9/14 （月）	学習指導案の作成Ⅱ	④	協議	4	3	7		教科指導員
9/16 （水）	授業参観と研究協議Ⅲ	④	授業参観	3	1	4		教科指導員、保健体育科
9/17 （木）	授業参観と研究協議Ⅳ	④	授業参観	3	1	4		教科指導員、保健体育科
10/5 （月）	学習指導案の作成Ⅲ	④	協議	4	3	7		教科指導員
10/13 （火）	研究授業と反省・協議Ⅱ	④	研究授業	3	4	7		教科指導員、保健体育科
10/16 （金）	授業研修と実施Ⅰ	④	授業研究	2	5	7		教科指導員
11/16 （月）	示範授業Ⅰ	④	示範授業	4	0	4		教科指導員
11/19 （木）	問題行動の事例研究と懲戒指導	③	講義	3	1	4	○	生徒指導主事
11/20 （金）	ＰＴＡの組織と運営	②	講義	3	0	3	○	総務主任
11/24 （火）	学年部の体制とホームルーム経営	②	講義	3	0	3		２年部主任
11/25 （水）	就職者・進学者への援助	①	講義	4	0	4	○	進路指導主事
11/25 （水）	学校保健安全と保健組織	②	講義	3	0	3	○	保健主事
11/25 （水）	考査問題の作成と評価Ⅰ	④	協議	4	0	4		教科指導員、保健体育科
12/1 （火）	学習指導案の作成Ⅳ	④	協議	4	3	7		教科指導員
12/1 （火）	生徒会活動の現状と課題	②	講義	4	0	4	○	特別活動部主任
12/7 （月）	情報機器の活用について	②	講義	3	0	3	○	情報部主任
12/11 （金）	学力と学習実態の関係と課題	①	講義	4	0	4	○	教務主任
12/14 （月）	ホームルーム経営上の問題点と留意点②	②	講義	3	0	3		３年部主任
12/18 （金）	研究授業と反省・協議Ⅲ	④	授業研究	4	3	7		教科指導員、保健体育科
1/15 （金）	考査問題の作成と評価Ⅱ	④	協議	3	1	4		教科指導員、保健体育科
1/19 （火）	示範授業Ⅱ	④	示範授業	4	0	4		教科指導員
1/21 （木）	国際情報科の特色と目標	②	講義	3	0	3	○	国際情報科主任
1/29 （金）	授業参観と研究協議Ⅴ	④	授業参観	4	0	4		教科指導員
1/29 （金）	授業参観と研究協議Ⅵ	④	授業参観	4	0	4		教科指導員、保健体育科
2/1 （月）	教材研究の進め方Ⅱ	④	講義	2	0	2		教科指導員
2/3 （水）	進路の実態把握と進路指導の課題	①	講義	4	1	5	○	進路指導主事
2/8 （月）	研究授業と反省・協議Ⅳ	④	研究授業	4	3	7		教科指導員、保健体育科
2/10 （水）	評価方法と評価規準	④	講義	3	0	3		教科指導員
2/15 （月）	授業研修と実施Ⅱ	④	協議	4	3	7		教科指導員
2/17 （水）	授業参観と研究協議Ⅶ	④	授業参観	4	0	4		教科指導員、保健体育科
2/19 （金）	生徒指導要録の理解と取り扱い	②	講義	3	1	4	○	教務主任
2/22 （月）	学校祭への参加、意義の理解	②	講義	4	0	4	○	特別活動部主任
2/24 （水）	部活動の進め方	②	講義	3	0	3	○	特別活動部主任
2/25 （木）	本校の６年間プログラム理解	②	講義	3	1	4		教科指導員
2/26 （金）	年間の教科研修の成果と課題	④	講義	4	3	7		教科指導員
3/4 （木）	研修を振り返って	①	協議	3	2	5		指導教員、研究部主任

○印は指導教員が同席

集計表

初任者氏名	実施日数合計	領域ごとの研修時間数 ①	②	③	④	時間割内研修時間計（a）	放課後研修時間計（b）	研修時間合計（a＋b）	主として指導教員が行う研修時間計	主として教科指導員が行う研修時間計	主としてその他の教員が行う研修時間計
伊藤和泉	57	25	64	13	139	175	66	241	9	143	89

①基礎的素養　②マネジメント能力　③生徒指導力　④教科等指導力

保健体育科　学習指導案

実施日時　　令和３年３月４日（木）２校時
場　所　　第一体育館
授業者　　伊　藤　和　泉
クラス　　２年ＣＤ組
対象生徒　　バスケットボール選択者
（女子１５名　男子１４名）

１　単元名　　体育　Ｅ球技　ゴール型「バスケットボール」

２　単元の目標

（１）　状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きによって空間への侵入などから攻防を展開すること。（技能）

（２）　球技を主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとすること、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとすることなどや健康・安全を確保することができるようにする。（態度）

（３）　技術などの名称や行い方、体力の高め方、問題解決の方法、競技会の仕方などを理解しチームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。（知識・思考・判断）

３　単元と生徒

（１）教材観　　ゴール型であるバスケットボールは、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団で勝敗を競い合うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。高等学校では、これまでの学習を踏まえて、勝敗を競ったりチームや自己の課題を解決したりするなどの多様な楽しさや喜びを味わい、「作戦や状況に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開する」ことなどが求められている。

（２）生徒観　　球技選択を２期継続してバスケットボールを選択している生徒が多く、積極的に動く生徒が多いが特に男子は運動能力の差が大きい。

（３）指導観　　男女ともにバスケットボール経験者はいるが、経験者以外の生徒がボールを持たない時の動きが止まってしまうことが多い。ボールを動いてもらうことを意識させることと、アウトナンバーでは必ずどこかにチャンスが生まれる。そのチャンスを見つけてシュートまで打つためにボールマン、ボールを持っていない人の両者がチャンスを作り出すようにパスとランを利用しながらチャンスを作り出せるようにさせたい。

４　単元の評価規準

関心・意欲・態度【A】	思考・判断【B】	技術【C】	知識・理解【D】
・球技の学習に主体的に取り組み、フェアプレイを大切にしている。 ・役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとしている。 ・合意形成に貢献しようとしている。 ・互いに助け合い高め合おうとしている。 ・健康・安全を確保している。	・これまでの学習を踏まえて、チームが目指す目標に応じたチームや自己の課題を設定している。 ・課題解決の過程を踏まえて、取り組んできたチームや自己の目標と成果を検証し、課題を見直している。 ・作戦などの話し合いの場面で合意を形成するための調整の仕方を見付けている。 ・球技を生涯にわたって楽しむための自己に適した関わり方を見付けている。	・ゴール型では、空間への侵入などから攻防を展開するための状況に応じたボール操作と空間を埋めるなどの動きができる。	・技術などの名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 ・課題解決の方法について、理解したことを言ったり書き出している。 ・競技会の仕方、審判の方法について、学習した具体例を挙げている。

5　指導計画　　E 球技　イ　ネット型「バスケットボール」　（4／7）

	学　習　内　容		【A】	【B】	【C】	【D】
1	オリエンテーション	学習のねらい、準備の仕方、基本練習	○			
2	パス＆ラン	三角パス、パス＆ラン	○		○	
3	３ｏｎ２～３ｏｎ３	３人でパス＆ランを使ってボールを回す	○		○	
④		ノーマークでシュートを打つポイントを理解	○			○
5	５ｏｎ５	空いている空間を見付けて動く	○	○		
6		試合の中でアウトナンバーを作る	○	○		
7		試合を自分たちで行う	○			○

6　本時の計画

（1）ねらい　　ディフェンスの状況に応じた動きをしながらディフェンスのいない空間でシュートを打つチャンスがどのようにしたらできるか気づかせる。

（2）授業計画

時間	学習活動	指導上の留意点	評価の計画
導入15分	1　集合、挨拶、出欠確認 2　準備運動 〇移動 3　基本練習 ・シューティング ・三角パス		
展開25分	4　目標確認 本時の目標　ノーマークでシュートを打つためのポイントを理解しよう 5　スリーサークルボール （４０秒ゲーム） 6　ハーフコート３ｏｎ２ ・各グループで練習前の考えをボードにまとめる （ルール） ノーマークの時にシュートを打つ	・ディフェンスを見て動くことを意識させる。 ・シュートに繋がるようにパスをもらうことを意識させる。 ・ルールを説明する。 ・考えたことを実際に挑戦させる。	【A】 観察 積極的に取り組み合意形成に貢献しようとしている
まとめ10分	7　振り返りカードを記入 〇移動 8　集合、挨拶	・怪我、体調の確認をする。	【D】 学習カード 課題解決の方法について、理解したことを書き出している。

学習カード

Ｒ３年　　月　　日（　　）　　年　　組　　番　名前

本時の目標	ノーマークでシュートを打つためのポイントを理解する
ボールマン （パスする人・シュートする人）	
ボールを 持たない人	
振り返り	
目標到達度	A　B　C　D　E

保健体育科　学習指導案

実施日時　令和２年１０月１３日（火）３校時
場　所　第一体育館
授業者　伊　藤　和　泉
クラス　３年 AB 組
対象生徒　バレーボール選択者（女子１５名）

１　単元名　体育　Ｅ球技　ネット型「バレーボール」

２　単元の目標

（１）　状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空間を作り出すなどの攻防を展開すること。（技能）

（２）　球技を主体的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとすること、役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとすること、合意形成に貢献しようとすることなどや健康・安全を確保することができるようにする。（態度）

（３）　技術などの名称や行い方、体力の高め方、問題解決の方法、競技会の仕方などを理解し、チームや自己の課題に応じた運動を継続するための取り組み方を工夫できるようにする。（知識・思考・判断）

３　単元と生徒

（１）教材観　球技のネット型の種目バレーボールでは、勝敗を競ったりすることを通して得られる楽しさや喜びに加えて、体力や技能の程度等に関わらず、「する、みる、支える」などのスポーツの多様な楽しさや喜びを味わうことができる。

（２）生徒観　１５人中４人がバレーボール経験者の為、技能の面の差があり、基本の技術が身についていない生徒が目立つ。

（３）指導観　バレーボールが得意な生徒は果敢にボールへ食らいついて行くが、ほとんどの生徒が自分の決められたポジションから移動せずゲームを行っている。コート内の空いた空間にきたボールの落下地点に移動してボールをあげることを身につけさせたい。そのために必要となる準備の姿勢や反応、落下地点の予測などポイントを理解させたい。この技術が安定することによりボールがつながりやすくなり、次のプレイが行いやすくなることに気づかせたい。また、チームでの連携のために声出しの重要性も意識させたい。

４　単元の評価規準

関心・意欲・態度【A】	思考・判断【B】	技術【C】	知識・理解【D】
・球技の学習に主体的に取り組み、フェアプレイを大切にしている。 ・役割を積極的に引き受け自己の責任を果たそうとしている。 ・合意形成に貢献しようとしている。 ・互いに助け合い高め合おうとしている。 ・健康・安全を確保している。	・これまでの学習を踏まえて、チームが目指す目標に応じたチームや自己の課題を設定している。 ・課題解決の過程を踏まえて、取り組んできたチームや自己の目標と成果を検証し、課題を見直している。 ・作戦などの話し合いの場面で合意を形成するための調整の仕方を見付けている。 ・球技を生涯にわたって楽しむための自己に適した関わり方を見付けている。	・ネット型では、空間を作り出すなどの攻防を展開するための状況に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きができる。	・技術などの名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 ・課題解決の方法について、理解したことを言ったり書き出している。 ・競技会の仕方、審判の方法について、学習した具体例を挙げている。

5　指導計画　　E 球技　イ　ネット型「バレーボール」　（３／１５）

		学　習　内　容		【A】	【B】	【C】	【D】
1次	1	オリエンテーション	学習のねらい、準備の仕方				
2次	2	個人技術	・オーバー・アンダーハンドパス	○		○	
	③	オーバー・アンダー	・状況に応じたボール操作	○			○
	4	サーブ	・フローターサーブ、アンダーハンドサーブ	○		○	
	5	スパイク	・助走ステップ、腕の振り	○			○
	6	基本動作の確認	・スキルチェック			○	
3次	7	三段攻撃	・安定したボール操作	○			
	9		・相手陣地の空間へ打ち返す				○
	１０	簡易ゲーム				○	
4次	１１	簡易ゲーム	・チームで目標設定し練習を工夫する		○		
	１２		・ルールを工夫してゲームを行う		○		
	１３	試合	・チームの課題を設定し練習を工夫する		○		
	１４		・試合を運営する	○			○
	１５					○	

6　本時の計画

（1）ねらい　　コート内の空いた空間に来たボールの落下地点にスムーズに移動し、ボールを上げるための準備の姿勢や落下地点の予測、ボールに身体の面を向けることなどを理解させる。

（2）授業計画

時間	学習活動	指導上の留意点	評価の計画
導入 15分	1　集合、挨拶、出欠確認 2　準備運動 〇移動 3　前時の確認と基本練習	・ボールの落下地点に入ることを意識させる ・膝をしっかり使うことを意識させる	
展開 25分	4　目標確認 本時の目標　　ボールをつなぐための動きを理解しよう 5　移動レシーブ練習 ・バウンドバケツキャッチ ・ノーバウンド ・ノーマル （前後、左右行う） 6　４人のレシーブ練習 （ワンバウンドあり、３回で返す） 発問　４人でスムーズにボールをつなぐためにどうすればいいか ・チームの考えをボードに記入し、ホワイトボードに貼る 7　チームで振り返りをする ・発表する	・準備姿勢を意識させる ・動きながら落下地点に入ることを意識させる ・面を相手に向ける事を意識させる ・遅れたときは腕の面を相手に向けることを意識させる	【A】 観察 積極的に取り組み合意形成に貢献しようとしている
まとめ 10分	8　振り返りカードを記入 〇移動 9　集合、挨拶	・怪我、体調の確認	【D】 学習カード 課題解決の方法について、理解したことを書き出している。

学習カード

Ｒ２年　　月　　日（　　）　　年　　組　　番　名前

本時の目標	ボールをつなぐための動きを理解しよう	
	うまくいったこと	できるようにしたいこと
個人		
チーム		
振り返り		
目標到達度	A　B　C　D　E	

学習カード

Ｒ２年　　月　　日（　　）　　年　　組　　番　名前

本時の目標	ボールをつなぐための動きを理解しよう	
	うまくいったこと	できるようにしたいこと
個人		
チーム		
振り返り		
目標到達度	A　B　C　D　E	

保健体育科　学習指導案

実施日時　　令和２年９月３０日（水）
場　所　　１年Ａ組　教室
授業者　　伊　藤　和　泉
クラス　　１年Ａ組
対象生徒　　２２名
（男子７名　女子１５名　計２２名）

１　単元名　　（１）現代社会と健康　イ健康の保持増進と疾病の予防　(エ)感染症とその予防

２　単元目標　　①　感染症とその予防について、課題の解決に向けての話し合いや意見交換などの学習活動に意欲的に取り組む。（関心・意欲・態度［A］）

②　感染症とその予防について、学習したことを、個人及び社会生活や事例と比較したり、分析したり、評価したりするなどしている。また、道筋を立ててそれらを説明できるようになる。（思考・判断　［B］）

③　感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること、感染症の予防には個人及び社会的な対策を行う必要があることについて、理解したことを発言したり、記述したりできるようになる。（知識・理解　［C］）

３　単元と生徒

（１）教材観　　「感染症とその予防」では、感染症の発生や流行には時代や地域によって違いが見られ、それに対応した様々な社会的な対策とともに、それらを前提とした個人の取り組みが必要があることを理解することが大切である。

（２）生徒観　　男子７名、女子１５名。とても静かなクラスだが、グループでの活動では、意欲的に意見を出す活発な生徒もいる。

（３）指導観　　今世界中がコロナウイルスにより大きな影響を受けている。秋田県は首都圏に比べて被害や影響は少ないが、これから先また未知のウイルス発生によって世界中が混乱することがあるかもしれない。そこで自分や自分の周りの人を守るために必要な感染症対策を考えさせ、社会全体が行う対策、個人で行う対策どちらも大切だが、まずは自分でできる対策を確実に行う事が大切であることを理解させたい。

４　指導計画　　エ　感染症とその予防・・・３時間　　「感染症とその予防」（本時３/３）

５　単元計画

	１時間目	２時間目	３時間目（本時）
内容	主な感染症の種類と感染症の広まり方について理解させる。	新興感染症や再興感染症の流行原因について理解させる。	感染症の予防の基本と変化している感染症に対しての個人的、社会的な対策を考え社会的な対策を前提とした個人の対策が大切であることを理解させる。

6　本時の計画

（1）　ねらい　　変化している感染症についての対策を考え、個人で行う対策の重要性を理解させる。

（2）授業計画

	学習活動	指導上の留意点	評価
導入7分	1　前回の学習を確認する。 ・本時の目標を確認する。	・前回の学習を確認させる。 ・本時の目標を掲示し、確認させる。	
	本時の目標　：私たちにとって大切な感染症対策を理解しよう。		
展開38分	2　対策について個人で考える。	・前時に行った感染症の流行原因から対策を考えるように指示する。	
	3　感染症を防ぐ基本を確認する。	・感染症を防ぐ基本を確認し、自分の考えた対策を分類させる。 ①　感染源対策 ②　感染経路対策 ③　感受性者対策	観察 [A]
	4　グループで対策を話し合う。	・生徒の様子を確認しながら、机間支援をする。	
	5　グループごとに発表する。		
	6　今の自分ができることを考える。	・実生活で自分ができることを考えさせる。	
まとめ5分	7　振り返りを書く。	・感染症の予防には様々な取り組みがあり、どれも必要なことだが、まずは１人１人が個人でできる対策を行うことが重要であることを理解させる。	プリント [C]

「協議の視点」

感染症の予防について中学校での学習を踏まえ、より広い視野でとえさせるためにどのようにすればよいか。

保健体育科　学習指導案

実施日時　　令和２年１２月１８日（金）
場　　所　　１年Ｂ組　　教室
授業者　　伊　藤　和　泉
クラス　　１年Ｂ組
対象生徒　　２２名
（男子７名　女子１５名　計２２名）

１　単元名　　（１）現代社会と健康　　エ　交通安全　　（ア）交通事故の現状

２　単元目標　　①　交通事故の現状や交通社会で必要な資質と責任について、資料を活用して学習活動に意欲的に取り組もうとしている。（関心・意欲・態度　[A]）

②　交通事故の現状や交通社会で必要な資質と責任について、資料等で調べたことを基に発見した課題を整理したりするなどして、それらを説明している。（思考・判断・表現　[B]）

③　交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行などの適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備などが関わること、交通事故には責任や補償問題が生じることについて、理解したことを発言したり、記述したりしている。（知識・理解　[C]）

３　単元と生徒

（１）教材観　　高校生は運転免許を取得できる年齢になることから、交通事故の被害者にも加害者にもなりうる可能性を理解させることが求められる。加害者にならないために、本単元ではわが国の交通事故の現状を知り、交通事故は車両の特性、当事者の行動や規範意識、周囲の環境などが関連していることを理解できるようにする。

（２）生徒観　　男子７名、女子１５名。意欲的に意見を出す活発な生徒がいる。グループ活動も意欲的にできる。特に支援を必要とする生徒はいない。

（３）指導観　　高校在学中に免許取得可能年齢になる。今までは他人事だった自動車の事故も被害者から加害者になる可能性が出てくることをしっかり考えさせたい。そして１つの事故には様々な要因が重なり合っているという背景に気づかせることができる授業にしたい。

４　単元の指導　　交通安全・・・３時間　　「交通事故の現状と要因」（本時１/３）

	１時間目（本時）	２時間目	３時間目
内容	交通事故の事例から、発生要因を主体・車両・環境要因の３つが関連していることを理解させる。	運転者に必要な資質と運転者の責任と補償について理解させる。	安全な社会づくりについて個人及び社会でできる対策を理解させる。

５　単元の評価規準

関心・意欲・態度［A］	思考・判断・表現　［B］	知識・理解　［C］
交通事故の現状や交通社会で必要な資質と責任について資料を探したり、見たり、読んだりするなどの学習活動に意欲的に取り組もうとしている。	交通事故の現状や交通社会で必要な資質と責任について、資料等で調べたことを基に、課題を見付けたり、整理したりするなどしてそれらを説明している。	交通事故を防止するには、車両の特性、当事者の意識や行動、周囲の環境が関連していることについて理解したことを発言したり、記述したりしている。

6　本時の計画

（1）　ねらい　　資料の読み取りを通して、交通事故にはさまざまな要因（主体・車両・環境）があり、それらが関連し合い事故が発生していることを理解させる。

（2）授業計画

	学習活動	指導上の留意点	評価
導入7分	1　交通事故の現状を確認する。 ・本時の目標を確認する。 本時の目標　：交通事故が起こる要因を理解しよう	・令和元年交通事故死者数のグラフで確認させる。 ・本時の目標を掲示し、確認させる。	
展開38分	2　事例から交通事故の要因を書き出す。 3　グループで類似の要因をまとめ分類する。 4　分類を確認する。 5　関連している要因を線で結ぶ。	・文章と図から分析し、要因を考えさせる。 ・生徒の様子を確認しながら、机間支援をする。 ・３つの要因を確認させる。 （主体要因、車両要因、環境要因） ・3つの要因が関連し合っていることを確認させる。	観察[A]
まとめ5分	6　振り返りを書く。	・１つの交通事故には主体要因、車両要因、環境要因が関わり合って起っていることを理解させる。	プリント[C]

令和２年度高等学校初任者研修「校内研修実施報告書」

学校番号　（　６　）　学校名（ 大館国際情報学院 ）高等学校
初任者氏名　　（　内藤さゆみ　）

実施月日（曜日）	研修内容	領域	研修方法・形態	時間割内・放課後の区別 内	放	研修時間		研修指導者
4/2 （木）	初任者オリエンテーション	②	講義		4	4		研究部主任、指導教員
4/8 （水）	生徒の健康管理	②	講義		3	3	○	保健主事
4/10 （金）	教材研究の進め方Ⅰ	④	講義		4	4		教科指導員
4/13 （月）	年間学習指導計画の作成	④	協議	4		4		教科指導員
4/28 （火）	本校の教育目標、経営方針と教員としての使命感	①	講義		3	3		校長
4/28 （火）	校内組織と服務規程	②	講義		3	3		教頭
5/1 （金）	諸表簿及び公文書の手引き	②	講義		3	3		事務長
5/27 （水）	授業参観と研究協議Ⅰ	④	授業参観	4		4		教科指導員、国語科
6/2 （火）	生徒指導の現状と課題	③	講義	4		4	○	生徒指導主事
6/3 （水）	生徒の学力の実態把握	④	講義	3		3		教科指導員
6/8 （火）	学校行事と年間計画	②	講義	4		4	○	総務主任
6/15 （火）	示範授業Ⅰ	④	示範授業	4		4		教科指導員、国語科
6/25 （金）	教材の精選と活用	④	講義	4		4		教科指導員
6/26 （金）	学習指導案の作成Ⅰ	④	協議	7		7		教科指導員、国語科
7/8 （水）	ホームルーム経営上の問題点と留意点①	②	講義	3		3		１年部主任
7/10 （金）	研究授業と反省・協議Ⅰ	④	研究授業	7		7		教科指導員、国語科
7/14 （火）	学校図書館の在り方と利用状況	②	講義	3		3	○	図書部主任
7/15 （水）	本校の教育課程	②	講義	4		4	○	教務主任
7/17 （金）	本校の進路動向と進路指導の進め方	①	講義	4		4	○	進路指導主事
7/20 （月）	カウンセリングの在り方	③	講義	5		5		生徒指導部、養護教諭
7/31 （金）	個に応じた学習指導の工夫	④	講義		4	4		教科指導員
8/3 （月）	評価方法と評価規準	④	講義		3	3		教科指導員
9/23 （水）	考査問題の作成と評価Ⅰ	④	協議	4		4		教科指導員
10/2 （金）	学習指導案の作成Ⅱ	④	協議	7		7		教科指導員、国語科
10/13 （火）	研究授業と反省・協議Ⅱ	④	研究授業	7		7		教科指導員、国語科
11/19 （木）	問題行動の事例研究と懲戒指導	③	講義	4		4	○	生徒指導主事
11/20 （金）	ＰＴＡの組織と運営	②	講義	3		3	○	総務主任
11/24 （火）	学年部の体制とホームルーム経営	②	講義	3		3		２年部主任
11/25 （水）	就職者・進学者への援助	①	講義	4		4	○	進路指導主事
11/25 （水）	学校保健安全と保健組織	②	講義	3		3	○	保健主事
12/1 （火）	生徒会活動の現状と運営	②	講義	4		4	○	特活主任
12/7 （月）	情報機器の活用について	②	講義	3		3	○	情報部主任
12/10 （木）	授業参観と研究協議Ⅲ	④	授業参観	4		4		教科指導員、国語科
12/11 （金）	学力と学習実態の関係と課題	①	講義	4		4	○	教務主任
12/14 （月）	ホームルーム経営上の問題点と留意点②	②	講義	3		3		３年部主任
12/15 （火）	学習指導案の作成Ⅲ	④	協議	7		7		教科指導員、国語科
12/17 （木）	研究授業と反省・協議Ⅲ	④	研究授業	7		7		他教科
1/21 （木）	国際情報科の特色と目標	②	講義	3		3	○	国際情報科主任
1/29 （金）	授業参観と研究協議Ⅱ	④	授業参観	4		4		他教科
1/29 （金）	授業参観と研究協議Ⅴ	④	授業参観	4		4		他教科
2/1 （月）	教材研究の進め方Ⅱ	④	講義	4		4		教科指導員
2/3 （水）	示範授業Ⅱ	④	示範授業	4		4		教科指導員
2/3 （水）	進路の実態把握と進路指導の課題	①	講義	5		5	○	進路指導主事
2/4 （木）	授業参観と研究協議Ⅳ	④	授業参観	4		4		教科指導員、国語科
2/8 （月）	授業研修と実施Ⅰ	④	授業研究	4		4		教科指導員
2/10 （水）	授業参観と研究協議Ⅵ	④	授業参観	4		4		教科指導員、国語科
2/11 （木）	学習指導案の作成Ⅳ	④	協議	7		7		教科指導員
2/12 （金）	授業参観と研究協議Ⅶ	④	授業参観	4		4		教科指導員、国語科
2/15 （月）	考査問題の作成と評価Ⅱ	④	協議	4		4		教科指導員
2/15 （月）	研究授業と反省・協議Ⅳ	④	研究授業	7		7		教科指導員、国語科
2/16 （火）	授業研修と実施Ⅱ	④	授業研究	4		4		教科指導員
2/19 （金）	本校の６年間プログラムの理解	④	講義	3		3		教科指導員
2/19 （金）	生徒指導要録の理解と取扱い	②	講義	4		4	○	教務主任
2/22 （月）	学校祭への参加、意義の理解	②	講義	4		4	○	特活主任
2/24 （水）	部活動等の進め方	②	講義	3		3	○	特活主任
3/3 （水）	教科研修の成果と課題	④	講義	7		7		教科指導員
3/4 （木）	研修を振り返って	①	協議	5		5		研究部主任、指導教員

集計表

初任者氏名	実施日数合計	領域ごとの研修時間数 ①	②	③	④	時間割内研修時間計（ａ）	放課後研修時間計（ｂ）	研修時間合計（ａ＋ｂ）	主として指導教員が行う研修時間計	主として教科指導員が行う研修時間計	主としてその他の教員が行う研修時間計
内藤さゆみ	57	25	60	13	144	215	27	242	9	129	104

①基礎的素養　②マネジメント能力　③生徒指導力　④教科等指導力

第３学年　「現代文Ｂ」　学習指導案

実　施　日：令和２年７月１０日（金）
ク　ラ　ス：３年Ａ組　理数コース
使用教科書：「改訂版　現代文Ｂ」（数研出版）
授　業　者：内藤　さゆみ
場　　所：３年Ａ組教室

１．単元名　「『である』ことと『する』こと」(使用教科書：「改訂版　現代文Ｂ」数研出版)

２．単元の目標

(1)「である」と「する」の対比に着目し、意欲的に筆者の主張を読み取ろうとしている。(関心・意欲・態度)

(2)各段落の内容をおさえ、筆者の主張を理解することができる。(読む能力)

(3)語句の意味や用法を理解し、語彙を豊かにすることができる。(知識・理解)

３．評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
「である」と「する」の対比に着目して筆者の主張を理解しようとしている。	各段落の内容をおさえ、筆者の主張を理解している。	文中の語句の意味や用法を正しく理解している。

４．単元と生徒

(1)生徒観　３年Ａ組　理数コース　２２名

学習に対する意欲があり、他者との対話を通して考えを深めていくことができる生徒たちである。授業の中では、指示語や接続語などを丁寧に見ながら筆者の主張に迫っていくようにしてきた。

(2)教材観

「である」と「する」という二つの図式に着目させ、筆者の述べる社会の構造や歴史について読み取らせたい。

５．全体計画(全１０時間)

第１～９時　本文の読解(本時第１時)

第１０時　　まとめ

６．本時の計画

(1)本時の目標

筆者の主張を読み取り、「権利の上に眠る」とはどのようなことなのか理解することができる。

(2)学習過程

過程	生徒の学習活動	学習形態	教師の支援	評価規準 (評価の方法)
導入 (10)	１　「『権利の上に眠る者』」を通読する。	一斉	・形式段落ごとに生徒を指名し、音読させる。 ・読み方や意味が分からない語句にふりがなや印をつけながら聴くように助言する。	

展開 (30)	2　本時の目標を確認する。 筆者の主張を読み取り、「権利の上に眠る」とはどういうことなのか考えよう。			
	3　本文に出てきた権利や制度の例を三つ挙げる。	ペア ↓ 全体	・各形式段落の内容に注目するよう助言する。 ・指名して発表させ、全体で確認する。	
	4　「時効」、「日本国憲法」、「自由」の例を通して筆者が述べようとしていることを一文にまとめる。	個人 ↓ グループ ↓ 全体	・筆者が三つの例を通して一つのことを述べていると気付かせる。 ・各グループから出たまとめをもとに、筆者の主張を確認する。	筆者の主張を読み取ろうとしている。 【関心・意欲・態度】 (机間巡視)
まとめ (10)	5　「権利の上に眠る」とはどのようなことかを説明する。	個人	・筆者の主張を踏まえて考えるよう指示する。	「権利の上に眠る」とはどういうことか説明することができる。 【読む能力】 (ワークシート)
	6　次回の予告をする。	一斉		

第２学年　「古典Ｂ」　学習指導案

実　施　日：令和２年１２月１７日（木）１校時
ク　ラ　ス：２年Ａ・Ｂ組　理数コース
使用教科書：「新 探求古典Ｂ 古文編」(桐原書店)
授　業　者：内藤　さゆみ
場　　所：２年Ａ組教室

１．単元名　文章に基づいて心情を捉える（教材名：『大鏡』「道長と伊周の競射」）

２．単元の目標

(1)文章に基づいて登場人物の心情を的確に捉えようとしている。(関心・意欲・態度)
(2)文章の内容を的確に捉え、登場人物の心情を読み取ることができる。(読む能力)
(3)敬語表現に留意して正しく現代語訳することができる。(知識・理解)

３．評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
本文に基づいて登場人物の心情を捉えようとしている。	本文に基づいて登場人物の心情を的確に捉えている。	敬語の意味を持つ語句と現代語訳の仕方を理解している。

４．単元と生徒

(1)生徒観　２年Ａ・Ｂ組　理数コース　３１名

学習意欲があり、自ら全体に向けて発言したり、他者の発言を受けて考えを深めたりすることができる生徒である。古典に苦手意識を持つ生徒もいるが、分からないことは周囲に聞いて解決しようとする姿勢がある。

(2)教材観

藤原伊周との競射のエピソードを通じて藤原道長の人格を表現する物語である。競射を見ている藤原道隆の心情が、発言や表情を通じて描かれている。当時の政治的関係も踏まえながら、正確な現代語訳に基づいて道隆の心情を読み取らせたい。そして道隆の心情や伊周の様子との対照から道長の豪胆さを捉えさせたい。

５．本時の計画(４／６時)

(1)本時の目標

本文をもとにして、道長と伊周の競射を見る道隆の心情を捉える。

(2)学習過程

過程	生徒の学習活動	学習形態	教師の支援	評価規準(評価の方法)
導入(5)	1　本文を音読する。	ペア	・ペアで一文ずつ交代で音読させる。 ・互いに正確に読めているか確認しながら読むよう指示する。	
展開(40)	2　本時の目標を確認する。 道長と伊周の競射を見ている道隆の心情を捉えよう。			
	3　道長と伊周の矢を射ったときの様子と結果を整理する。	全体	・道長と伊周の様子と結果を、対比する形で黒板に整理する。	

	発問：「色青くなりぬ」における道隆の心情はどのようなものだったか。			
	4　「色青くなりぬ」における道隆の心情を考える。	個人 ↓	・「顔が真っ青になった」という表現に着目して考えさせる。	
	5　考えたことを全体に共有する。	全体	・道長と伊周の差を目の当たりにした道隆が大きなショックを受けたことに気づかせる。 ・	
	6　伊周が道長に劣ったことが、道隆の顔が真っ青になるほどのことである理由を考える。	個人 ↓ ペア	道長と伊周の関係や、道長の宣言に着目して考えさせる。	
	7　考えたことを全体に共有する。	全体	・共有した内容を補足しながら、道隆の顔が真っ青になった理由を確認させる。	
	8　「色青くなりぬ」における道隆の心情をまとめる。 9　考えたことを全体に共有する。	個人 ↓ 全体	・道隆が大きなショックを受けた原因を踏まえてまとめるよう助言する。	「色青くなりぬ」における道隆の心情を、本文を根拠に考え、まとめることができる。 【読む能力】 (机間指導・ワークシート)
結末 (5)	8　次回の予告をする。	一斉		

第２学年　「古典Ｂ」　学習指導案

実　施　日：令和３年３月４日（木）３校時
ク　ラ　ス：２年Ａ・Ｂ組　理数コース
使用教科書：「新 探求古典Ｂ 古文編」(桐原書店)
授　業　者：内藤　さゆみ
場　　所：２年Ａ組教室

１．単元名　『源氏物語』に触れる

２．単元の目標

(１)人物の置かれた状況や心情に関心を持ち、意欲的に考えようとしている。(関心・意欲・態度)
(２)本文をもとにして、人物が置かれた状況や心情を的確に捉えることができる。(読む能力)
(３)当時の時代背景を踏まえて本文の内容を捉えることができる。(知識・理解)

３．評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
人物の置かれた状況や心情について、意欲的に考えようとしている。	人物の置かれた状況や心情を、本文をもとに考えてまとめることができる。	当時の時代背景を踏まえて、本文の内容を捉えることができる。

４．単元と生徒

(１)生徒観　２年Ａ・Ｂ組　理数コース　３１名

学習意欲はあるものの、古典、特に文法に苦手意識を持つ生徒が多い。しかし、内容について考えたことを自ら全体に向けて発言したり、他者の発言を受けて考えを深めたりすることはできる生徒である。分からないことがあれば周囲に聞いて解決しようとする姿勢がある。

(２)教材観　『源氏物語』「光源氏の誕生」

『源氏物語』は、平安文学を代表する作品である。「光源氏の誕生」はその冒頭部分であり、桐壺帝と桐壺更衣の悲恋が描かれている。文法や表現の面で読みにくさがあるほか時代背景などの知識も求められるため、決して平易な文章であるとは言えないが、内容に着目させることでストーリーのおもしろさを感じさせたい。

５．本時の計画(２／５時)

(１)本時の目標

桐壺帝と桐壺更衣の関係と、その周囲の人物の心情を理解することができる。

(２)学習過程

過程	生徒の学習活動	学習形態	教師の支援	評価規準(評価の方法)
導入(5)	１　本文を音読する。	ペア	・ペアで一文ずつ交代で音読させる。 ・互いに正確に読めているか確認しながら読むよう指示する。	
展開(40)	２　本時の目標を確認する。 桐壺帝と桐壺更衣の関係と、その周囲の人物の心情を捉えよう。	全体		

	3　本文の流れを確認する。	全体	・本文と現代語訳を照らし合わせながら、内容を確認する。 ・重要な文法について説明する。	
	4　１文目をもとに、物語の前提となる状況を捉える。	全体	・「中宮」、「女御」、「更衣」について説明し、桐壺更衣が大きな寵愛を受けたということの意味を捉えさせる。	
	主発問：周囲の人物は桐壺帝と桐壺更衣に対してどのような思いを持っていただろうか。			
	5　女御と更衣の心情を、本文に基づいてまとめる。	個人 ↓ 全体	・女御と更衣の心情が現れている部分を確認し、それぞれ現代語でプリントに書かせる。	
	6　更衣がなぜ「なおさら穏やかでない」気持ちであるのか考える。	個人 ↓ ペア ↓ 全体	・「更衣」という身分や、女御に比べて「なおさら」と言われていることに着目して考えさせる。	更衣が「なおさら穏やかでない」心情である理由を考え、まとめることができる。【読む能力】 (机間指導・プリント)
	7　世間の人々の心情を捉える。	全体	・「唐土にも…悪しかりけれ」について説明し、世間の人々がどのような思いで桐壺帝と桐壺更衣を見ていたのか考えさせる。	
	8　桐壺更衣を取り巻く状況を確認する。	全体	・帝の寵愛が元になって桐壺更衣が厳しい状況に置かれているということを図示する。	
まとめ (5)	9　次回の予告をする。	一斉		

第２学年　「古典Ｂ」　学習指導案

実　施　日：令和２年１０月１３日（火）４校時
ク　ラ　ス：２年Ａ・Ｂ組　理数コース
使用教科書：「新 探求古典Ｂ 漢文編」(桐原書店)
授　業　者：内藤　さゆみ
場　　所：２年Ａ組教室

１．単元名　漢文の文章を鑑賞する

２．単元の目標

(1)漢文の文章を意欲的に鑑賞しようとする。(関心・意欲・態度)
(2)「桃花源」がどのようなところか、本文をもとに読み取ることができる。(読む能力)
(3)句形や語句の意味を適切に理解することができる。(知識・理解)

３．評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
理想として描かれている世界について、意欲的に考えようとしている。	理想として描かれている世界がどのようなものか、本文をもとに考えてまとめることができる。	句形や語句の適切な理解をもとにして、本文の内容を捉えることができる。

４．単元と生徒

(1)生徒観　２年Ａ・Ｂ組　理数コース　３１名

学習意欲があり、自ら全体に向けて発言したり、他者の発言を受けて考えを深めたりすることができる生徒である。古典に苦手意識を持つ生徒もいるが、分からないことは周囲に聞いて解決しようとする姿勢がある。

(2)教材観　『桃花源記』

生徒がこれまで読んできたものに比べて長い文章ではあるものの、展開はわかりやすく、読みやすい文章である。正確な内容把握の上で、描かれている内容について考えさせたい。

５．本時の計画(３／５時)

(1)本時の目標

「桃花源」がどのようなところなのか、本文をもとにして考える。

(2)学習過程

過程	生徒の学習活動	学習形態	教師の支援	評価規準(評価の方法)
導入(5)	1　本文を音読する。	ペア	・ペアで一文ずつ交代で音読させる。 ・互いに正確に読めているか確認しながら読むよう指示する。	
展開(35)	2　本時の目標を確認する。 「桃花源」の様子について整理し、どのようなところなのかを捉えよう。			

	3　「桃花源」の風景と人々の生活について整理する。	個人 ↓ ペア ↓ 全体	・本文から読み取れることを箇条書きにして整理するよう伝える。 ・見つけられない生徒には該当箇所を例示して考えさせる。	
	発問：「桃花源」はどのようなところなのか、ひとことで説明してみよう。			
	4　「桃花源」がどのようなところなのかを考え、まとめる。 5　ペアで話し合い、意見を交換する。 6　全体に向けて発表し、考えを共有する。 7　「桃花源」がどのような思いから成立したところなのかを確認する。	個人 ↓ ペア ↓ 全体 全体	・箇条書きにして整理した「桃花源」についての具体的な情報をもとにして抽象化して表現するよう助言する。 ・自分に無かった考えや話し合いの中で気づいたことをカラーペンでメモするよう助言する。 ・数名を指名し、どのように表現したかを根拠とともに発表させる。 ・「乱れた世から逃れたい」という理想を叶えた場所だということを確認する。	「桃花源」がどのようなところか、本文を根拠に考え、まとめることができる。 【読む能力】 (机間指導・ワークシート)
まとめ (10)	8　「桃花源」についてまとめたことを受けて感想を書く。 9　次回の予告をする。	個人 一斉	・自分が理想とする世界と「桃花源」を比較し、違いや共通点について考えるよう助言する。	

実践的指導力習得研修の記録

令和　２　年度　実践的指導力習得研修　　１　年目

年間研修実施報告書

学　校　名（　秋田県 立　大館国際情報学院 高等学校　）
研修教員名（ 金野　拓真 ）
担当教員の職・氏名（　研究部主任　・　大澤　太　）

実施月日（曜日）	研修内容	領域	研修方法・形態	研修時間	主な研修指導者
4/21（火）	実践研のガイダンス	①	講義	1	研究部　大澤　太先生
4/21（火）	年度当初の担任業務について	②	講義	1	奈良　紳也先生
5/15（金）	教材研究の在り方	④	講義	1	佐藤　興先生
6/10（水）	２年部運営の配慮事項	②	講義	1	２年部　佐藤　敦史先生
6/15（月）	感染症の予防と対策方法	②	講義	1	保健部　小笠原　祐子先生
7/7（火）	１年部運営の配慮事項	②	講義	1	１年部　信太　譲先生
8/25（火）	専門科目を学ぶ意義	③	講義	1	中嶋　忠宗先生
9/30（水）	感染症流行時の特活行事	①	講義	1	特別活動部　新林　美保先生
10/2（金）	新入試に向けての指導	③	講義	1	進路指導部　赤坂　俊彦先生
11/4（水）	職員会議の設置と運営	①	講義	1	総務部　桜庭　靖仁先生
11/26（金）	学習指導案の作成	④	講義	1	佐藤　興先生
12/14（月）	長期休業前の生徒指導	③	講義	1	生徒指導部　成田　政徳先生
1/19（火）	学習指導案の検討	④	協議	1	佐藤　興先生
1/29（金）	研究授業	④	演習	1	佐藤　興先生
1/29（金）	授業検討会	④	協議	1	佐藤　興先生

（集計表）

研修教員名	実施日数合計	領域ごとの研修時数				研修時数合計
		①	②	③	④	
金野　拓真	15	3	4	3	5	15

①基礎的素養　②マネジメント能力　③生徒指導力　④教科等指導力

今年度の研修を終えて	次年度の見通し（２年目は斜線を引くこと。）
昨年度の教科研修の課題であった、保健体育の授業においてＩＣＴ機器を活用するということを実践研では行うことができた。生徒が主体的に活動し、仲間と共に学びを深められるような探究型の授業となるよう努めた。また、一般研修では、様々な講義を通して、学校の中での役割というものを改めて考えることのできる良い研修となった。	

年間研修実施報告書

学　校　名（　　秋田県 立　大館国際情報学院 高等学校　）
研修教員名（ 石崎　諒 ）
担当教員の職・氏名（　　教 諭　　・　　大澤　太　　）

実施月日（曜日）	研修内容	領域	研修方法・形態	研修時間	主な研修指導者
4/21（火）	実践研のガイダンス	①	講義	1	研修部　大澤　太先生
4/21（火）	年度当初の担任業務について	②	講義	1	奈良　紳也先生
5/15（金）	教材研究の在り方	④	講義	1	櫻庭　由紀子先生
6/10（水）	２年部運営の配慮事項	②	講義	1	２年部　佐藤　敦史先生
6/15（月）	感染症の予防と対策方法	②	講義	1	保健部　小笠原祐子先生
7/7（火）	１年部運営の配慮事項	②	講義	1	１年部　信太　譲先生
7/17（金）	学習指導案の作成	④	講義	1	櫻庭　由紀子先生
8/25（火）	国際情報科の就職指導	③	講義	1	中嶋　忠宗先生
8/26（水）	学習指導案の検討	④	協議	1	櫻庭　由紀子先生
9/30（水）	感染症流行時の特活行事	①	講義	1	特別活動部　新林　美保先生
10/2（金）	新入試に向けての指導	③	講義	1	進路指導部　赤坂　俊彦先生
10/20（火）	研究授業	④	演習	1	櫻庭　由紀子先生
10/20（火）	授業検討会	④	協議	1	櫻庭　由紀子先生
11/4（水）	職員会議の設置と運営	①	講義	1	総務部　桜庭　靖仁先生
12/14（月）	長期休業前の生徒指導	③	講義	1	生徒指導部　成田　政徳先生

（集計表）

研修教員名	実施日数合計	領域ごとの研修時数				研修時数合計
		①	②	③	④	
石崎　諒	15	3	4	3	5	15

①基礎的素養　②マネジメント能力　③生徒指導力　④教科等指導力

今年度の研修を終えて	次年度の見通し（２年目は斜線を引くこと。）
教科研修においては，研究授業を数学Ａの「整数の性質」で行ったが，「生徒の意見を取り入れて，まとめに持って行くこと」と「ＩＣＴを活用して，効率よく授業を行うこと」の２点に課題を感じた。次年度も、研究授業を行い、授業力を高めたい。	